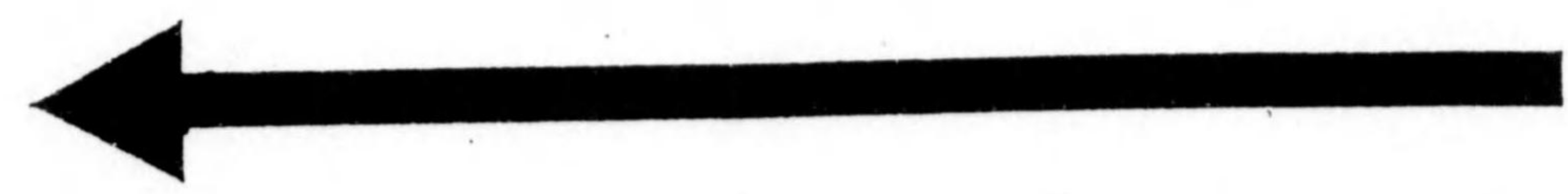


14. 2□-149
1200501167505

14.2□
149



始



昭和八年
大阪貿易彙纂

大阪府立貿易館



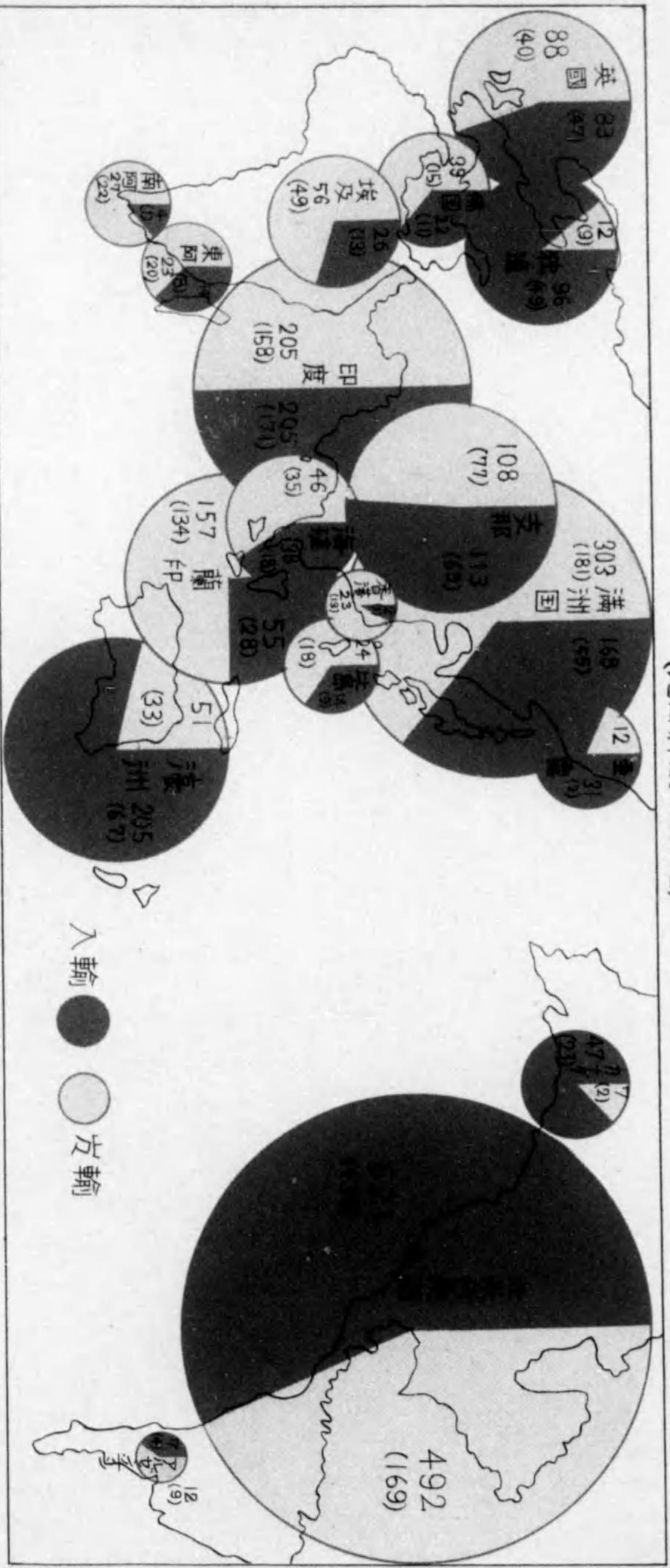
大阪貿易彙纂



發行所寄贈本

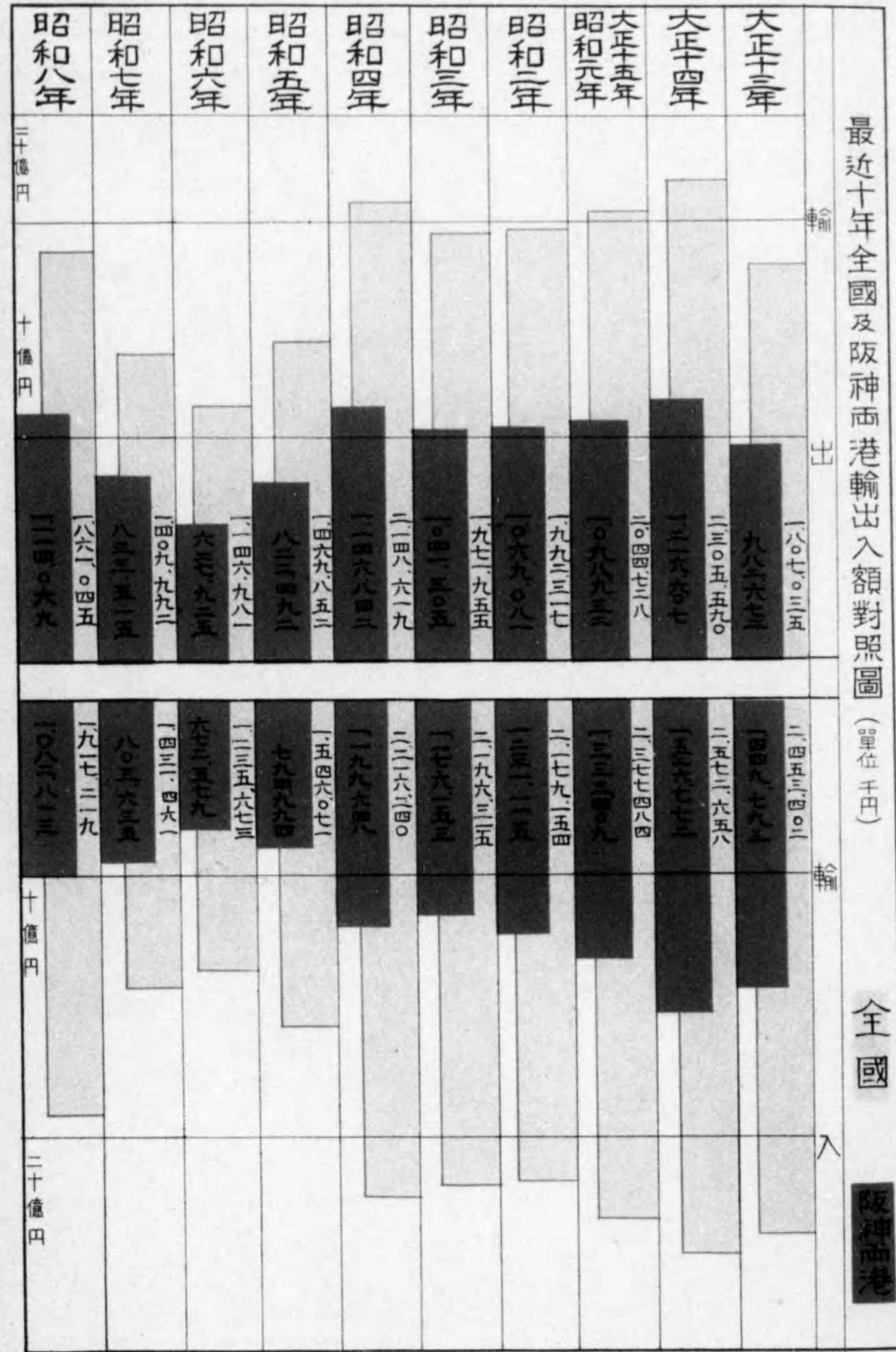
表 照對入出輸國手相要主對邦本

（元々含ヲ灣台及鮮朝年八和昭
 内單位單字數入記
 港而神阪、内弧括）

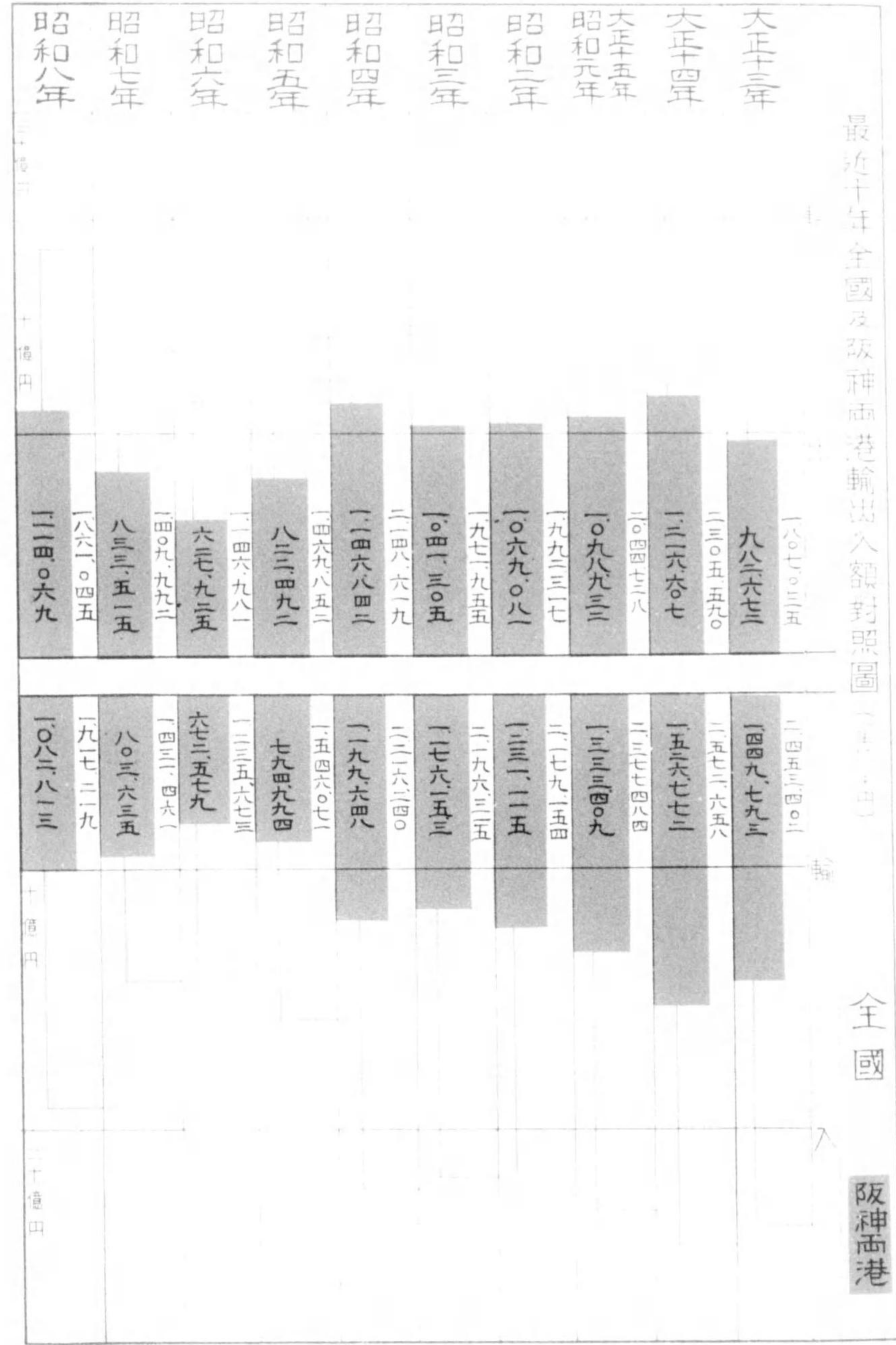


大坂貿易株式會社
 大坂市東區東船場
 昭和八年八月

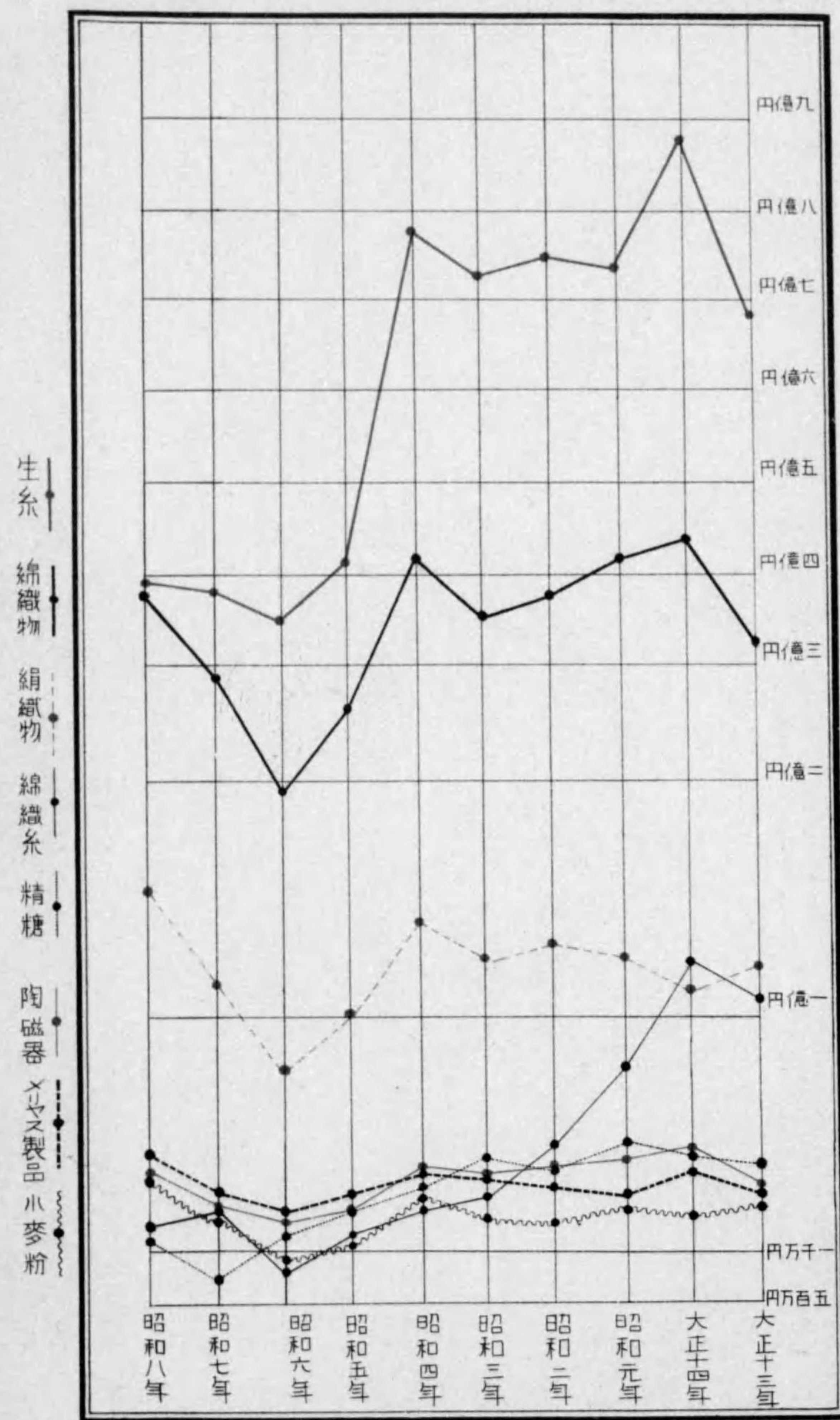
露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

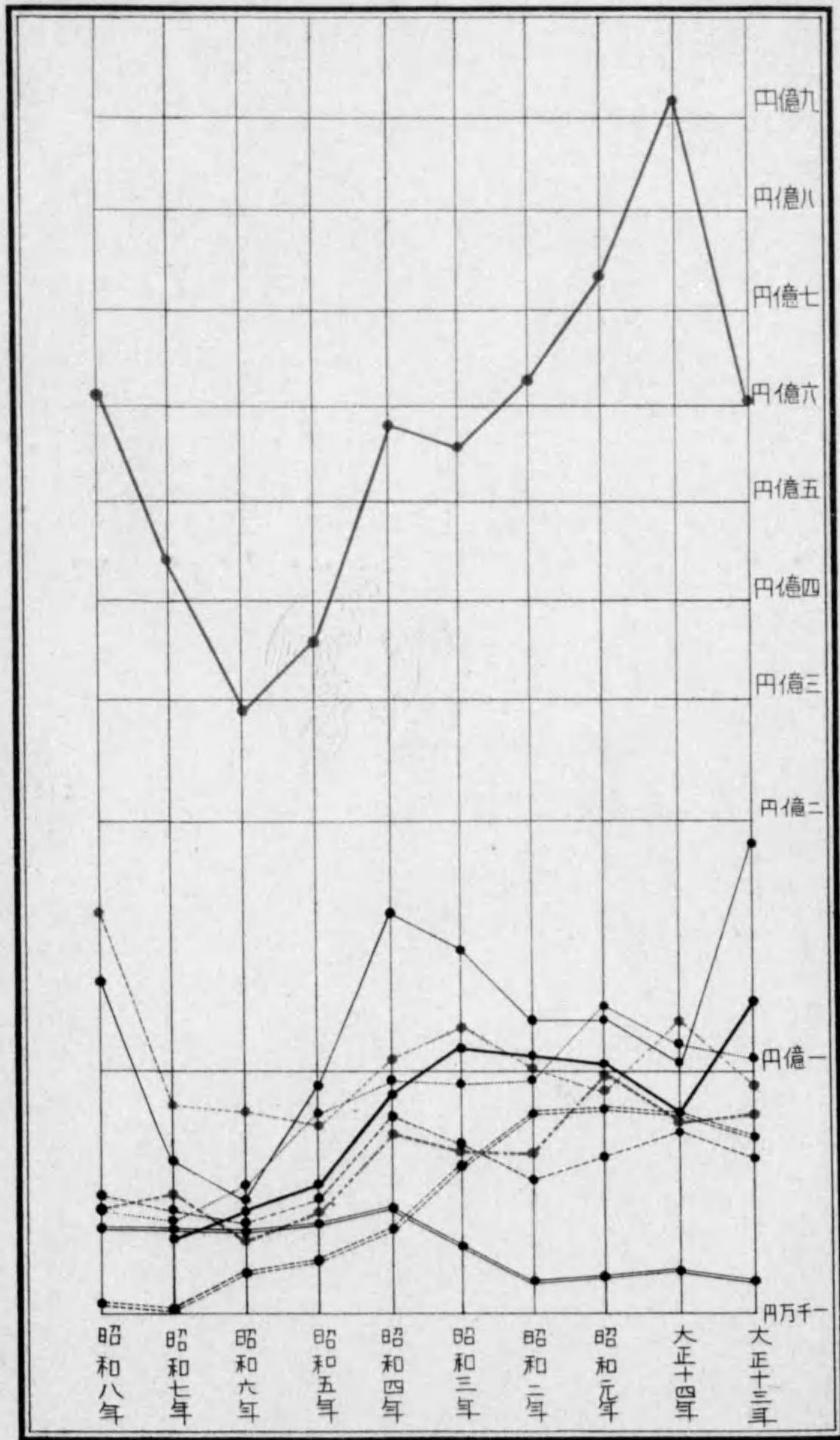


表移推年累品出輸要東國全



全國重要輸入品年推移表

綿花
 鐵類
 肥料
 木材
 羊毛
 豆類
 小麥
 砂糖
 石油



142-149
口

凡 例

- 一、本書は昭和八年に於ける阪神兩港の重要輸出入品の概況を叙述す
 - 二、叙述のために採録の商品は阪神兩港に於て輸出又は輸入年額二百萬圓以上のものを標準としたり
 - 三、卷末の大坂港及神戸港輸出入國別表は本館の特別調査に係るものにして江湖の資料として其價值大なるを信ず、第二章、第二節叙述の品目に關しても本表を参照せられんことを望む
- 尚類別見出を各頁に記し檢出の便に資す。

年計表に使用せる國別名表示例左の如し。

滿—滿洲、支北—支那北部、支中—支那中部、支南—支那南部、關—關東州、香—香港、印—英領印度、海—海峽殖民地、ポ—英領ポルネオ、蘭—蘭領東印度、フ—佛領印度支那、ソ—露領亞細亞、比—比律賓、暹—暹羅、ア—アデン、細—其他亞細亞諸國、英—英吉利、佛—佛蘭西、獨—獨逸、白—白耳義、伊—伊太利、瑞—瑞西、奧—奧地利、チ—チエコスロバキア、和—和蘭、典—瑞典、露—露西亞、波—波蘭、西—西班牙、丁—丁抹、希—希臘、土—土耳其、葡—葡萄牙、歐—其他の歐洲諸國、合—米國、加—加奈陀、北米—其他北米諸國、墨—墨西哥、珠—珠馬、サ—サルヴァドル、パ—パナマ運河地帯、中米—其他中米諸國、秘—秘露、智—智利、亞—アルゼンチン、伯—ブラヂル、ウ—ウルグアイ、南米—其他南米諸國、埃—埃及、阿—南阿聯邦、東—東部アフリカ、弗—其他のアフリカ諸國、濠—濠洲、新—新西蘭、布—布哇、其他—以上に國名なきもの、工—保税工場、指—指圖式

昭和九年十二月 大阪府立貿易館

昭和八年 大阪貿易彙纂

目次

第一章 第一節 總說 一

第二章 第二節 本年度本邦貿易概勢 三

 a、國別貿易概況 五

 b、品種別貿易概況 三

第三章 第一節 主要相手國別貿易概況 三

 a、中華民國(香港を除く) 三

 b、滿洲國(關東州を含む) 三

 c、英領印度 二四

 d、蘭領東印度 三

 e、比律賓 二九

 f、海峽殖民地(英領馬來) 三

 g、英獨國 三

 h、佛蘭西 三

 i、佛蘭西 三

第二節 重要品輸出入概況

a、輸出品概況

 食料品

 j、米 三

 k、カナダ 四

 l、アメリカ 四

 m、濠洲 四

 小麥粉 四

 精糖 五

 寒天 五

 罐詰及罐詰食料品 五

 原料及原料用製品

 薄荷 五

 除虫菊 五

 樟腦 五

 硬油 六

 生絲 六

 綿糸 六

 全製品

 綿織物 三

絹織物	...	空
人絹織物	...	突
綿ブランケット	...	突
メリヤス製品	...	充
洋磁紙	...	吉
陶磁器	...	吉
硝子製品	...	吉
珐瑯鐵器	...	吉
護謨製品	...	吉
自轉車及同部分品(ゴムタイヤを除く)	...	吉
鈕釦	...	大
帽子	...	充
玩具	...	△
刷子	...	△
b、輸入品概況		
食料品		
米及穀	...	△
小麦	...	△
大豆	...	△
牛肉	...	△
牛乳	...	△
原料品及原料用製品	...	△

採油原料種子	...	△
牛皮及水牛皮	...	△
革類	...	△
生ゴム	...	△
硫安	...	△
棉花	...	△
麻類	...	△
羊毛	...	△
燐石	...	△
木材	...	△
油糟	...	△
苛性曹達(粗製)曹達灰及天然曹達	...	△
漆	...	△
硝子板(無色平面のもの)	...	△
合成染料	...	△
毛絲	...	△
パール	...	△
石油	...	△
貝殻	...	△
鉄	...	△
鐵(條竿、アングル型)	...	△

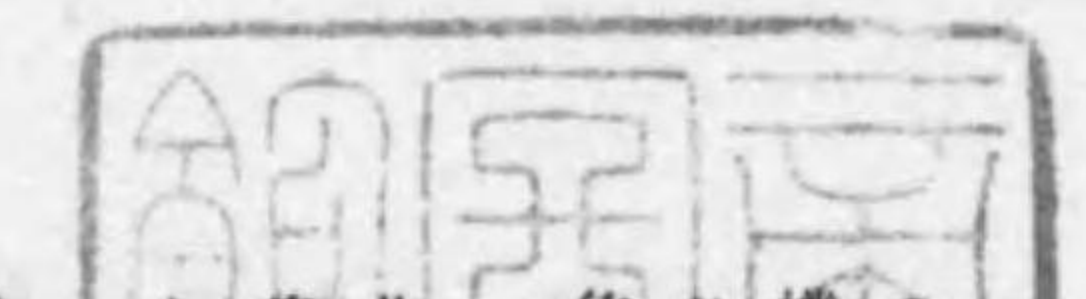
錫	力板	二三
鐵	鍍(電鍍せざるもの)	二五
ワイヤ	ロッド	二五
錫	(塊及錠)	二七
鉛	(塊及錠)	二八
アルミニウム	(塊、錠及粒)	三〇
亜鉛	(塊、錠及粒)	三一
全製物			
毛織物	三三
紡績用機械	三四
金屬工及木工機械	三五
自動車及同部分品	三五

附

大阪港輸出入年計表	一一三
神戸港輸出入年計表	一一九

昭和八年 大阪貿易彙纂

第一章 第一節 總說



自由通商より不自由通商への轉向 夫が最近國際貿易の實體であらう。昭和八年の世界經濟は之を約言すると多年の疾患をなしたる國際信用恐慌も金の偏在も將又失業者數の増加も「アメリカ」の金融恐慌又は夫の金輸出禁止を契機として徐程緩和されたか見え、此點に於て前年に比べ可成り好轉せるやに考へ得るのであるが、而も我國及「ドイツ」の聯盟脱退、國際經濟會議無期休會等に因る國際不安も無視し難く、殊に國際貿易から見て特に懸念さるべき現象は各國の非常時經濟對策としての排他的鎖國經濟主義の露骨な現れであらう。

嘗ては安くて好い商品は國境を越えていくらでも賣れたのであるが此の鐵則も「ブロック・エコノミー」其他各國の非常時對策出現で相當適用に困難を帯びる様になり、嘗て當然の事と考へられ來たつた國際分業の精神も國家經濟主義の擡頭から頗る不安定なものとなり、これが解消乃至崩壊が傳へらるゝに至り、今や國際貿易は從前の自由通商から極めて牽制された不自由通商に轉化しつゝあるやの觀をなして居る。

所謂互惠排他的な暗雲が國際貿易戰場に充滿し、各國最近貿易政策はこの意を汲んだ「ギブ・アンド・テイク」の政策が益々露骨化し來りつゝある。今其の主なるものを見ると

「イギリス」一九三一年の金本位離脱を契機として、傳統の自由通商主義を放棄して保護政策に轉換、三二年英帝國會議による英帝國「ブロック」形成後は排他的色彩益々露骨となる。

「フランス」内には植民地を叫合して大佛國「ブロック」の形成、外には廣汎なる輸入制限と關稅の引上をなし互惠排他的主義に進む。

「ドイツ」救農政策として農産物の輸入制限並關稅引上

「アメリカ」輸入制限

かうした手枷、足枷の加へられた国際貿易は勢ひ菱縮を辿るの外なく、事實最近の数字はこれを雄辯に語つて居り従來の生産と貿易の關係即ち国際貿易は生産消費間均衡の作用をなし生産の増減を來たすのが普通とされて來たのが本年は工業生産の漸次立直りを傳へられたにも拘らず貿易は依然菱縮を続けるの結果を見せこの鐵則にも狂ひを生じた様である。

昭和八年の國際貿易を我國、「イギリス」、「アメリカ」、「ドイツ」、「フランス」の五大貿易國に就き見るに我國を除いては「アメリカ」の微増を除いて「イギリス」、「フランス」、「ドイツ」何れも尠なからざる減少を示し殊に輸出の夫が甚だしい事を語り又「フランス」、「ドイツ」の如き高爲替國の輸出が國際的低爲替戰時代と言はれた本年に於て如何に困難だつたかを示して居る。

世界五大貿易額(單位:日……百萬圓・佛……百萬法・米……百萬弗)

國	年	輸出	割合	輸入	割合
日本	八	1,147	100	1,236	100
	七	1,410	133	1,431	126
	六	1,861	165	1,927	158
英國	八	454	100	861	100
	七	426	94	703	81
	六	426	94	676	79
佛國	八	30,410	100	43,199	100
	七	19,693	65	29,826	69
	六	18,434	61	28,435	66
獨逸	八	9,599	100	6,733	100
	七	5,741	60	4,699	70
	六	4,873	51	4,103	60

米國 八七六 年年年

(獨、佛は工業現勢、英、米は本邦財界情勢、日本は大藏省調査に依る。)

第二節 本年度本邦貿易概勢

我國對外貿易 金再禁止第二年を迎へた昭和八年の我國(内地及樺太)對外貿易は前年飛躍の後を享け更に一段の伸展を見せ即ち昭和六年の我が貿易額指數一〇〇に對し八年の夫は一五九を指し前年の夫に比べて四十ポイント方の上昇で、一年を通じて見る限り我が對外貿易は大體において好調であつた。この結果は我が輸出産業の依然たる活況となり他面わが軍需工業方面の殷盛と相俟つて我が産業界回復に可成りの貢獻をなした様である。

今昭和八年の我が對外貿易實績を見るに、輸出十八億六千百萬圓、輸入十九億一千七百萬圓出入共計三十七億七千八百萬圓であつて差引五千六百萬圓の入超額を見て終つたが、之を前年の夫に比べると輸出に於て四億五千二百萬圓(二二・〇%)、輸入で四億八千六百萬圓(三三・九)、夫々増加し差引超過額に於て前年の入超額二千萬圓に對し三千五百萬圓(一六一・七%)の著増を見るに至つたが、此の入超額の増加こそ前年稀有の貿易尻改善を示した後だけに相當遺憾とすべき點であらう。而してこの貿易逆調の因を與へたのは實に下半年に於ける我が貿易の逆轉に在るもので十一月早くも入超を見るに至つたが此は我が對外貿易に於ける稀らしい現象であつた。

我國對外貿易價額表(單位千圓)

(大藏省外國貿易月表に依る)

年	輸出	割合	輸入	割合	出入等計	割合	入超
昭和六年	1,146,961	100	1,356,673	100	2,503,634	100	88,692
昭和七年	1,499,953	131	1,831,462	126	3,331,415	129	32,469

八年の我が對外貿易尻が五千六百萬圓と云ふ尠なからざる入超額を示し、前年において折角回復しかつた貿易均衡へ一暗影を投ずる結果を見たが、これ實に下半年に於ける我が輸出が海外諸國の非常時經濟對策の術中に陥り、進展を見ながらも所詮、輸入の増加に及ばなかつた事に歸因するもので要之輸出の伸展力が生糸、綿製品の輸出不振から八月を頂點として漸次衰へたのに反し、年初來一進一退を續け來つた輸入が棉花、羊毛、鐵等原料品の買付増加のため八月頃から漸次回復道程を辿り十一月に入り急増したがためであつた。

即ち之を實績に求むるには八年上半期の貿易は輸出八億三千萬圓、輸入十億一千六百萬圓差引入超一億八千六百萬圓で前年同期に比べ輸出五〇・九%の増、輸入二四・五%増であつたのが下半年に及んで輸出十億三千百萬圓、輸入九億百萬圓出超一億三千萬圓を見、前年同期に比べ輸出の二〇・〇%弱増に反し輸入は四六・〇%強と激増を示し我が輸出増加の輸入増加に及ばなかつた事を語つてゐる。

本年上下二半期別貿易額(單位千圓)
 八年上半期 七年上半期 八年下半期 七年下半期
 輸出 五九、八七三 五九、七四七 一〇三、一七三 八六〇、二四五
 輸入 一〇六、三三一 八六、五九一 九〇〇、八七九 六四、九四三
 (入) 一六、四八八 (入) 三六、六三三 (出) 二三、三九四 (出) 三四、三〇三
 尚之等事情を更に明らかにするため月別貿易を見ると左表の如く輸出共前年に比べ各月共著しき増加を見せてゐる。

年	月	輸出	輸入
八年	一月	一〇七、三九九	一七、六六七
	二月	二八、九七七	一八、四八五
七年	一月	七〇、五三三	一五、九〇六
	二月	八〇、一三三	二八、三〇五

年	月	輸出	輸入
八年	三月	一四、九一五	一六、四〇四
	四月	一三、一五一	一五七、三三三
七年	三月	九、七六三	一四三、五三〇
	四月	一〇、四六四	一五二、五八五
八年	五月	一三、六六七	一八〇、五五五
	六月	一五、六八九	一七、〇〇〇
七年	五月	一〇、七六六	一七、〇〇〇
	六月	一〇、七九九	一四、〇四三
八年	七月	一五、七九二	一四、〇四三
	八月	一八、三六一	一三、〇八四
七年	七月	一六、六六二	一三、〇八四
	八月	一八、六〇七	一三、四一〇
八年	九月	一八、六〇七	一三、四一〇
	十月	一七、一七七	一三、〇〇〇
七年	九月	一七、一七七	一三、〇〇〇
	十月	一五、八六六	一六、九一六
八年	十一月	一三、六三七	一五、一三六
	十二月	一七、三三三	一八、三三八
七年	十一月	一七、三三三	一五、一三六
	十二月	一七、三三三	一六、〇六八

a 國別貿易概況

國別貿易狀況 次に我國の國別貿易狀況を見るに此處にも亦飛躍的な進展の跡が窺へるもので其の發展方向はたとへ其が我國爲替安を利しての結果からではあらうが、世界の隅々迄に行き互り殊に新興滿洲國、中米、南米、「アフ리카」への進出には實に目覺しいものがあつて、我が八年の輸出に於いて前年に比べ減少したのは日貨排斥關係から減少した支那を除くと「露領アジア」、「アデン」、「チエコスロバキア」、「オランダ」、「トルコ」、「カナダ」の六ヶ國に過ぎず他は一律に尠なからざる増加を示し又輸入に於いても「スウイス」、「オランダ」、「ポーランド」、「メキシコ」、「キューバ」、「パナマ」運河地帯、「ハワイ」の七ヶ國が減少したに過ぎなかつた。

而して八年の輸出を洲別に見ると「アジア」洲は依然輸出第一市場として其の額九億三千一百萬圓を見せ前年に比べ二億五千三百萬圓の激増を示したが、これ主として新興滿洲國への輸出激増を見た事に因るもので、其他兎角問題のあつた印度への輸出も前年より稍々増加、蘭領印度への輸出に至つては激増を示して日貨排斥に因る支那市場への輸出不振も結果に於いて何等痛痒も感ぜざるの有様であつたが、之蓋し我國爲替安による我が綿製品、人絹、其他雜

品の猛進の結果に外ならない。
 對歐輸出亦五千五百萬圓の激増を見るに至つたがこれ我が生糸、メリヤス製品、人絹織物及絹織物其他雜品の「イギリス」、「フランス」其他諸國への輸出増加に因るもので、又北米輸出増加の四千五百萬圓は罐詰食料品其他雜品の對「アメリカ」進出に因り生糸の輸出は反つて同國財界の不振、人絹の進出から前年に比べ可成りの減少を見るに至つた。

尙我が最近の輸出新市場たる中米、南米への輸出は前年に比べ著増を示したとはいへ未だ金額的には僅少たるを免れなかつた。主として綿製品其他雜品の爲替安の波に乗つての進出であつた。

「アメリカ」、大洋洲への輸出夫々五千百萬圓、一千八百萬圓の増加を示したが此れ前者はエジプトへの綿布、メリヤス製品の輸出増、後者は濠洲への絹及人絹布、綿織物、玩具、硝子製品、鐵製品の輸出増を告げたことに歸因して居る。

今八年の國別輸出額を前年の夫に對比すると左表の通りである。

國別輸出額表 (單位千圓)

國別	全國		阪神	
	八年	七年	八年	七年
亞細亞洲	2,000,000	1,670,000	4,000,000	3,600,000
滿洲	3,000,000	2,400,000	1,200,000	1,100,000
支那	1,000,000	800,000	700,000	600,000
香港	2,000,000	1,800,000	1,300,000	1,200,000
印度	2,000,000	1,900,000	1,600,000	1,500,000
海峽殖民地	400,000	350,000	300,000	250,000
英領ボルネオ	100,000	90,000	80,000	70,000
英領印度	1,500,000	1,000,000	1,300,000	1,200,000

國別	全國		阪神	
	八年	七年	八年	七年
佛領印度支那	3,600,000	2,300,000	1,900,000	1,800,000
露領亞細亞洲	2,000,000	1,500,000	1,000,000	900,000
比律賓	2,000,000	1,300,000	800,000	700,000
暹羅	1,800,000	1,200,000	700,000	600,000
アデロン	700,000	600,000	500,000	400,000
其他	2,200,000	1,500,000	1,000,000	900,000
歐羅巴洲	1,200,000	1,100,000	800,000	700,000
英國	800,000	700,000	500,000	400,000
佛國	800,000	700,000	500,000	400,000
獨逸	600,000	500,000	400,000	300,000
白耳義	700,000	600,000	400,000	300,000
伊太利	600,000	500,000	400,000	300,000
瑞西	300,000	200,000	200,000	100,000
瑞利	300,000	200,000	200,000	100,000
瑞典	300,000	200,000	200,000	100,000
和蘭	300,000	200,000	200,000	100,000
致須	300,000	200,000	200,000	100,000
瑞威	300,000	200,000	200,000	100,000
露亞	1,500,000	1,000,000	800,000	700,000
波蘭	400,000	300,000	200,000	100,000
西班牙	1,800,000	1,300,000	900,000	800,000
西班	1,400,000	1,000,000	700,000	600,000
丁抹	1,400,000	1,000,000	700,000	600,000
希臘	1,000,000	700,000	500,000	400,000

士耳古	二、四三三	五、九六五	二、二九九	五、三九八
葡萄牙	一、五三〇	三、四四〇	一、〇六	二、六四〇
北亞米利加洲	二、六〇五	六、六六	一、七五一	三、四一五
米	四九、一五七	四、九六	一七、二四一	一、七〇七
加奈陀	四九、三三八	四、四一七	一六、五〇四	一、四三三
其	六、五八〇	八、五五二	二、三〇〇	三、〇〇八
中央亞米利加洲	三三九	二、五六	三、八	八
墨西哥	一、四三三	六、八	一〇、八三三	三、四八
其	一、四三三	六、八	九、四七	四、一
亞爾及爾	三、三八	九、六	一、八八八	六、七
薩爾瓦ドル	六、八五	三、九四	六、三	三、四〇
パナマ運河地帯	一、一一〇	五、五	五、五	二、九
其	九、五六〇	二、五八五	六、八三	一、七三二
南亞米利加洲	三〇、三七九	三、三五	三、三三	八、八七三
ベネズエラ	三、九〇〇	八、四	二、一四	六、三九
チリ	一、四七六	二、八七	一、三〇	二、四一
亞爾然丁	二、三三三	七、五三	九、四六	五、四〇
伯刺西爾	二、七六六	一、三〇〇	一、二八一	七、三
ウルグアイ	二、四五一	四、三	一、七六	二、〇七
其	七、五二五	二、七〇〇	五、三九五	一、七五六
亞弗利加洲	一、七〇	八、五、六、六	二、九、三、一	七、八、一、一
埃及	五、六〇八	四、一、八、七	四、九、三、九	三、六、六、六
南	二、六、七、四	一、六、四、八	二、五、三	一、三、八、六、七

東阿	三三、一七五	一五、七六〇	一九、五五六	一三、五五〇
其	三、七二五	二、六〇	二、〇五五	一〇、七九
太	五、三、天〇	四、三、天	四、三、三	三、三、四
洋	五、四、二、六	三、六、八、九	三、七、〇〇	二、四、五、六
洲	六、四、五、三	二、九、九	四、七、九	二、〇、五、三
新	六、四、八、五	六、六、六	四、〇、四	四、八、〇
布	一、〇、一、七	七、三	六、七	四、八、〇
其				三、四、六

(全國は大藏省外國貿易月表、阪神は阪神の各税關外國貿易月表に據る)

次いで八年の輸入を洲別に見るに従前輸入第一市場であつた「アジア」よりの輸入は前年來北米に其の地位を譲つて輸入第二市場となりたるは言へ八年の輸入六億五千九百萬圓を見、前年に比べ二億八百萬圓の激増を示すに至つたがこれ印度、滿洲國、支那からの輸入激増に因るもので内地産業界の振興による棉花、採油用原料種子類の買付著増を見るに至つたが爲である。

歐洲からの輸入は二億八千三百萬圓を見、前年に比べ五千八百萬圓の増加であつたがこれ鐵、機械類等の「イギリス」、「ドイツ」からの輸入激増せることに歸因せるもので又、北米からの輸入は六億六千八百萬圓と我が輸入第一市場として斷然光彩を放ち前年より更に一億一千九百萬圓の増加を示したが、これ棉花を筆頭とせる鐵類、銅、鉛、亞鉛、機械類、皮革等原料品、工業基礎材料の買付が我が輸出工業並軍需工業の活躍から急増したが爲である。

又中米からの輸入一千三百萬圓、前年に比べ五百萬圓許りの増加であるが、これ主として「アルゼンチン」からの羊毛買付増加に又阿弗利加、太平洋からの輸入夫々四千八百萬圓、二億一千百萬圓で前年に比べ各々二千百萬圓、七千百萬圓の増加を來たしたが前者は「エジプト」からの棉花、南阿聯邦からの羊毛、燐礦石、後者は濠洲からの羊毛輸入活況を呈したためである。

八年の國別輸入額を過去二年の夫と對比すると左表の通りである。

南亞米利加洲	ペル	智利	亞爾然丁	伯刺西爾	ウルグアイ	其他	亞弗利加洲	埃及	南阿	東阿	其他	太平洋洲	澳洲	新西蘭	布哇	其他
三、八七三	一、五五四	二、九三三	六、七九九	一、〇〇八	三三八	二九一	四、四〇七	二、四四六	四、三三三	四、三三七	三、二八一	三二一、元一	三〇四、五六六	二、四〇〇	一、三三	四、三六九
四、六一	四一	六一	二、七九	七五四	一七四	三三	二七、〇二	一九、六八	二、三六	三、四一六	一、六三	三九、三三	三三、二七七	一、四一	五三三	三、六四一
六、六五	八三	一、四九九	三、七六	五四九	一九四	一三四	二四、三三	一三、五三	一、二四七	八、四九九	一、七五	六、六六	六、七四	五八	二五	一、四九九
二、〇一四	三	三九	一、〇九九	四三	一四四	一四八	三、四七四	一〇、六八	三、七五	一、三三	一七〇	五、二七	四九、五九四	二、六五	三	一、三三

(全國は大藏省外國貿易月表、阪神は阪神各税關外國貿易月表に據る)

b 品種別貿易概況

重要品輸出狀況 我が重要品四十六品に就き八年の輸出狀況を見るに前年に比べ價額減少せるもの米及粳、魚油及鯨油、綿糸、生糸、鯨油、綿糸、セメントの四品、數量の減じたもの、米及粳、茶、水産物、薄荷油、魚油及鯨油、除虫菊、綿糸、生糸

の八品、數量、價額共減のものに至つては僅かに米及粳、魚油及鯨油、綿糸の三品に過ぎない有様で、如何に八年の我が輸出が振つたかを語つて居る。而して此等減少せるものには米國、支那向關係品が多く、ために米國の財界不振支那の日貨排斥の影響からの結果たることは推するに難くない處で只綿糸は對印度輸出不振から、魚油及鯨油は歐洲の需要不振から減少を見るに至つたものである。

かくて重要品四十二品迄が價額において増加したのであるが、この内前年に比べ増加顯著だつたのは綿織物の九千四百萬圓(二二・七%)を筆頭に罐詰詰食料品の二千四百萬圓(一〇六・三%)人絹織物の千七百萬圓(二七・八%)メリヤス製品千五百萬圓(五六・一%)機械類一千五百萬圓(一三六・三%)小麦粉一千四百萬圓(七〇・二%)絹織物一千三百萬圓(五五・三%)及鐵製品の一十三萬圓(八九・四%)増であつたが、この内綿織物は滿洲國、蘭領印度、濠洲、「エジプト」、海峽植民地への輸出増に因るもので支那、印度への輸出は特殊事情のため反つて多少の減少をさへ見た。又罐詰詰食料品の増加は「イギリス」、滿洲國、其他への、人絹織物及絹織物は歐米、「アフリカ」、濠洲、滿洲國への、又メリヤス製品は滿洲國、印度、蘭領印度、「イギリス」、「アフリカ」への、機械類小麦粉は滿洲國、鐵製品は滿洲國、印度、蘭領印度への輸出激増を見たが爲であつた。

重要品輸出數量及價額表(價額單位千圓)(外國貿易月表に據る)

水産物	茶	精糖	小麥粉	豆類	米及根類	數量		價額	
						八年	七年	八年	七年
(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(擔)	二七三、六九九	六二、一二七	二、一三四	四、七六六
						六六、七四二	五、四四、四三	七、一六一	五、九〇五
						五、三〇四、二四九	三、六四、八八三	三四、九五	二〇、五九九
						二、一七、三三七	一、三九、五〇七	一四、九九	七、七九七
						二、三三、八八三	二、三三、二七三	八、四五〇	八、一七三
						七三三、三三〇	八五〇、八〇三	一〇、〇〇一	七、七五七

寒天	(擔)	二、八六三	三、七四	三、一六六
罐詰食品	(斤)	九、六四、五七二	五、八七五、八六八	三、七四
麥酒	(石)	一三三、三三三	六、八八二	四、八三三
植物性脂肪油	(擔)	三、四〇、五三三	三、八、四〇四	五、二九七
薄荷油	(ク)	五、二二七	五、四二五	一、二六〇
魚油及鯨油	(ク)	二、八六、二四四	六、九、四〇一	三、三三三
石鹼	(擔)	八、四、八〇八	九、四、六七六	四、七五二
除虫菊	(ク)	二、七、六〇四	三、三、四九三	三、五〇一
樟腦	(ク)	五、三〇八	四、二、八四	三、六九〇
薄荷	(ク)	二、六、七四	四、六、〇四九	九、八
綿織物	(ク)	一、四、九一六	二、六、八、八六	二、一、四七
綿糸、眞綿、玉糸等	(ク)	七、二、五〇四	六、九、六四	一、二、四二
生糸	(ク)	四、八三、二七六	五、四、六、九〇	三、八、三、六六
綿織物	(千方碼)	二、〇九、二三八	二、〇三、七二	二、八、七、三
毛織物	(ク)	五、〇、八九〇	二、七、四二一	一、〇、八、八
絹及人絹織物	(擔)	三、〇、八、二七	二、五、七、五二	一、七、〇、九
綿ブランケット	(打)	一、二、六、七、〇一	七、六、一、八九	三、八、二、四
綿タオル	(ク)	一、六、六、八、〇九五	一、三、七、二、〇三	一、四、〇、三
絹製手巾	(ク)	三、三、三、七〇六	二、〇、三、九、五	二、六、九、三
メリヤス製品	(ク)			七、七、七
鈕釦	(ク)			七、七、七

身邊裝飾用品	(擔)	一、一五、一八五	九、四、五二	八、三、七	五、四、三
紙類	(英噸)	一、五、五、五三六	一、三、五、九二	一、七、六、八七	一、四、〇、二
石炭	(擔)	七、九、四、〇九五	七、四、六、二九	七、三、九、五	八、五、四、六
セメント	(擔)			三、五、六、三	二、九、三、七
陶磁器	(擔)			一、五、三、七	九、一、八、二
硝子及同製品	(擔)	三、八、四、九、五三	一、九、六、八、八	三、四、六、六	一、三、二、七、八
眞鍮	(擔)	一、四、〇、一九九	二、五、六、三	五、四、九、八	三、七、四、一
眞鍮	(擔)			二、六、八、九七	一、四、一、九三
鐵製品	(擔)	一、三、〇、八、九	六、四、〇、七	八、八、三、九	四、三、七、八
ゴムタイヤ	(擔)			二、五、八、五七	一、〇、九、四、三
機械及同部分品	(千束)			一、八、三、八	一、一、三、三、九
木製帽用眞田	(千束)	二、〇、九、九〇	一、三、九、九	七、三、〇、五	三、二、三、八
洋傘				一、二、五、九	五、六、八
ブラッシュ				四、四、五	二、九、八
ランプ及同部分品				一、五、八、六三	一、二、七、五
玩具				二、六、三、五	一、五、二、九

こゝに我國最近輸出貿易の傾向として看取されるのは全製品輸出割合が著しく増進せることであつて、これ所詮我が産業界の高度化を語るものに外ならない處で甚だ意を強くする所であらうと思はる。

食料品	四年	七、四	六年	八、九	七年	八、一	八年	八、四
原料品	四年	四、一	六年	三、九	七年	三、七	八年	三、九
輸出額別百分比(%)								一五

原料用製品	四一、一	三六、九	三五、六	二八、四
全製品	四三、六	四六、五	五一、三	五五、四
其他共計	100.0	100.0	100.0	100.0

重要品輸入状況 次いで輸入重要品四十二品につき八年の輸入状況を見るに前年に比べ價額減少せるものは米及粳小麦、苛性曹達及天然曹達、曹達灰、合成染料、毛糸、綿織物、印刷料紙、時計、自動車及同部分品、麩、礦油の十二品、數量減せるものは米及粳、小麦、豆类、革類、苛性曹達、曹達灰及天然曹達、硫安、合成染料、棉花毛糸、綿織物、印刷料紙、アルミニウム、麩、油糟の十四品、數量價額共減のものは米及粳、小麦、苛性曹達、天然曹達及曹達灰、合成染料、毛糸、綿織物、印刷料紙、麩の八品であつたが此等減少を見たもの、多くは全製品であつて主として歐米から供給を仰ぎ來たつたもの、而も最近我が工業界の發達から優秀なる國産の出現するに至り敢へて輸入を要せざるの現状に在ること竝に八年の爲替安が此等輸入採算に不利であつた關係から右の如き結果を來したものと考へらる。

斯くて八年輸入増加を見たものは大部分が原料品乃至原料用製品であつて、此の内前年に比べ特に増加が著しかつたのは棉花の一億五千七百萬圓増(三五・二%)を初めとして羊毛七千七百萬圓(八七・五%)、鐵七千二百萬圓(一一〇・〇%)、生ゴム一千四百萬圓(八五・六%)、原油及重油一千三百萬圓(二四・五%)、砂糖九百萬圓(二八四・〇%)、石炭九百萬圓(三三・六%)増等であつて要するに輸出部面における全製品の驚異的進出竝に國內軍需工業の股盛から其が原料品乃至原料用品たる此等諸品の輸入が激成されたと云ひ得やう。

即ち棉花の増加はわが輸出部面における綿製品の活躍からこれが生産殆ど皆無の我國として當然と言ふべく印棉の買付が日印會商先安じから上半期に輸入激増せるためで羊毛の増加亦我が毛織物界活況に伴ふ濠毛買付多かつたため尙、鐵、原油及重油、石炭の増加は我が基礎工業材料として産業界活動に缺くべからざるものであり、殊に八年は軍需工業の股盛から此の結果を見るに至つたものと思はる又生ゴム及砂糖の輸入増は斯界の活況を極めた結果であつて前者は蘭領印度からの供給多額を見たがためである。

八年の重要品輸入額及數量を前年の夫と對比すると左表の通りである。

我國重要品輸入數量價額表(價額單位千圓)(外國貿易月表に據る)

	數量		價額	
	八年	七年	八年	七年
米及	三、三七五、七〇〇	二、五四九、九〇〇	一一、五三二	二二、一五五
小麦	八、五〇〇、四〇〇	二二、四四三、四三〇	四四、三八四	四九、五七二
豆类	九、三三三、二九八	九、九二一、三三三	五〇、三九五	四三、〇七〇
探油用原料	三、四〇〇、七〇〇	二、五四六、三七九	二二、二九三	一四、七七一
砂糖	二、二二〇、二二四	六七、二九九	一一、七九四	三、三三三
牛	一六、九九八	一七、三六九	五、三六七	四、四八〇
皮類	三、四七、一〇一	二、六六、〇五五	一三、五四五	七、八九七
革類	一、三二〇、七九九	一、五四三、〇五四	三、九三三	三、六八八
原油及重油(百ガロン)	六、二二〇、〇九九	五、六六六、六五三	六八、三四七	五四、八八七
礦油	一、三七八、六二四	一、三四八、〇七八	三、四八〇	三、六、九三三
牛	一、八三、四四六	一七、八六七	三、四二二	二、四五四
生	一、一五五、四九七	九、五三、三三五	二九、六九五	一五、九九九
苛性曹達	九、八〇、〇〇二	一、二四三、六四九	五、二四四	六、三六五
及天然曹達	五、八、六五五	三、九、九五五	三、八五八	二、〇四九
粗製硝酸曹達	一、八〇五、八七七	一、九七八、九二六	九、四二二	七、〇三五
粗製硫酸アムモニウム(ク)	一、六〇〇、五五五	三、二九三、一二七	八、〇六〇	九、〇六六
合成染料	二、四八九、三〇一	二、三、七四〇、一五六	六、四、八四七	四、七、一〇一
棉花	一、五七七、八五五	一、三、四四、八六六	一、三、四四、八六六	一、七、一〇一
其他植物纖維				

品名	單位	四年	六年	七年	八年
羊毛	(擔)	一、八〇五、八四三	一、五四三、九九三	一、六四、九一	八七、五九九
毛織物	(斤)	二、三六、五〇	二、四〇四、七五五	三、〇三二	五、一一三
綿織物	(方碼)	九、〇六、九七	一〇、一〇九、七三	二、九五四	四、三三
毛織物	(擔)	—	—	七、二二五	一〇、四八
人絹用バルブ	(擔)	二、七六、七三	一、七三、七六四	二七、〇六六	一五、三九九
印刷料紙	(ク)	五二八、三五	九〇、一三三	三、六六九	五、五三
燐石	(ク)	二、七八、九五	九、三三、六三七	一五、三七四	一一、〇九七
石炭	(英噸)	三、四〇、七三	二、六七三、三三	三六、六五七	二七、三六八
鐵	(擔)	二八、三五、六九九	二六、七六六、九一八	三三、一七二	一六、四九九
鐵	(ク)	一〇、六〇、八五五	七、四〇七、〇六五	二五、二五二	二二、一四
其他鐵	(ク)	二五、二九、五九九	一三、四一、九六三	一一、〇四三	五、〇三七
アルミニウム	(擔)	六〇、一〇五	七九、八九三	五、八〇七	五、〇四四
(塊及錠類)	(ク)	一一、九、九三	九三、三三三	一一、九〇三	九、九七三
鉛	(ク)	三三、二九	四、九三一	七、四七六	一、四三
銅(塊及錠)	(ク)	五八、二七	五七、二七六	一〇、六七	五、九五六
錫	(ク)	四三、三二五	三、四八、四〇九	七、四六二	四、六三
亞鉛	(ク)	—	—	二、〇九七	二、八五六
懷中時計及同分品	(斤)	—	—	—	一、四、八二
自動車及同分品	(斤)	—	—	—	一、七五五
發電機類及變壓器	(斤)	—	—	—	五八、八八
其他機械及同分品	(斤)	—	—	—	三五、〇九
木材	(擔)	二、三五六、〇三七	二、四四五、四三九	六、〇五四	六、一三二
油	(ク)	二、二四九、九二	三、三六六、四〇〇	四、一八一	三四、五九九

而して最近の我が輸入貿易に於いて看過し得ない點は原料品の輸入が著しく増加せる反面全製品の輸入が漸減せることであつて、これは我が輸出面に於いて見た如く、にも我が産業界の基調が漸次堅實化し行きつゝある事が窺へる

輸入類別百分比(%) (本邦財界情勢に據る)

品名	四年	六年	七年	八年
食料品	三、三	三、八	二、一	九、〇
原料品	五五、二	五五、四	五八、八	六、六
原料用製品	一六、二	一四、七	一四、一	一七、一
全製品	一五、六	一六、〇	一五、五	一一、五
其他共合計	100.0	100.0	100.0	100.0

八年の我が對外貿易は以上述べ來たつた如く、世界主要貿易國が何れも市場狭化に悩めるの秋に當つて獨り飛躍的發展を遂げるに至つたのであるが、此れ我國品の優秀性に因るや勿論とする所であるも其の外に我が金再禁止による圓爲替安、生産費低廉、原料の割安といふ強材料が織り込まれ居た事に歸因した輸出面の活躍並に之に伴ふ原料輸入の旺盛に在つたと言へよう。

而してかくの如き我國品の伸張は反面原料に乏しき我國として輸入激増の因を爲したとは言へ只さへ世界市場狹隘に悩む列國をして我國品目指しての、この種排他的鎖國主義、物々交換主義の擡頭を見るに至つた。

勿論かうした變體的な且不自然な列國の貿易政策が果して所期された効果を收むるや否やは疑問とする所であらうが兎もあれ主要國が此を採用する限り我國としても亦、之に對應し行くだけの覺悟を要するのであつて、日印會商に於いても吾人は其の一斑を教へられたが如く、我が貿易の前途は益々多難を豫想し得るので我が貿易政策として今後採るべき途は輸出入の調整といふことではあるまいかと考へられる。即ち何等かの方式を以つて相手國別に貿易の「バランス」を保つ様進むの外なく、かくする事が現在の不自由化された國際貿易時代に生くべき道ではあるまいかと考へらる。

第二章 第一節 主要相手國別貿易概況

a 中華民國 (香港を除く)

廣東、中央兩政府間の内訌、中支一帯に於ける共匪の跳梁等、農村荒廢からの一般購買力低下に加へ、滿洲國獨立の影響もあつて、當地本年の對外貿易は輸出六億一千萬國幣弗、輸入十三億四千五百萬國幣弗と前年に比し夫々一億五千六百萬弗、二億八千九百萬弗の減少といふ不振であつた。

而してこの間本邦との貿易關係を見るに本邦よりの輸出一億八百萬圓で前年より二千百萬圓減、本邦への輸入一億一千三百萬圓で前年より三千六百萬圓の増加で、本邦よりの輸出不振が著しかつたが、これ事變來の彼我關係不味なる處へ悪性なる抗日運動が全國的に起こされたことに原因するものである。

尤もこの運動も五月の北支停戰協定來幾分下火となり、従つて中支、南支向本邦品は本年後半において漸次好轉しつゝあつた様である。

本邦への輸入増を見るは本邦輸出部面における前年來の活躍から、原料乏しき國柄として當然のこと、思はる。主なる輸出入品を見ると左表の通りである。

輸 出	八 年		七 年	
	噸	價	噸	價
小 麥	四八二、七〇〇	三、四〇〇、九三三	一、〇四九、一〇〇	六、一五三、八七〇
精 糖	九〇一、五五五	六、一五八、〇七二	四六六、八七七	二、六五五、〇一五
水 産 物	二五〇、九三三	二、二七八、八四五	五〇〇、八五五	二、五三二、九三三
麥 酒	二二、六〇七	七五七、七四九	一六、〇三三	一、一七一、二三三

輸 入	八 年		七 年	
	噸	價	噸	價
綿 織 物	一一三、三六二	六、〇四四、七九七	一八七、三五七	一、五八、七九四
毛 織 物	—	一、六七三、三二一	—	四三〇、七三九
紙 類	三六七、〇四九	四、七五五、七九九	三八八、四六六	五、三二一、九〇七
石 炭	五四六、五五〇	四、四四五、三三三	四五三、一六〇	三、七九一、二二七
陶 磁 器	—	九九一、九〇〇	—	五三六、七五〇
硝子及同製品	—	一、四〇七、〇〇〇	—	八〇九、三三三
鐵 鋼	三九五、四三六	二、六八八、四〇〇	三四九、二二〇	一、六六六、八二〇
眞 鍮	二四一、五〇〇	九、七四四、三四二	一三、四六六	四七四、二二三
鐵 製 品	—	一、六四四、四六六	—	一、四一九、二九七
ゴムタイヤ	二六、八七七	一、七二七、二〇〇	二〇、八四四	一、三六〇、〇四〇
機械及同部分品	—	四、九五二、一六三	—	三、八四八、八〇六
木 材	—	一、一〇七、一一三	—	二、三六二、二五一
其他共全國計	—	一〇八、二五三、〇〇九	—	二二九、四七八、五七七
内阪神兩港	—	七、〇〇〇、七〇〇	—	一一三、三〇〇、〇一七
豆 類	四三九、九九九	二、九九二、〇九九	四三三、四七〇	二、九九四、三七五
採油用原料	一、六六七、五五三	九、四七七、八六四	一、一九五、五七七	六、八七三、〇八八
牛 肉	一三〇、三三七	三、九六四、九三四	九二、〇九九	二、五四八、五五六
皮 類	一、三六、三三三	四、九〇〇、八三三	七九、〇〇〇	二、三五〇、九一五
棉 花	五九九、〇七〇	二四、三四七、九三九	五三二、五九八	一八、八八五、五四四
麻 類	二六、〇四七	六、九三三、〇二九	二九、九九九	五、九九八、〇五八
石 炭	三六〇、二四四	四、一〇四、二五九	二六三、三九八	二、七一九、〇一一

鐵 錫 鼓 油 其他共全國計 内阪神兩港

鐵	九、六四三、七〇〇擔	四、三〇〇、九八八
錫	九、九六二	一、七六六、五五五
鼓	二、三四六、二〇〇	六、〇〇六、七三三
油	一、六八三、三〇〇	五、九八八、五五五
其他共全國計	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三
内阪神兩港	六、九七七、四四五	六、九七七、四四五

b 滿洲國 (關東州を含む)

連年躍進また躍進を続け、多額の出超を誇り來たつた當國の對外貿易も本年は形勢一轉、當地としては未曾有の入超を見るに至つた。

即ちこれを數字で見ると、本年當國の對外貿易は輸出四億四千八百萬圓幣圓、輸入五億一千五百萬圓幣圓で前年に比し輸出一億六千八百萬圓幣圓の著減及輸入二億一千三百萬圓幣圓の激増で、貿易尻は前年の出超三億一千五百萬圓幣圓から本年は一變六千七百萬圓の入超に顛落するの結果を見るに至つた。

而してこれが原因としては滿洲輸出特産物の豐作による市價低落のためもあらうが、主因は滿洲國內における諸建設の基礎工作に要する物資の輸入が頗る増加せることに在る様である。

次に本邦との貿易關係を見るに本邦よりの輸出三億三百萬圓で前年より一億五千七百萬圓の増、輸入一億六千八百萬圓で對前年四千萬圓の激増を見るに至り、當國對外別貿易上に於て出入とも五割強を示し、壓倒的地位を占めた。

本邦よりの主なる輸出入品を見ると左表の通りである。

輸 出	八 年	七 年
小 麥	四、七四五、七七擔	二、六三三、三七擔
粉	三、一三三、五五圓	一、四一五、七四圓

精 糖	一、一三三、六四圓	七、六四八、〇三七
水 産 物	二七九、六五五	二、六五五、九七四
糖、塩、詰食品	六、五四三、八三三斤	一、七〇〇、五五六
酒	五、九三三、三〇	三、〇〇六、三三七
麥 粉	—	一、〇〇六、九八八
石 炭	四、〇九七擔	三、七四四、六〇六
綿 糸	一七七、九五二(千方)	四、〇四八、二八四
綿 布	—	七、三〇四、八七
毛 織 物	—	四、三三三、九五四
絹及人絹織物	—	一、八六五、三〇〇
メリヤス製品	五六一、〇七七打	一、一七三、八二七
帽子	一七九、七三二	七、四一五、八三三
紙 類	四六、八八九擔	二、〇〇〇、〇九
セメント	一、八八八、四三	一、七四四、三三三
陶 磁 器	—	九〇二、二七七
硝子及同製品	三、一〇七、四三擔	二八、二〇六、二八八
鐵 製 品	—	七、五八八、一七
鐵 製 品	—	一、二四八、七二二
ゴムタイヤ	一七、四九六擔	一、一三五、五七七
機械及部分品	—	三、五八三、八二二
木 材	—	一、二七六、二九八
ランプ及部分品	—	三〇三、三三九、五三三
其他共全國計	—	一八、一六八、六四三
内阪神兩港	—	—

輸入

豆類	八、五〇七、八六擔	四、四四四、〇五〇	九、〇〇六、四四擔	三、七、五四〇、一八〇
採油用原料	一、一五三、〇二	九、五九〇、〇八八	六、四九、七八	四、二六五、三四四
牛肉	三、三三三	九、〇〇、七〇三	五、九、九三	一、四八三、四七六
皮類	二、四、六九七	八、六六、一六〇	一九、九四四	六、〇四、二四九
石炭	三、四四三、〇九二英噸	二、四、五四六、一九一	一九、四九、九六英噸	一九、一八〇、五二三
銑鐵	七、五八九、六五擔	一、八、六二、九三九	三、五八四、五三擔	六、四二七、三八一
油類	九、〇〇六、五六四	三、三、九三、三一一	一〇、五三、四七六	二、八、六〇、八、三九九
其他共全國計	—	一、六、〇五九、三三三	—	一、三、二八、七二〇
内阪神兩港	—	五、三、一、七四七	—	三、八、九八、四四五

C 英領印度

當地本年の經濟界は國民派運動の沈靜化による政情の安定、財政の改善、貿易面に於ける棉花、黃麻の輸出増、銀高による購買力増から相當好調を示したるも、只紡績其他工業は外國品の進出から不振を極めたもの、如く、この結果は國內工業保護の見地から露骨なる排外貨手段を見るに至つた、而して本邦品は實にこの排外貨手段の目標とさるに至り、其だけ兩者の關係は日印通商條約廢棄の前後から日印會商成立迄可成り緊張を呈した。尙本年の對外貿易は輸出十四億四千萬留比で前年に比し七分六厘の増、輸入十一億六千萬留比で一割三分の減を示し貿易は前年に比し著しく好轉した。

翻つて本邦の對印貿易を見ると本年の對印輸出二億五百萬圓強にして前年に比し一千三百萬圓の微増に反し、輸入は二億四百萬圓強にして前年より八千八百萬圓の著増であつたが、これ全く本邦品が前述の如く當國の排外貨術中に陥り充分なる活躍をなし得ざりしに因る。

即ち本邦對印主要輸出品たる綿布の如き前年來の關稅引上にも拘らず本年六月從價七割五分といふ全く禁止の高率課稅を見たもの、如きこの一例であつて、本邦品にしていやしくも當地に好評ある商品は何れもこの惱を味はねばならなかつた。

主要輸出入品を見ると左表の通りである。

輸出

麥酒	一、六、五五石	九〇〇、七二圓	一〇、三、七五石	六、四、四、四五圓
石鹼	—	八、七、〇三	—	九、八、八五
樟腦	八、八四擔	一、二、八、九三	六、六、九九擔	九、七、七三
綿糸	五、五、二九六	七、六〇五、三七三	一、五、九六六	一、四、三、四三、〇九九
綿布	四、五、一、八三(千方)	七二、一、六三、一三二	六、四、六、五(千方)	八、〇、六五、五四〇
毛織物	—	一、六、四七、三二	—	五、九、一、九七九
絹及人絹織物	—	三、九、九八、六八四	—	三、九、九八、五〇一
綿タオル	四、四〇、六六打	一、〇、五、七二〇	五、〇〇、四三打	八、七、〇、三二
メリヤス製品	四、三、八、六九	九、六、八、四〇三	三、五、〇、七六	六、六、九、八、七四
帽子	五、四、八、八五	一、一、八、一、九〇	四、七、四、六四	八、九、八、〇三九
鈕釦	—	六、五、九、五三九	—	六、三、五、七三
身邊粧飾用品	—	二、四、二、五三四	—	二、〇、四、三、六三
紙類	一、二、八、二、四擔	八、四、二、一八六	一、三、二、七六擔	一、一、六、〇、九八三
セメント	一、〇、五、五五八	九、四、九、四六八	一、一、七、一、三九	一、三、〇、七、〇六六
陶磁器	—	三、九、五、四八九	—	三、四、六、三、一五三
硝子及同製品	—	五、五、〇、六、六三	—	四、一、〇、六、二、四五

鐵 鑛
眞 鑛
鐵 製 品
機械及同部分品
木 材
ランパ及同部分品
玩 具
其他共全國計
内阪神兩港

八 年
九、八六七擔
一〇一、五五五
三、八八五、四三三
五、一五一、〇三六
二、一〇四、七六〇
一、八八四、八九一
一、三三三、五八八
三、八〇九、四三三
二〇五、一五四、六〇〇
一五八、四七四、九五四

七 年
三、〇六六擔
一〇四、二七九
三、九八九、八六六
三、三三三、四四五
九〇〇、〇三〇
一、五二九、六五五
九〇九、三五五
一、四六六、七二〇
一九三、四九一、八五四
一四八、五六六、三四六

豆 類
革 類
棉 花
麻 類
鐵 鑛
鉛(塊及錠)
油 類
其他共全國計
内阪神兩港

八 年
三二八、七五五擔
八六六、八七斤
三、九七三、二〇擔
三五六、三四四
四九、六〇九
二、八六七、六八
一七九、六七七
三四一、六六五

七 年
三六〇、四三三擔
八五三、九四七斤
二、七九八、四三擔
二九八、八五一
一、六二二、二九九
一、九六四、三六〇
一八三、二八二
六六一、〇〇八

d 蘭領東印度

打續く財政難の問題から關稅、諸稅の引上乃至新設が頻々として見られ、又民業保護に藉口した外國品輸入制限傾向の強化のため、當地經濟界は益々萎縮退嬰の途を辿り行き、折角のゴム、錫、茶等特産物市價の恢復も當地經濟界にさしたる好刺戟を與へることなく、其の對外貿易も出入共可なりの萎縮を告ぐるといふ有様で一般に不振の域を脱せなかつたが、この不振からかへつて本邦品への逆恨みとなり、其の極端なる排本邦品手段から遂に彼我會商に迄進展するに至つた。

本邦との貿易關係はかかる際にもかゝらず、著しく好轉、本邦よりの輸出一億五千七百萬圓、本邦への輸入五千五百萬圓を示し前年に比べ出入共に著増、殊に輸出に至りては甚だ好成绩を見たのであつたが、これ本邦國爲替安と在留華商の排日貨運動緩和を見たるがためからであつたと見らる。

輸 出

麥 酒
綿 糸
綿 布
絹及人絹織物
綿ブランケット
綿 タオル
メリヤス製品
帽 子

八 年
二九、九四四石
一、六三九、三六圓
一一、九三三擔
一、三三六、一三五
四三三、〇九(噸)方
七六、二七三、二九五
一五、九八八、五三一
九、七四五擔
六八二、六三二
四五四、四八打
八九四、三三五
一、七二六、四三三
四、三三〇、六六三
四三三、九六六
一、三三〇、〇九二

七 年
八、八五石
五五五、二〇〇圓
三二、九七九擔
一、四四五、〇七
三五三、二三四(噸)方
五〇、二八六、六二二
一四、三六五、九五八
六、三三三擔
三六九、六七七
五七、四八九打
七四九、八四七
一、八三三、〇〇九
二、五三四、六八二
五三七、八三〇
七三三、七三三

輸入

紙類	五九、四四九擔	一、〇八二、〇〇四	四九、三四九擔	六四、四四八
セメント	一、四〇〇、七七七	一、三六八、五三三	二、七三三、〇八〇	二、六〇〇、二二八
陶磁器	—	三、七八八、八三四	—	二、四四一、二九八
硝子及同製品	—	二、〇六八、六二〇	—	一、〇七〇、一五二
鐵製品	—	四、三六五、七九五	—	二、五七四、八四四
ゴムタイヤ!	三九、七六擔	二、四九八、三三七	一八、〇五五擔	一、三三三、七六六
木材	—	一、二六四、六二二	—	八四四、五五
ランプ及同部分品	—	一、七〇六、七四六	—	七六六、九〇〇
玩具	—	一、九二四、四八一	—	八〇三、五九九
其他共全國計	—	一五、四八七、七五四	—	一〇〇、三五一、〇八
内阪神兩港	—	一三、四七三、七七三	—	八六、三二四、〇七九
探油用原料	三七一、四九九擔	二、三九六、四〇八圓	四八、五五六擔	二、三三六、七〇圓
砂糖	二、〇一九、八四七	三、七六六、七九九	六四四、九七七	三、三三三、五五八
鹽	—	六四四、四四四(百ガ)	—	六八九、三四四(百ガ)
生油	—	一五、七八九、〇三九	—	一四、五二一、七七〇
錫(塊及錠)	—	二六八、四四擔	—	三〇三、五九〇擔
木材	—	八、二二六	—	四、九五八、八五三
其他共全國計	—	一、七〇五、八五五	—	二、七二二、〇
内阪神兩港	—	一、六〇九、九七七	—	一、六一一、三三六
	—	五五、七九九、九六六	—	四〇、四九九、三六三
	—	二八、三九九、八三三	—	二〇、四四一、三五九

e 比律賓

母國米國本年の財界が甚しく波瀾重疊を極めたるに拘らず當地の經濟界は其の影響を蒙ること、比較的軽く、却つて、當地經濟の原動力をなす砂糖、煙草、麻等の農産物市價回復から一般民衆の購買力増加を來たす結果となり、對外貿易は輸出二億一千百萬ペソ、輸入一億四千九百萬ペソを夫々見るに至り、貿易尻において前年よりやゝ好轉を示すに至つた。

當國の本年對外貿易を前年の夫と比べると左表の通りである。

一九三三年	輸出	二二一、五四三、〇五五	輸入	一四九、五六一、五三三	計	三六〇、〇五三、五八八
一九三二年	輸出	一九七、六六六、一六二	輸入	一五八、七九〇、一七〇	計	三五六、四五六、三三二

而して本邦との貿易關係を見ると本年本邦よりの輸出は二千四百萬圓を示し前年より約二百萬圓の増、本邦への輸入一千四百萬圓にして四百萬圓強の増を夫々見た。

主なる輸出入品は左表の通りである。

八 年	輸出	三、四九、九八千ガ	五、七九、七七七圓	七 年	輸出	二、四二〇千ガ	二、七九、〇九三
	絹及人絹織物	—	一、〇五七、〇三三		—	—	一、九二〇、六一九
	メリヤス製品	一、二五、三三〇打	二、六七〇、八五四		一、八六六、八六〇打	三、七四四、八六三	
	石炭	一、六〇、六四〇英噸	一、六五一、六四七		一、五七〇英噸	一、五六八、八七二	
	陶磁器	—	九五九、四五四		—	六三五、一〇六	
	硝子及同製品	—	八〇九、四〇八		—	五〇三、九四二	

鐵製品
其他共全國計
内阪神兩港

九三三、三二二
二四、〇五〇、八八一
一七、七九七、五八六

四六九、〇六四
三、三六二、〇二〇
一五、六四八、一三六

三〇

f 海峽殖民地 (英領馬來)

當國貿易は昨一九三二年を底として本年度には僅か乍ら恢復の曙光を見るに至つた。即ち次表に於て見る如く輸出の輸入減で出超に轉じ然も輸出入合計に於ても亦増加を示した。

一九三三年
一九三二年

輸出 輸入 計
四三、四〇〇千弗 三三、〇九〇千弗 七四、七九千弗
三六、五七五 三八四、五七 五五、八三四
入超 一六、六六〇

輸出増の原因は當國輸出額の過半を占める護謨、錫の價額が昨年來の記録的安値から本年四月以降奔騰した事によるものであり、輸入減の最大原因は矢張前年來の護謨、錫市價低落の爲勞働者を夫々本國に送還した結果人口の減少を見た事であり、尙夫に世界的不況、高關稅等が加はつたものと云へる。
然し之を一丸三〇—二八年に比すれば貿易額は約半額であり、一九二五—二七年に較べると三分の一の少額となり當國苦境の程が窺へる。
輸入に於て注意すべきは、日本を除く他の英米諸國は著減してゐるが獨り日本は前年に比し九百五十五萬弗増の二千六百五十八萬弗を示し總輸入額の七・三%(前年の夫は四・四%)を占め英國に次ぐ仕入國として其地位を固めつゝある。

本邦對當國貿易額は次表に於て見る如く前年に比し輸出は約倍額に輸入に於ても亦著増を示した。

輸 出

綿織物
絹及人絹織物
綿タオル
メリヤス製品
紙類
石炭
セメント
陶磁器
硝子及同製品
鐵製品
ゴムタイヤ
木材
玩具
其他共全國計
内阪神兩港

品名	八 年	七 年
綿織物	五、七九千方碼	八、三六千方碼
絹及人絹織物	一七、六六千圓	二、三九千圓
綿タオル	四、四三六	二、九六
メリヤス製品	一八、〇七七打	一四、五九打
紙類	三、七	二、四六
石炭	二四三、八六六	九三、八五五
セメント	二二、六五擔	一五、〇九擔
陶磁器	二九、三〇英噸	三三、二四英噸
硝子及同製品	六、七四、六九擔	六、三三、四三擔
鐵製品	九〇〇	八四
ゴムタイヤ	一〇、九五擔	三、六四擔
木材	一、一八七	二、三三
玩具	七三	二七五
其他共全國計	四六、一三	四四、六
内阪神兩港	三、六八	三、五九
錫 (塊及錠)	八六、三六擔	一〇、〇〇千圓
生ゴム	一五、九五、五三	一三、八七、八六六
錫 (塊及錠)	三九、二七〇	三、一八四

三一

其他共全國計
内阪神兩港

g 英國

三、八、七二
一、七、九〇一
三、五、三三八
二、〇、四一

英國の貿易は流石に世界一を誇るだけあり、徐々乍らも確實に改善せられつゝある。然し其前途にはドルの金本位離脱、フランの動搖、マルクの危機等々々に基く暗礁が控えてゐる。

八年度英國貿易額は輸出四億一千六百五十萬磅で前年に比し五十萬磅の増、輸入は二千五百八十萬磅増の六億七千五百八十萬磅差引入超二億五千九百三十萬磅を示し前年より二千六百四十萬磅の改善を見國際收支は殆んどバランスの状態となつた。之は主として磅價下落により輸出の増進したのに反し輸入の爲替關係による不利は原料品の値下りによりカバーせられた爲であり尙政府の保護政策オツタワ協定の反映等をも挙げ得る。

次に我國の對英貿易は如何、輸出八千七百八十五萬圓、輸入八千二百五十六萬圓前年に比し共に夫々二千八百十九萬圓、三十八萬圓の増加を示した。輸出に於ては左表に於て見る如くメリヤス製品、生糸、玩具、罐詰食料品は著増した。對英主要輸出入品は次の如し。

輸 出	八 年		七 年	
	金額	噸數	金額	噸數
豆 類	三、五、七、四六擔	五、四、八、一、千圓	三、四、七、七四擔	四、五、三、千圓
罐詰食料品	二、〇、〇、三、七五斤	一、二、一、二、五	一、四、七、一、九四斤	六、一、五、七
植物性脂肪油	二、七、七、九九擔	四、八、五	六、四、五、三擔	七、〇
魚油及鯨油	八、七、七、九	五、九、一	二、四、五、七、七	一、一、三、三
生 糸	六、三、八、四	一、四、六、五、五	一、二、九、五、七	九、二、五、七
絹及人絹織物	—	八、七、三、六	—	四、六、一
メリヤス製品	二、三、三、〇、八五打	六、五、六、一	九、七、八、七七打	三、八、三、七

鈕 釦	一、五、五、五
陶 磁 器	一、二、九、六
木 材	三、八、三、八
ブ ラ ッ シ ュ	六、九、四
玩 具	四、〇、五、四
其他共全國計	八、七、八、四九
内阪神兩港	三、九、六、三

輸 入

苛性曹達曹達灰及天然曹達	三、五、〇、六五擔	一、九、〇、三、千圓
硫 安	三、三、三、六四	一、八、八
毛 糸	九、三、八、六四斤	三、一、二、六、八
綿 織 物	一、五、三、一、四七方碼	一、一、三、三
毛 織 物	—	六、八、八、四
印刷料紙	一、九、五、五擔	四、八、六
其他ノ織	二、九、八、八〇	一、七、二、九、九
其他ノ機械及同部分品	—	三、三、〇、五
其他共全國計	—	八、三、五、九
内阪神兩港	—	四、七、三、〇

h 獨 逸

獨逸は戦債の支拂を貿易の出超により補はねばならぬ國柄にあり、この能力如何は各國に大なる影響を與へるのである。この點獨逸貿易の出超は歐米財界に重大な意義を有してゐる。にも拘らず獨逸出超額は年々激減の一途を辿り

歐米財界の悩となつてゐる。即ち

獨逸出超額

一九三一年 二、六七百萬馬克

一九三二年 一、〇五百萬馬克

一九三三年 六、七百萬馬克

で實に本年の夫は一昨年の1/4と云ふ著減振を示した。この對策としての輸入抑壓には爲替管理、高關稅は勿論輸入割當制をも採用して防戦に努め一方輸出増進、否輸出減退防止には所謂スペヤー・マルク、レジスター・マルク、スクリツプス等獨逸獨特の方法を講じてゐる。

本年度獨逸輸入額は四十二億四千萬馬克、輸出四十八億七千萬馬克を示し輸出入共に減少し依然貿易萎縮の狀態にあり、其の上前述の出超の激減を來たしてゐる。其の内容を検すれば輸入の五四%は原料品即ち棉花、羊毛、採油用種子、鑛物等であり、二九%は食料品で、この食料品は自給自足を目標とする國內増産により昨年に比し輸入額の減少に成功してゐる。

主要相手國は輸出總額に對し和蘭一二・八%英國八・五%佛國八・三%瑞西七・四%ソ聯邦五・九%等の順にあり輸入は總額に對し米國一一・四%を占め第一位にあり以下英國五・七%和蘭五・五%ソ聯邦四・六%佛國四・四%等である。我國の獨逸貿易額上占める地位は輸出七五・八百萬馬克(〇・一五%)輸入一五・九百萬馬克(〇・〇四%)に過ぎない。翻つて我國の對獨貿易は前年に比し輸出入共に増進し輸入は九千五百七十九萬八千圓(全輸入額の五%に當る)輸出千二百四十一萬千圓(全輸出額の〇・七%)であつた。其主要品は左表の如くである。

輸 出

寒 天	三、二四六擔	四〇千圓	三、三二五擔	五三三千圓
罐詰食料品	二〇〇、八八九斤	一八七	九七、四三斤	共
植物性脂肪油	一七、三三擔	三九〇	一三、八六擔	二七五

薄 荷 油	一、〇六六	三九三	一、〇七四	二四八
魚油及鯨油	九七、四七七	八八六	九三、八七〇	六八八
樟 腦	一七二	三〇	二九	三
薄 荷 腦	二四三	一五三	一四五	二五
絹 及 人絹織物	—	三八一	—	二八
鈕 釦	—	七四〇	—	八〇五
陶 磁 器	—	一四	—	一〇〇
木 材	—	五九	—	八
製帽用眞田	二、四三三千束	六九三	二、七三三千束	四七
玩 具	—	二六六	—	三四八
其他、共全國計	—	一三、四二二	—	九、三五〇
内阪神兩港	—	八、八二二	—	六、〇〇一

輸 入

革 類	六、九三三斤	五五五千圓	八三、三六斤	六三五千圓
硫 安	一、三六六、二三擔	六、九四三	一、三五一、七五擔	四、一八八
合 成 染 料	一、〇五七、六〇三斤	五、二二八	一、四四一、二三斤	四、九五九
毛 糸	五、五三一	二〇	六、五五八	一一六
綿 織 物	三、九四〇方碼	三三	五〇、六一方碼	五三
毛 織 物	—	二九七	—	一、五四三
製紙用バルブ	五、二八三擔	六三	二、〇、九三擔	一、三九三
印 刷 料 紙	七九七	三七	九、四八八	一七〇
鏡 鐵	五、三九二	三九	五、一六三	三〇
レール及フイツシニブレート	四、五四七	三六	五、一〇九	四五四



	佛蘭西		佛蘭西	
	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年
其他 鐵	三,三八八,一七擔	二,四八五	一,五七五,五五擔	一一,三六
アルミニウム(塊及錠粒)	一〇,四〇六	九七五	五,三三六	三七九
自動車及同部分品	—	五	—	三九四
發電機類及變壓器	三六九,九六	九五	一三九,九八一	七三
其他機械及同部分品	—	一五,九九	—	九,七〇〇
其他 共全國計	—	九五,九六	—	七,七四三
内阪神兩港	—	四九,三四	—	四一,四〇

i 佛蘭西

フランスの危機は幾度か傳へられ乍ら又金本位維持で非常な不利益を蒙りつゝも嘗つて爲替の暴落とインフレの苦杯を嘗めた佛蘭西國民は依然金本位の牙城を死守した。即ち昨年末來のフランス銀行外國爲替準備の枯渇、フランスの動搖等により金の流出が盛に行はれ佛蘭西金本位危しの聲は世に高かつたが國民の異常な努力と犠牲によつて支へられたのである。

本年の佛蘭西貿易は左表の如く

	佛蘭西		佛蘭西	
	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年
輸出	一八,四三三萬法	一九,七〇五萬法	二八,四五五萬法	二九,八八八萬法
輸入	—	—	二八,四五五萬法	二九,八八八萬法

輸出入共に昨年に比し價額は減少を見た、然し數量に於ては増加を示した。

佛蘭西の貿易市場中近來佛植民地が重大な地位を占めるに至つた、即ち輸入に於て前年植民地は二〇・九%であつたが本年は二三・六%に増加し輸出は三一・四%から三三・四%に進出した。然し植民地への輸出増進は佛蘭西輸出が従來西歐諸國を目的とする高級贅澤品を主とした點から考へ其發展性は疑問視される。主要市場はアルゼリア、ベルギー、ルクセンブルグ、獨逸、米國、英國等で對日本貿易額は輸出一億一千八百萬法

輸入一億六千六百萬法に過ぎず前年に比し輸出減の輸入増となつてゐる。次に本邦の對佛貿易を検すれば輸出三千八百七十三萬六千圓輸入一千八百七十五萬五千圓で前年に比し夫々一千七百十八萬九千圓、六十五萬二千圓の増を見、出超二千七百八十六萬一千圓の有利な状態にある。主要品は左表の如くである。

	八年		七年	
	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年
寒天	二,五九九擔	三,七〇〇	二,三〇〇擔	三,〇六千圓
植物性脂肪油	六,七三三	二,〇〇〇	九,〇〇〇	二,〇〇〇
薄荷油	一,五二五	五七三	一,三三三	三〇〇
樟腦	二,二五一	四一五	一,四七	三二八
薄荷腦	一,四九七	一,四二七	六〇〇	五〇〇
屑糸及玉糸等	一,九〇〇	六五八	一,六四七	四七
生糸	二〇,八五〇	一五,三七八	二,九五七	七,一〇九
絹及人絹織物	—	三,五三五	—	二,〇三三
鈕釦	—	一八九	—	一六四
陶磁器	—	六四	—	三三三
製帽用眞田	三,六七千束	一,一七	—	八三三
其他共全國計	—	一,一七	—	二,五四七
内阪神兩港	—	一五,三三八	—	八,六九
合成染料	四四,一五斤	五〇千圓	二〇,三四斤	六三,一〇圓
毛糸	二二	二	二五,九二	三六

品名	一九三三年	一九三二年	一九三一年	一九二八年
毛織物	3,275擔	3,550	4,575擔	1,570
アルミニウム	—	27	—	269
自動車及同部分品	—	84	—	6
發電機及變壓器	8,975斤	3,433	17,808斤	4,448
其他ノ機械類	—	3,746	—	3,094
其他共全國計	—	10,875	—	8,745
内阪神兩港	—	—	—	—

米 國

吾が生糸の大消費國として本邦輸出大市場の一つであり、永年繁榮を誇つてゐた米國も世界を擧げての不況の波に巻き込まれフーヅアの復興金融會社をはじめとする必死の彌縫策も効なく、一九三三年二月シンガンに端を發したる金融恐慌は全米を席捲し、米國未曾有の大金融恐慌となり三月ルーズヴェルト大統領就任後旬日を経て金輸出禁止が行はれ、世界資本主義の牙城、米國の金本位制度が崩壊し、その結果ドルの低落とインフレ政策とが現出した。この金融皆既蝕の暗闇のなかで財界救済策が論議され遂に農業救済法の出現となり國家産業復興法、所謂NRAの發動となつた。

かくして本年の米國經濟界はル大統領の必死の不況克服策により——世界恐慌が全般的に小康状態に入つた事も手傳つて——幾分明るみを見せた。然し乍らこの一年間は米國にとつて實に苦闘と試練の連続であつた。

最近米國財界の趨勢

貨物	一九三三年	一九三二年	一九三一年	一九二八年
銀	60.7%	55.0%	55.1%	100%
貨	39.1%	45.3%	44.9%	100%

項目	一九三三年	一九三二年	一九三一年	一九二八年
生 産 價 値	66.5	57.7	55.0	100
株 業 率	44.4	33.3	33.8	100
就 業 率	61.1	53.8	51.5	100
資 本 行 業	8.8	14.7	16.3	100
資 本 行 業	37.7	33.6	47.3	100
資 本 行 業	35.4	33.3	50.6	100
資 本 行 業	33.6	27.4	103.7	100
資 本 行 業	35.4	27.4	103.7	100
資 本 行 業	35.4	27.4	103.7	100

(備考) 世界經濟統計昭和九年第一號ニ據ル

米國本年の貿易は上半期は輸出入共に萎縮して前年同期に比し輸出二〇・三% 輸入二〇・七%の減少で同國貿易の最低記録を辿つてゐたのであるが、ル大統領の不況克服策により五六月頃より諸産業が活潑となり、それを反映して下半期から輸出入共好轉し、前年同期に比し夫々三〇・四% 四八・八%の増加を見た。かくして輸出十六億七千五百萬弗 輸入十四億四千九百萬弗となり前年に比し夫々四分、一割弱の増加を示し輸出入計三十一億二千四百萬弗となつた。然し好況時一九二九年に比較すると輸出入共なほ三分ノ一以下に過ぎない。

翻つて本邦との貿易關係を見るに本邦よりの輸出 四億九千二百二十三萬八千圓で前年に比し四千七百九萬一千圓の増、輸入六億二千七十七萬九千圓で一億一千九十五萬五千圓の増、出入差六千三百八十一萬四千圓の支拂勘定を見たわけであるが之蓋し米國はわが生糸の顧客であると同時に我が國が米棉の大消費國たる關係からであつて殊に八年はわが輸出綿糸布の活躍から米棉の消費激増せるによる。

對米主要輸出入品は左表の通りである。

品名	八 年	七 年
茶	二七、六三擔	三二、八三擔
	五、〇八千圓	四、七五千圓
		三九

水産物
 寒天
 罐詰食品
 植物性脂肪油
 除虫菊
 樟腦
 薄荷
 生糸
 絹及人絹織物
 絹製手巾
 メリヤス製品
 帽子
 紙類
 陶磁器
 硝子及同製品
 製帽用眞田
 ブラッシュ
 ランプ及同部分品
 玩具
 其他共全國計
 内阪神兩港

四九、九四三擔
 四、五九一
 二六、七八一、七二八斤
 三三四、一九九擔
 七三、四三四
 九、二五三
 二、五五八
 四七、四一九
 四〇、二八八打
 四四〇、一九五
 八八五、九〇四
 七、九九三擔
 八、八五九千束
 一、一七九
 一、一七九
 三、二七三
 六、九六六
 四九、一三八
 一六九、五〇四
 一、一七九
 三、三〇九
 一四、四二〇、六三三斤
 一六、七七〇擔
 八六、七三一
 八、二四〇
 二、二七四
 五三、九九六
 一三〇、七六打
 三三三、七三〇
 六三六、六四九
 八、八〇九擔
 一、七四一、一七束
 一、二五九
 四、六八八
 四、九八七
 四四五、一四七
 一五四、三八二
 四〇、八四三擔
 三、三〇九
 八、〇五三
 二、五〇三
 四、三四九
 一、二二八
 二、〇二五
 三六〇、四四九
 四、二四四
 二〇一
 五、一〇
 三、〇三四
 七、三五
 六、四四一
 四九二
 六、三三
 一、二五六
 四、六八
 四、九八七
 四四五、一四七
 一五四、三八二
 四〇、八四三擔
 三、三〇九
 八、〇五三
 二、五〇三
 四、三四九
 一、二二八
 二、〇二五
 三六〇、四四九
 四、二四四
 二〇一
 五、一〇
 三、〇三四
 七、三五
 六、四四一
 四九二
 六、三三
 一、二五六
 四、六八
 四、九八七
 四四五、一四七
 一五四、三八二

輸 入

四〇

米及穀類
 小麦
 皮類
 草類
 油
 苛性曹達(粗製)
 曹達灰及天然曹達
 合成染料
 棉花
 製紙用パルプ
 燐石
 其他ノ鐵
 アルミニウム
 鉛
 銅
 亜鉛
 自動車及同部分品
 發電機類及變壓機
 其他ノ機械及同部分品
 木材
 其他共全國計
 内阪神兩港

八八、一〇七擔
 四九、三六七
 一〇七、六九九
 一三、四三斤
 五、一八百ガロン
 一三、五八
 一三、五八八擔
 二四、四三七斤
 七、四三四、八〇擔
 七、五、二六
 二、四三、九二三
 八、三五四、四七九
 一、一四三
 三六八、六四四
 二四、九六四
 五三、〇三三
 一三〇、六六斤
 二、一八七〇
 二、一八七〇
 二、一八七〇
 六〇、七七九
 四三四、八四一
 一、一三七
 八八二
 三、一五三
 七、八〇三
 二、七二八
 二、七、九六
 九〇
 四、〇三
 七、三三八
 八三五
 一三、二八八
 三七六
 二、一八七〇
 二、一八七〇
 六〇、七七九
 四三四、八四一
 一、一三七
 八八二
 三、一五三
 七、八〇三
 二、七二八
 二、七、九六
 三、一三九、九〇
 一、一四三
 三〇四、六三五
 四、三四
 三三、五三
 一三、二八八
 五九三
 一、一三七
 二〇、三三
 五〇九、八七四
 三六〇、三七四
 一、一三七
 八八二
 三、一五三
 七、八〇三
 二、七二八
 二、七、九六
 三、一三九、九〇
 一、一四三
 三〇四、六三五
 四、三四
 三三、五三
 一三、二八八
 五九三
 一、一三七
 二〇、三三
 五〇九、八七四
 三六〇、三七四
 一、一三七
 八八二
 三、一五三
 七、八〇三
 二、七二八
 二、七、九六
 三、一三九、九〇
 一、一四三
 三〇四、六三五
 四、三四
 三三、五三
 一三、二八八
 五九三
 一、一三七
 二〇、三三
 五〇九、八七四
 三六〇、三七四

四一

米國主要相手國別輸出入額順位に於ける日本の地位は左表の如く益々其の重要さを増しつゝある。

米國主要相手國別貿易額(單位百萬弗)

相手國	輸出		輸入	
	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
日本	一三四・九	一四三・四	一三四・〇	二六・四
英國	二八八・三	三二・七	七四・六	一一・三
佛國	一一・六	一一・七	四〇・七	四九・七
獨逸	一三・七	一四〇・〇	七三・六	七六・二
加奈陀	二四一・四	二〇・五	一七四・一	一八九・一

カナダの資源は農作物(麥類)と森林と鑛山で、輸出重要品も亦此等の産物である。カナダの貿易は世界不況前までは輸出超過を常態としたのであつたが世界不況により農産物の價格崩落し爲に小麥を主要輸出品とする加奈陀は輸金額が減少し、その割に輸入を減ずることが出来なかつた。然し七八年に於ては輸入を可なり抑へた爲、再び出超となつた。

一九三二年のオタワに於ける英帝國經濟會議の結果に基く英國及屬領以外の諸外國よりする輸入品に對しての禁止的差別稅率の設定、更に爲替ダンピング稅の適用、斯くして傍若無人の改正が相次いで行はれ、其結果、以前は米國を第一としたカナダの貿易も英國へ引きつけられることが強くなり、他面米國との經濟關係も多少薄くなつて行く傾向が見える。

翻つて我國との貿易關係を見るに、我が國はカナダにとつては第六位の輸出先であるが、近年我が國からの輸入は

輸 出

品名	八 年	七 年
米 及 穀	六、六三擔	四、一九擔
生 糸	二五	一、二五
絹及人絹織物	二〇八	一、一五
陶 磁 器	二六八	五〇八
陶 磁 具	一、三九	一、三七
其他共全國計	四一〇	五〇八
内阪神兩港	六、五〇	八、五二

他の英領地の如く「國產保護」の美名の下に行はれた不合法な經濟封鎖の爲めにその輸入額の何割かを削減せらるゝ運命に出合つたものである。然しカナダから我國への輸出は増加を示した。蓋しこれ製造國として原料品に乏しき本邦としてカナダは其の原料品を容易に吾國に供給し得る好地位に在る當然の結果と見らる。

主なる對カナダ輸出入品は左表の通りである。

品名	八 年	七 年
小 麥	一、八四、六〇擔	一、九三、二〇擔
製紙用パルプ	六八、四三	四五、五七
印刷料紙	四三、八七	四三、三六
鉛 鉛 紙	五〇、二〇	三八、四九
亞 鉛	二四、〇〇	一七、二六
木 材	七、六三	七、三四

其他共全國計
内阪神兩港

四六、八五
三三、三六

三九、〇五
一七、三六

四四

1 アフリカ

世界不況の深化と共に、列國均しく不況に陥り、國際經濟現象は日に複雑を加へ國際市場の狹隘を告ぐる今日アフリカは累年本邦輸出貿易上に於ける重要さを増し、昨八年には一億三千七百萬圓に躍進し、總額に對するパーセントは七・四で歐洲の一億八千二百萬圓、九・八に伯仲するも或は近き將來にあるにあらずやと思はしめる。本邦對阿輸出品の王座を占むるは綿織物であるが、其他人絹織物、殊に雜貨の進出振りは花々しい、本邦對阿貿易を地域別に見るに、

埃及 八年當地への本邦品輸出額は五千五百六十萬八千圓で前年に比し千三百七十三萬圓もの増加を見たが之綿製品増加に基くものである。

尙主なる輸出品は綿製品を初めとし、絹及人絹織、メリヤス製品等染色工様品であり輸入品としては棉花、燐礦石がある。

南阿 「トランスバール」「オレンヂフリール、ステート」「ナタル」「喜望峯植民地」「ベチユアナランド」「スワジランド」を總稱するもので、南阿に於ける排日は極めて烈しく、蓋しこれ南阿物産の東洋進出殊に本邦への進出が諸事情から困難なるため、兩國の貿易が片貿易となり易きこと及親英派の勢力回復等あるが爲の様で、この意味に於て多少の不利不便は之を忍んでも羊毛を買付くる事等により片貿易の調整が肝要であるまいか。

尙本年の當地への本邦輸出額は二千六百七十四萬一千圓で昨年よりも約一千萬圓の増加を見た。
南阿 「ケンヤ、ウガンダ、タンガニカ」の總稱で一九三三年の當地輸入統計に於て最も顯著なる事象は價額並にパーセントに於て本邦品の進出著しい事であつた、本年に於ける本邦品の當地への輸出額は二千三百十七萬五千圓で前年に比し約七百四十萬圓の増加を見た。

尙當地アフリカ棉は埃及棉に比し品質さまざま劣らず故に最近輸入漸増の傾向がある。

其他 前記諸地方を除いた地域の總稱でこれら地域との貿易關係は交通不便の關係もあり從來かなり不振であつたが最近本邦品の勢力が及びつゝあり、エチオピア地方も最近邦品歡迎され西阿及奧地コンゴ地方は本邦から最も地理的不利の立場にあり多額の運賃を必要とし之がため歐洲品との對抗上非常に不利な關係にある。最近モロッコは本邦との取引増加を來し綿織物、人絹織物、雜貨玩具等の本邦品進出見るべきものがあり、邦船もカサブランカに歐洲航路船を特に寄港せしめることになりし故同方面進出も好都合となつた。其他に含まる、地域への本年の本邦品輸出額は三千百七十一萬五千圓で前年の約三倍を見るに至つた。

對阿地方別貿易額並に主なる輸出入品を見るに左表の通りである。

輸 入	輸 出	
	八 年	七 年
埃及	五、〇八千圓	四、八七千圓
南阿	二六、七二	一六、四一八
東亞	三三、七五	一五、七六〇
其他	三二、七五	二一、六四〇
計	一三七、三九	八五、六九五
棉織物(埃)	四、〇二擔	八千圓
綿織物(南)	三、五七	二九五
綿織物(南)	二、〇〇、五二千方碼	三、八、五二
其他	一、六、一〇一	五、九二二
其他	二、二四三擔	四八千圓
其他	五、一〇一	三三六
其他	一、五、四、五千方碼	二七、〇六九
其他	三、三、三六	五、三九九
其他	四、五	

品名	八 年	七 年	六 年
絹及人絹織物 (埃)	七、七五	—	九、一八四
タオル (埃)	八、六一	—	五、六六六
絹手巾 (南)	四、四二	—	—
メリヤス製品 (埃)	一、三七一	—	—
鈕釦 (埃)	八七、四三	—	—
陶磁器 (埃)	—	—	—
硝子及同製品 (南)	—	—	—
鐵製品 (埃)	—	—	—
木材 (南)	—	—	—
器具 (南)	—	—	—
其他共全國計	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—
輸入	—	—	—
棉花 (埃)	三六、四四擔	—	—
羊毛 (南)	二、九〇六	—	—
燐石 (埃)	四、九四三、二八四	—	—
其他共全國計	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—
輸出	—	—	—
棉花 (埃)	—	—	—
羊毛 (南)	—	—	—
燐石 (埃)	—	—	—
其他共全國計	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—
差引	—	—	—
超入	—	—	—
超入	—	—	—

濠洲

世界不況は決して濠洲をもその埒外におかず、對英本國を初めとし對歐諸國への輸出額は縮少を辿り、その所得の激減に苦惱する濠洲を救つたのは日本である。日濠貿易状況を見るに左表の如く日本にとつては支拂勘定の最も大なる國の一つであるが、少くとも兩國相互の經濟依存度といふものが年々高められつゝあること明瞭である。

對濠洲貿易額 (單位千圓)

品名	八 年	七 年	六 年
輸出	五、四六六	三、八九五	一、八四〇・六
輸入	三、四、五六	一、三、四、二七	一、三、三、三七
差引	一、五、七〇	九、五、三二	四、五、三二

對日輸出に於いては羊毛と小麦がその大宗をなし、この濠洲羊毛を狭んで日英羊毛工業の角逐は濠洲を義理と算盤のチレンマに陥らしめ、その最大市場たる英本國の需要は頻りに減少を示し、これを償ふものは佛國を飛び越えて第二位の市場となつた日本の需要激増である。又亞鉛とか皮類とか軍需品とも見なすべき品物の本邦への輸出が増加してゐる。

輸入關係においては英國が壓倒的優勢を示してゐるがその割合の漸減傾向にあるは日本其他の工業國の競争及び英國よりの衣料纖維、金屬機械等主要輸入品が濠洲においても手厚い保護の下に發展して來た爲めである。本邦より濠洲への輸出は絹及人絹織物、綿織物、玩具、硝子製品、鐵製品等が二倍近くに激増し、其他の商品も夫々増加し本年に於ける本邦との貿易は輸出入共前年より五割近くの激増であつた。對濠主要輸出入品は左表の通りである。

輸 出

品名	八 年	七 年
生 糸	四、一五擔	三、一六五千圓
絹織物(人絹共)	—	一六、六三
綿 織 物	四、九七平方碼	四、八七五
帽 子	一〇、〇〇〇	五三二
鈕 釦	一三、六七打	二八四
陶 磁 器	四九三	一、七六八
硝子及同製品	三〇〇	三三八
ランプ及同部分品	二、七〇七	三三八
瓶 具	七五六	四三三
其他共全國計	六〇七	八六一
内阪神兩港	一、八三三	三、八九五
其他共全國計	五、四一六	二四、五三六
内阪神兩港	三、七〇〇	—
小 麥	六、五三、三三擔	一〇、二六四、六三擔
牛 肉 (生)	三、八七	四〇、〇五八
皮 類	二、四九	四四八
牛 脂	二、二	一九三
羊 毛	五、四一六	二、四三七
鉛 (塊及錠)	一七、四七二	八四、四四六
錫 (塊及錠)	一、七五、六三三	三三
其他共全國計	三、八八八	一、五九五
内阪神兩港	二、一〇〇	二四、二七七
其他共全國計	一、〇〇、一七五	四九、五七四

第二節 重要品輸出入概況

a 輸出品概況

食 料 品

小 麥 粉

品名	八 年	七 年
全國輸出高	五、三〇四、二四九擔	三、六九四、八八擔
内阪神兩港	八五四、四〇八	六四七、七三
其他共全國計	六、〇六、一五三	四、〇六四、〇〇〇

本年度輸出は内需減退をカバーする爲各社必死の努力の結果新記録を作り業者多年の目標であつた一千万袋を遂に突破し一千四百三十二萬一千袋に達し前年より四百三十四萬袋を激増した。之は滿洲國の秩序回復による同國向の著増及び上海粉が銀高とデフレーションの爲長期間大部分の工場が操業を休止した結果と、米國、濠洲粉が爲替動搖の影響を受け危険の爲輸入者が忌避したからである。

主要國別輸出高(全國)(阪神兩港は卷末統計参照)

品名	八 年	七 年
滿 洲 國	一、四七、〇六擔	三二、九四擔
關 東 洲	三、三六、六九	一、七四、三三
中 華 民 國	四八、七〇〇	一、五八、三三
其他共全國計	三、三〇〇、九五三	八、九八、一三三
其他共全國計	三、三〇五、三七一	一、九三、七四圓
其他共全國計	二、八〇八、〇一八	九、四三、七三
其他共全國計	—	八、九八、一三三

相場は年初インフレ透見越しと米價の暴騰で高値を示したが其後重要商品一齊反落の影響を受けると共に米國金

融恐慌等の軟材續出、米價の割安で需給上の一大脅威を受けたが共販の奏効、輸出の増進に加へるに昨年來の爲替安小麦關稅引上等により業績は向上した。

内地製粉相場(朝日經濟年史)

最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月 三・三〇	二月 三・四〇	三月 三・五〇	四月 三・五五	五月 三・五五	六月 三・五五
七月 三・五五	八月 三・五五	九月 三・五五	十月 三・五五	十一月 三・五五	十二月 三・五五

尙商工省調査によれば八年度生産高は三千六百八十六萬六千袋、輸出一千四百三十二萬一千袋、輸入三萬九千袋、内地需要二千二百五十八萬四千俵の需給關係を示してゐる。

精糖

八年度	七年度
全國輸出高 二一七、三三七	一、三九九、五〇七
内阪神兩港 九五、三三七	六三二、七六七
	三、三〇一、四七〇

滯貨一掃の爲輸出に全力を盡したると、減産の實行により漸く需給關係圓滑となる。外糖の輸入は附加關稅設置の爲防止せられ内地糖價は昂騰した爲各社は廉價な外糖を輸入精製して輸出した爲輸出は前年の二倍、輸入は三倍に激増するに至つた。

主要國別輸出額(全國)(阪神兩港は卷末統計を参照)

滿洲國	九六、七〇三擔	六三、八四二圓
關東洲	一、〇五、九四二	六九、九四一、一五
七年度	一九、四七七擔	一三六、五九九圓
	七九、八四〇	四、四一六、五〇

中華民國	九〇、五五五	六、一五八、七二
亞露	八、三三三	五九、三三五
		五〇、一六六
		二、八五三、四八四

對支輸出は排日貨の幾分緩和せると支那の關稅引上による密輸入誘發の爲前年に倍加し、關東州、滿洲國方面への伸張も大なるものがあつた。

産糖高は一三、四一五千ピクル餘で前期の一九、二七八千ピクルに比し約五、八六三千ピクルの激減となり、一方輸入は瓜哇糖を主とし前年の六七一、二九九擔から一躍二、二二〇、一二四擔に激増した。

大阪精糖現物(納稅百斤建)相場

最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月 三・四〇	二月 三・五〇	三月 三・五〇	四月 三・五五	五月 三・五五	六月 三・五五
七月 三・五五	八月 三・五五	九月 三・五五	十月 三・五五	十一月 三・五五	十二月 三・五五

二月に我國の國際聯盟退、四月には米國の金本位離脱、延いて歐洲金本位ブロックの不安、瓜哇の未曾有の滯貨等弱氣材料のみにて局部的には上げ相場ありたるも大局より見て漸落の一途を辿りたりと云ひ得る。

八年度生産高が前年に比し五百八十六萬擔方減少せるに不拘相場安は前記理由の外七年度増産によりて同年度末持越糖可成ありて供給に懸念を要せざる爲なり。

世界一般財界の沈衰に依る消費減退と各國の自給自足主義は益々輸出を阻止せしめ、世界二大産糖國たる瓜馬及瓜哇の一九三三年度輸出高は前者二百四十萬噸、後者百三十三萬噸と何れも前年度に比し約二十萬噸を減少するに至れり。

斯くの如き傾向は今後益々顯著となるを以て世界消費が激増するか瓜馬及瓜哇始め各國が大減産を斷行せざる限り世界糖界需要の均衡は得られざるなり。

一九三二年九月—三三年八月の世界産糖高は二四、六九二千英噸、消費高は二六、一九三千英噸を示し、前期の生産高は二千六百九萬噸であつた。

寒 天

全國輸出高	八年	三、八三三擔	三、一九八、九三圓	七年	三、三三四擔	三、一六五、五三圓
内 阪 神 兩 港		三、〇九四	三、〇五〇、一〇〇		一、八八三	三、〇〇七、一七
中 華 民 國		六七〇擔	八九、三五九圓		一、三三擔	九四、三九圓
香 港		三三	二九、二七		七	一〇、三三
海 峽 殖 民 地		一一五	一五、七七八		六四	九三、一五四
關 領 印 度		二、〇八	四八、六五		三、六五	四八、四六
英 國		二、三二	三四、七五三		一、〇八	二七、六八
佛 國		二、五九	三三、三三		二、一〇	三〇、三〇
獨 逸 國		三、四六	四八、一三六		三、五二	五三、三六
米 國		四、五九	六四、九三七		三、〇九	五三、四三

日本特産を誇る寒天の輸出は前表の如く主として阪神兩港よりなされ、兩港の輸出は前年に比し二千擔餘、四萬三千圓と僅少乍ら増加を見た。
輸出市場第一位を占むる米國へは六十七萬五千圓の輸出を見前年に比し十三萬七千圓の増加を示したが之は爲替相場の高落、平價切下説による見越買の旺盛にあつた。歐洲市場は財界の不況、政府の干渉等があつたが獨逸を除き英佛共に微増を示した。嘗ての大市場であつた支那は日支紛争以來激減し未だ恢復の緒につかぬもの、様である。

主要國別輸出額(全國)(阪神兩港は卷末統計参照)

寒天の生産は長野縣を筆頭に大阪、兵庫、京都、岐阜等の順位にある。

生 産 額

大阪、京都府兵庫縣寒天水産組合	八年	一七五萬斤	七年	一六萬斤
長野縣 山梨縣		一四〇		一三〇
岐阜縣		一五		一五
枹 太		一七		一五
其 他		五		四
計		三三三		三四〇

(西宮寒天株式會社調)

細 寒 天	約 一五萬斤	内地向	約 四七、五〇斤
角 寒 天	約 二〇萬斤	海外向	約 二、四三、〇〇斤 (主トシテ歐米向)
		内地向	約 七七、五〇斤
		海外向	約 三七、五〇斤 (主トシテ南洋向)

用途は製菓、糊、酒類清澄、醫藥、微菌培養基、オブラート、水菓子、料理、寫眞乾板等々近來益々用途擴大しつつあり。

歐米向一等品每百斤關西品相場

昭和八年	上旬	中旬	下旬(南洋向角寒天)	前年末高値よりザリ安となり生産控への念強く相場下落す
一 月	一七〇	一五五	一三〇	
二 月	一五五	一五〇	一八五	周圍の惡材料にて一層下落す
三 月	一四〇	一四〇	一三三	相場下落したるを以て一時少廉す

四月	一四〇	一四〇
五月	一三五	一七五
六月	一四五	一八〇
七月	一五五	一八五
八月	一五〇	一九五
九月	一五〇	二二五
十月	一五〇	二二〇
十一月	一五〇	二二〇
十二月	一四五	二二〇

結局十萬斤より十五萬斤程度年へ賣残り持越す

業者報ずる處に依れば南洋向角寒天は前年末より引續き高値に商談ありたるも漸次下落し五月迄はギリ安となりたる處へ原料高値と細寒天騰貴と共に弗々頭を上げ八月頃より注文多數ありたる爲急騰す、九月に入り殘品少數の處へ買注文來り暴騰し十一月には品切となる。

罐詰及罐詰食料品

全國輸出高	九八、六四、五三斤	四六、九四、四〇圓
内阪神兩港	一八、一五、八三	五、〇三、五三
鳥獸肉	一三、五七、七〇	九〇、四四圓
蟹	七、六八、五二	三九、三、九
其他魚類	七、五三、三一	一、四九、八、五九
貝類	八、七、〇五	三九、二、〇五
蔬菜類	五、八七、八三斤	三、七四、〇六圓
調味料	九、三、五、八四七	二、九六、五〇
其他	一、四九、八、五九	六、五、〇、六圓
其他	五、五〇、七元	五〇七、六六
其他	一、五、六、八四	一、五、六、八四

八年

七年

輸出向内地向共に統制問題で苦惱したが爲替安の風雲に乗じ躍進し生産額は従来の記録を破るの盛況であつた。鮭鱒罐は四十萬函内外を有利な佛國市場へ送り、各工場は佛國向製造に工場能力を集中した。

蟹罐は歐米人の嗜好に適し消費は年々増加しつゝあり本年度も生産制限、販賣統制及び輸出増加の爲ストック減少し順境に向ふ。鮭鱒罐は對米輸出がNRAにより防遏せられ苦境に陥つたが限産、共販により血路を開いた。鱈罐は佛國の輸入制限により英國に溢れ出したが之亦重税により退却の已むなきに至つた。然し南洋市場は米品を驅逐し獨占の域に達した。

次に日本罐詰協會の調査に係る八年度品種別生産並に輸出統計を掲げる。

牛肉	八〇、〇	一、〇〇、〇	四、〇五	七〇、九七
牛肉野菜	一〇、〇	一三〇、〇	—	—
豚肉	四〇、〇	五〇〇、〇	—	—
煉乳	七、四、六	九、二八〇、二	—	—
其他鳥獸肉	一〇、〇	一、〇六、〇	—	—
鮭	一、四四、九	二、五、六九、一四	(鶏肉)五	一、〇、九六
鮭油漬	七〇、五	九、五三、四〇	一、一六四、四九	二〇、九九、三六二
鮭・油漬	一一、〇	九、五三、四〇	六八〇、二〇一	九、一八、七九二
トマト	三、四、四	九、四三、〇	三三、三、九	一八、二、七三九
オイル	四、三	二、三三、二、〇	三二、七、七三三	二、一六〇、三六四
鯨	三、五、〇	三、五、〇	三、四、二、六	六、五、七、四三
其他魚類	三、六、〇	一、四、五、四	—	—
蟹	三、〇、八	一、四、三、六、一	四、四、一、〇、九	一九、六、四、一、八五五
蝦	〇、二、〇	四、八、〇	三、四、二、四	八、一、九、三、六
蝦ボイルド	—	—	—	—

原料及原料用製品

薄

荷

鮑	156	103,8	17,128	33,534
帆立	105	154,8	761	11,334
北寄	154	196,3	8,465	107,928
蛤蜊	55	30,7	45,940	269,485
蝶螺	255	21,6	5,607	46,538
其他貝類	3,1	244,9	9,771	99,009
桃梨	500	33,5		
鳳梨	1,054	7,278,8		
ジャム類	800	1,000,0	33,829	1,008,534
蜜柑	2,000	1,400,0	3,635	46,477
其他果實類	79,5	75,3	(其他漬物)	
福神漬	95,0	93,5	5,701	54,159
グリンドース	58,0	506,9	7,191	53,93
松茸	30,0	540,0	5,399	6,222
海苔	30,7	579,0	5,729	19,068
其他共計	15,5	13,5	3,037	3,037
合計	6,075,1	82,179,3	3,007,001	5,932,876

薄荷脂 全國輸出高
内阪神兩港

八 年
53,800斤 5,232,634圓
56,423 5,140,600

七 年
48,450斤 3,689,212圓
41,643 3,678,355

薄荷玉	全 國	135,564打	157,812圓
	阪 神	13,359	137,499
薄荷油	全 國	52,700斤	2,006,755圓
	阪 神	52,166	2,004,180

薄荷玉	全 國	99,999打	94,088圓
	阪 神	7,219	7,474
薄荷油	全 國	54,348斤	1,259,894圓
	阪 神	54,192	1,257,290

脂は主として神戸港より輸出され米國が其半を占め佛國、印度等之に亞いでゐる。油は英佛獨等に向けられ之亦神戸を主要積出港とする。兩者共昨年引續き輸出漸増す。主要國別輸出高(全國八年度)(阪神兩港は卷末統計参照)

薄 荷 脂

薄 荷 油

米 國	2,588擔	2,921,933圓	1,786擔	67,666圓
佛 國	1,497	1,466,944	1,555	57,574
印 度	325	2,840,068	1,056	39,845
海峽殖民地	168	19,767	10	9,455
英 國			1,786擔	67,666圓
佛 國			1,555	57,574
獨 逸			1,056	39,845
海 峽			10	9,455

神戸相場(斤建)(長岡佐介商店調)

薄 荷 脂	高 值	安 值	高 值	安 值	高 值	安 值
一月	16,000	14,550	15,000	13,000	13,000	11,550
五月	23,750	21,000	23,000	20,300	21,000	19,500
九月	9,500	9,000	9,000	7,500	7,000	7,500
二月			15,000	13,000	13,000	11,550
六月			23,000	20,300	21,000	19,500
十月			9,000	7,500	7,000	7,500
三月			13,000	11,550	11,550	10,100
七月			23,000	20,300	21,000	19,500
十一月			7,500	7,000	7,000	7,500
四月			13,000	11,550	11,550	10,100
八月			23,000	20,300	21,000	19,500
十二月			8,000	7,500	7,500	7,500

薄荷油

一月	高値 六、四〇	安値 六、〇〇	二月	高値 五、四三	安値 三、四三	三月	高値 五、四三	安値 四、七五	四月	高値 五、三三	安値 五、〇〇
五月	高値 五、四〇	安値 四、七五	六月	高値 五、五〇	安値 四、三三	七月	高値 五、二五	安値 四、八〇	八月	高値 四、五〇	安値 三、五五
九月	高値 三、四〇	安値 三、〇〇	十月	高値 三、〇〇	安値 二、五〇	十一月	高値 二、五五	安値 二、〇〇	十二月	高値 二、七〇	安値 二、〇〇

舊冬來軟調なりしも二月に入り思惑買に依り幾分強含となりしも海外筋進まず、活況を見ず、三月平凡、米國金融恐慌も大した影響なく五月に入り對外爲替安の爲漸落歩調を辿り、加ふるに思惑筋の手持品賣抜により崩落す、六月幾分強調なりしも米國一般商品下落に伴ひ沈靜持續、八月には收穫豫想大增收の報に一段と軟化し、新物出廻につれ益々軟弱裡に十、十一月を経過し、抄々しき手合せもなく越年す。

除虫菊

全國輸出高	八、〇八擔	六、三九、九三圓	七、年	九、四、六八擔	四、七三、二九圓
内阪神兩港	五、三二八	五、五六、八〇〇	八、年	八、七、八五	四、三六、六六圓
米 國	七、三九九擔	五、四九、七六圓	七、年	六、七、三三擔	四、三三、〇三圓
濠 洲	九、四五	六、四、五	七、年	七、〇六	二、五、〇六

主として神戸港より輸出され前年に比し數量に於ては約一萬擔の減少を見たが價額に於ては却つて百六十萬圓方の増加を示した。

輸出の約九割は米國向で然も米國の本品輸入は主として日本に仰いでゐる。用途は勿論除虫劑で溶劑により殺虫素を抽出しスプレイ液としフリット等の商品となつて宣傳せられ一般家庭に使用される。

主要國別輸出額(全國)

神戸相場は七月には百斤建高値九〇圓安値七五圓の大波瀾を見以後九十圓を前後しつゝ、越年した。

本品は主として北海道の生産にかゝり昭和七年度全國生産額一、三二六千貫三、七三〇千圓中北海道は六六九千貫一、八二六千圓を占め、其他廣島、愛媛、和歌山、岡山等の諸縣を主産地とする。

樟腦

全國輸出高	八、年	二七、六四擔	四、四三、〇八圓	七、年	三三、四七擔	五、五二、〇四圓
内阪神兩港	八、年	二七、五九七	四、四三、五五	七、年	三三、四八七	五、五〇、一四圓

米國印度を大市場とし主として神戸港より輸出される。本年度輸出額は四百四十四萬五千餘圓で前年に比し九十萬四千圓の増加を示した。

主要國別輸出高(全國)

英 印	八、八四擔	一、二八、八三圓	七、年	六、三九擔	二、九七、七三圓
英 國	二、三三二	二、五三、一三	七、年	一、〇七	二、四一、六九
佛 國	二、三五一	四、四三、六五	七、年	一、四七	三、七、九三
獨 逸	一、七二	三、〇、五九	七、年	二、九	三、〇、四二
米 國	九、三五	一、五八、一三	七、年	八、三四〇	一、二七、六六
濠 洲	四、三	八、〇、七五	七、年	七、九	一、九、三〇

世界に於ける樟腦の需要は近時セルロイド工業の發達と共に増加し年額約七百二十萬担と稱せられ之に對し臺灣より三百萬担、内地産百五十萬担内外を供給し本邦品が其過半を供給し殘餘は獨逸を中心に伊太利、瑞西、佛蘭西より生産される合成樟腦により補足されてゐる。

我國樟腦生産は政府の專賣に屬し主として臺灣蕃地に於て原料クスノキを削り木片とし蒸餾により粗製品とし之を臺北及神戸に於て精製し政府は之に對し一定の補償金を交付して收納する事となつてゐる。

本年度本邦品輸出は品質の優良と爲替安とにより前表の如く増進したが合成樟腦も年々品質改良せられ其廉價を武器としてゐる丈に強敵として樂觀は許されず、天絹對人絹の轍を踏まざる様注意肝要で天然樟腦としての品質の低下なしに生産費の低下を研究し對抗すべきである。

硬化油

内 阪 神 兩 港	八 年		七 年	
	全 國 輸 出 高	内 阪 神 兩 港	全 國 輸 出 高	内 阪 神 兩 港
	三九、〇六、〇三九	三三、五三、七五三	三五、一六、一七〇	三〇、三二、四七〇
	四、九三、五五〇	三、一〇、七九七	四、三〇、七六八	二、八三、二八八

本品の過半数は神戸港より輸出され昨年に引続き好況を呈し、前年に比し阪神兩港に於て二十二萬三千圓増の三百十萬六千圓の輸出を見た。

原料パラフィンの價額暴騰の爲魚油類使用傾向顯著となり、朝鮮空素の魚油買占、朝鮮油脂會社新設計畫等あつて原料協定が問題となつた。

尙硬化油販賣會社(朝鮮空素を除く)が一月に設立され需給調節、石鹼界の統制に善處した。

海外では印度が自國石鹼保護の爲禁止的關稅を賦課した爲一大打撃を被つたが阪神兩港同國向輸出は前年に比し倍加した然るに第一位を占める獨逸は約三分ノ二に著減した。

阪神兩港主要國別輸出高

獨 逸	八 年		七 年	
	八 年	七 年	八 年	七 年
獨 逸	四、八四、七四九	六、三、七九〇	八、三〇、〇七九	一、〇二、八〇〇
印 度	二、三三、八三六	四、〇〇、〇〇六	一、四三、四三八	一、九四、〇五七

硬化油は動植物油脂に水素を通じニッケル等の觸媒により得られるもので其用途としては紡織用ヘット石鹼原料(椰子油、牛脂等と混合して用ひられる)、食用脂肪及人造牛脂、蠟燭原料等で尙硬化油を加水分解して得たグリセリンは工業用、醫藥用又はダイナマイトグリセリンとしても使用し得られる。

生 絲

英 國	八 年		七 年	
	八 年	七 年	八 年	七 年
英 國	一八、三六、四四九	一四、六五、九七〇	二二、九五、七七〇	九、三三、四〇〇
佛 國	二〇、八五〇	一五、三六、三九九	一一、九五七	七、一〇、一〇〇
米 國	四三、七、四一九	三五、八〇、五九四	五二、九九六	三六、〇、一四八、七五
濠 洲	四、一、五九	三、二九、七、三五	四、四、一七	三、一、六五、〇〇
其他共全國計	四三、三、七六	三五、〇、九〇、〇六	五四、六、五九〇	三八、三、六、四三
内 神 戶 港	一四、五、一六	一八、〇、九〇	一七、四九六	二二、一、三、九六

本年神戸港本品の輸出は數量十四萬五千八百八十六擔、價額一億一千六百二十萬九千九百三十圓で、昨年に比べ數量三萬二千三百十擔、價額四百九十九萬四千三十六圓の減少を見るに至つたが、これ全く對米輸出著減を見たことに因るもので、反之英國、佛國の如き歐洲方面への輸出は低爲替の効目もあり却つて増加を見た位である。

對米輸出の著減は何に歸因するかは最近の人絹進出が此を雄辯に語つて居ようがこの外NRAの運動が豫想程の効果を擧げ得なかつたこと、絹業の爭議、日本市場の供給過多を見越して極度の買控へが行はれたこと等も間接的原因であつた。

而して本年の對米輸出減がこの程度に止つたのは四、五、六、七の四ヶ月の輸出が米國のインフレ煽揚政策の結果假需要を喚起したためである。

生糸の輸出不振かくの如き有様とて我蠶糸界は意氣頗る揚らず多年の懸案たる販賣統制の問題、生糸消費の宣傳其他蠶糸業更生策が強く叫ばれ年末には操短、出荷制限などの應急對策が叫ばるゝに至つた。

大體本邦生糸は其の輸出が主として米國に限定さるゝ關係から從來とても米國の景不況即ち其の購買力の増減に左右さる弱點を有し居るものであるが最近の情勢はこの外に人絹といふ強敵が出現したゞけ益々始末が悪くなつて來た様である。

本年國內繭産高を見ると春蠶生産數量は五〇、一〇二、四九二貫、前年より八分増、夏秋蠶生産は五一、一四四、五三九貫で一割九分増、兩者合して二割三分増であつた。

而して春繭出廻當時の絲價暴騰が次期の生産を擴大せしめたのであるが絲價既に下落を見居つた結果養蠶家は期待はづれを見たと如くであつた。

市價推移 米國のインフレ景氣に煽られ猛烈なる反撥を見た絲價も八月に入り繭の大増産、米國絹業労働争議、消費減退、内外在荷の累積等惡材料の續出から十一月の最低は現物五百二十圓を示し六月の最高に比べると半値以下の慘落を見た。

横濱現物價格相場

月	最高	最低
一月	六九圓	六五圓
三月	六九	六三
六月	一〇六	八五
九月	九〇	七〇
十二月	六〇	五三

綿糸

年	滿洲國	關東洲	中華民國	香港	英印	蘭印	其他共全國計	内阪神兩港
八年	三、六三擔	三、〇九九、八五圓	六、四四九	一、二五五	三、四三六	五、二六六	一、九五三	一、四〇九、九六
七年	一、三、三三擔	九、五、三〇圓	一、一、七二	三、二四七	二、四、五〇四	一、三、三六、九九八	一、五、三、〇九九	一、四、四、〇七〇
		六、七〇、〇七七	二、五、六、九〇五	一、三、三六、九九八	一、五、三、〇九九	一、四、四、〇七〇	二、二、九、九六	二、二、四、六、六六一
		二、一、七二	二、五、六、九〇五	一、三、三六、九九八	一、五、三、〇九九	一、四、四、〇七〇	二、二、九、九六	二、二、四、六、六六一
		一、一、七二	二、五、六、九〇五	一、三、三六、九九八	一、五、三、〇九九	一、四、四、〇七〇	二、二、九、九六	二、二、四、六、六六一
		九、五、三〇圓	六、七〇、〇七七	二、五、六、九〇五	一、三、三六、九九八	一、五、三、〇九九	一、四、四、〇七〇	二、二、九、九六
		三、〇九九、八五圓	六、四四九	一、二五五	三、四三六	五、二六六	一、九五三	一、四〇九、九六
		三、六三擔	六、四四九	一、二五五	三、四三六	五、二六六	一、九五三	一、四〇九、九六

阪神兩港本品の輸出は數量十三萬二千三百三十二擔、價額一千四百四萬六千三百五十九圓にして前年より數量九萬九千五百八十六擔、價額三百三十八萬一千八百三十二圓の減少を見た。

かゝる激減の因は主仕向地たる印度、蘭印、香港への輸出が關稅關係及主仕向地における紡績業の發達から激減を見たと綿布輸出活況による内需多く終始品薄を感ぜしめたとに在つた様に思はる。

生産 紡績聯合會の實行せる操業短縮は年を通じ各月四晝夜休業、二割の休鍾を繼續實行したのであるが本年の鍾數は前年に比し著しき増加を見た結果四月には二十五萬七千六百二十一柵、十二月には二十八萬九百二十二柵と劃期的増産を見、前年に比し各月平均約一割二萬四千百十八柵の増産であつた。

全製品

綿織物

其他共全國計
内阪神兩港

六五、五四四、七三
三九、二四、八五〇

五六、二八七、五九九
三、七五五、九六四

六六

市價推移

三井銀行考査課調 羽二重大聖寺優等品百匁下旬相場

八年一月	100.00	四月	100.00	七月	110.00	十月	90.00
二月	90.00	五月	110.00	八月	100.00	十一月	80.00
三月	80.00	六月	110.00	九月	100.00	十二月	80.00

人絹織物

全 國	八年	七年
阪神兩港	七、三八、七五〇 六、一七、九三二	六〇、五九、九四〇 五、二五、〇九七

阪神兩港本年の輸出額は六千七百七十七萬四千圓弱を示し前年より一千四百五萬九千圓の著増を見たがこれ全くわが輸出人絹織物の質的轉換及新市場開拓に對する努力の結果であつて、本年第四四半期以後における輸出の活況に歸因する。

わが人絹織物の輸出は近年飛躍的發展をなし來たり殊に金輪再禁止來爲替の軟調はこの傾向に益々拍車をかけた觀があつたのであるが此の結果は列國のプロツクエコノミー化を促進せしめ本年三月印度の高率關稅賦課を始め主要市場における關稅の引上から八月頃まではわが輸出頗る遅々たるを見たのであつた。

殊に本品の大輸出市場たる印度向輸出は關稅引上のために前年の約三分の二に著減するの悲況を見せたのであつたが前述の如く第四四半期以後に及び濠洲、海殖、南阿、埃及、中南米、關東州、比島、シヤムを始め歐洲市場への輸出振興の結果八月以前の不振をよく取り戻したのであつた。

尙本年の特異現象としてわが對印輸出の質的變化を來たし双人絹は大部分人絹綿交織品に置きかへられたがこれ全く双人絹に對し禁止的高率關稅を課せられた結果に外ならぬ。

印度市場の減退により蘭印はインドと殆ど同地位の重要性を帯ぶるに至つた。

本年の輸出は前述の如く下半年の活況から前年に比しかなりの著増を見たが七年の六年に對する増加率から見ると稍々見劣りがせぬでもないがこれ世界的經濟ナシヨナリズム下においては已むを得ない所であらう。

國別輸出高

印 度	三三、〇〇六、七五二	方碼	一七、六三三、九八〇
蘭 洲	六〇、八〇二、七五九	方碼	一四、九〇〇、一五八
埃 及	二、一五二、二〇〇	方碼	九、三三三、六八九
南 阿	一六、二〇六、一三五	方碼	四、三七七、〇八
東 阿	九、七〇三、二二二	方碼	三、八二二、二九五
其他阿弗利加	二、八六一、三三七	方碼	八五二、七五五
中 米	二、七九三、二四四	方碼	五、五五二、〇三五
海 州	九、九三二、二五	方碼	三、四六八、六九七
關 東	二、六四三、五八七	方碼	三、二五七、一七八
其他亞細亞	五、〇〇八、三四九	方碼	二、一〇七、四五八
南 米	九、二六一、六八	方碼	三、〇六六、四九六
比 島	四、六四九、五九三	方碼	一、四八三、六三一
其他共計	二、九二九、九四〇	方碼	七三三、六六八
全 計	二六〇、〇五四、七五	方碼	七三、三六五、六五五

生産、本年度人絹の生産高は別表の如く一億八千九百九十萬圓強で前年に比し約四千萬圓の激増を見たがこの過半

は福井、石川の兩縣で生産された。尙七年來人絹工業の目覺しき進展から人絹會社の擴張、紡績、羊毛工業の人絹工業兼營目論見が甚だ多く之を見たのであるが本年中の新設會社は僅かに日本化學製絲、庄内川レーヨンの二社位だつた様である蓋し世界のブロック經濟強化現象其他困難なる事情からと見らる。

人絹織物生産高

双人絹織物	八年	一五〇、〇九、三三圓	七年	二二、七四〇、七五圓
人絹交織物		三九、八五、五三		二八、二〇、四四二
計		一八九、〇四、八五		一四九、九五一、一九七

市價推移

八年中福井現物市場當月物相場表

		(輸出向双人平二八吋二八〇〇本碼當り錢)			
		最高	最低	最高	最低
一月	三三、一	三六、五	一五	一七、八	一六、三
二月	一七、二五	二二、五	一五、四	一九、五	一七、九
三月	一四、三	二二、一	一五、八五	一四、七	一四、六
四月	一四、一	二二、二	一六、二	一四、一五	一三、四
五月			一五	一三、七	
六月			一五、四	一四、五	
七月			一五、八五	一四、七	
八月			一六、二	一四、一五	
九月				一七、八	
十月				一九、五	
十一月				一八、二	
十二月				一五、四	

(日本人絹聯合會調)

綿ブランケット

全 國	八年	五〇、八九〇擔	三六、六二、二四圓	七年	三七、四二擔	一七、八、九七圓
阪神兩港		四八、三六	三、五三、五二		三五、八三	一、六七、六〇

阪神兩港本年の輸出は數量四萬八千三百七十八擔、價額三百五十四萬三千圓強にして前年に比べ數量二萬二千五百十二擔、價額百九十一萬六千圓弱の激増を見るに至つた。

本品は綿糸紡績及水車紡績の二方法により生産され、前者は其の品質において、染色、起毛技術において優越せる點から所謂高級品として海外市場に好評を得て居るもので大阪地方で主として製せられ、輸出も本品が過半を占め居るのであるが今尙家内工業的に生産さる、後者は其の價額極めて安價なる點から海外需要殊に印度、支那における需要は中々無視しがたい處があるといはる。

本年の輸出は印度關係、支那の排日貨問題から支那、印度に對する賣行不振を見るの已むなきに至つたが其他市場たる暹羅、蘭印、海峽殖民地、香港、滿洲國への賣行は只さへ本邦品が安價にして優秀の評ある處へ固爲替安の武器が加はつたこと、順風に帆をあげた態で甚だ良成績を見せたがまた從來兎角遠距離と複雑なる爲替管理事情で發展しなかつた中南米への輸出も業者、船會社の協力により開拓大いに見るべきものがあつた。

尙これがため從來とても歐洲品は東南洋市場において其の價格高きに過ぐる關係から漸次其の影薄きを見つゝあつた處本年は其の勢力全く地に墜ちたとさへ言はれて居る。

メリヤス製品

全 國	八年	一六、六四八、〇五打	四〇、四四七、一七圓	七年	一三、七二二、〇三打	三六、九五五、三九圓
阪神兩港		一六、一〇、〇三	四〇、五七、八九		一三、三九一、三三	三六、一七、三七

こゝにメリヤス製品とは綿メリヤスシャツ、メリヤス靴下、メリヤス申又、メリヤス手袋の總稱であるが阪神兩港本年の輸出は數量一千六百十九萬打餘、價額四千五十萬七千圓強を示し前年に比し數量約二百八十萬打、價額一千四百三十八萬圓餘の激増を示した。

而してかゝる激増の因はこれを主仕向地に見るときは英印、蘭印、英國、阿弗利加及滿洲よりの需要多額を見たる

に在り、又品種別に見て綿メリヤスシャツ、絹以外のメリヤス靴下の輸出著増を示したことに在るが此實に本邦の圓爲替安による海外諸需要國の實需買旺盛を極めたと日印通商條約の廢棄或は世界經濟會議の失敗による各國通貨の下落案じ、將又列國のプロツクエコノミー強化による排他的關稅の頻々たる引上に因る海外輸入商の思惑買熱を刺戟せることに在つたと思はるもので現に印度、南洋方面はこれのため其の輸入遙かに實需を超過するに至つたと謂はる。尙米國の財界恐慌も本品の輸出先が多く磅貨關係であるためさまでの打撃とならなかつたことも本年輸出盛況を見たる間接的原因であらう。

然しながら海外情勢は今後益々本邦品輸入防止手段を強め來たらむことは明らかな處で此に對する處置は當然業界の生死に關する問題として當業者間に慎重考慮され居つた處今般去る三月から業者に一定率の強制貯金を課することにより價格の妥當性を圖ることとなり生産割當カルテルの形式によつて生産統制を實施することになつた由である。

全國主要國別輸出額

	八 年	七 年
滿 洲 國	三〇二、五九六打	三、七七七打
英 國	四、三六八、六六九	三、五〇〇、七六六
蘭 印	一、七二六、四三三	六、六九八、七七四
比 律 賓	一、二二五、三〇〇	二、五三四、六六一
英 國	二、三三三、〇八五	一、八六六、八六〇
埃 及	一、三三七、二九四	一、九七七、八七七
南 阿 洲	八七一、四三三	一、〇四二、九三六
其他共全國計	一六、四八八、〇九五	五五七、九五三
内 阪 神	一六、一九〇、〇三三	一、三七一、〇三三
	四〇、五〇七、二八九	一三、三九一、三三四

洋 紙

	八 年	七 年
全 國	一、二五五、一八五擔	九四四、五三擔
阪 神 兩 港	六九七、四六八	六六六、五七〇
	二、九五二、六五三	一、六一一、一〇六

阪神兩港本年の輸出は數量六十九萬七千擔餘、價額一千九百九十一萬二千圓強で前年に比し數量三萬擔、價額二百十萬圓餘の増加であつた。

本品輸出情況を見るに大消費市場たる支那への輸出は引續く日貨排斥の影響尠なからず本年は前年に引續き更に減少、これがため輸出前途に一抹の不安を感じたのであつたが幸に滿洲國、フィリッピン、南洋諸國への輸出は爲替安と業者の努力により著しく進展を見たる結果支那への減少も結局此等市場にてカバーして餘りあることとなつた。

尙從來相當見られる外紙の輸入は内地斯業の發達もあり本年はかた／＼圓爲替安による輸入採算不利も手傳ひ特種のものを除き何れも前年に比し著減した。

本品の主なる輸出は滿洲國、支那、南洋、印度の諸國であり輸入は主として加奈陀、瑞典、獨、英からである。

最近本邦内地における紙類消費高は左記王子製紙調査統計の如く逐年増加しつゝあり而も生産の増加に従ひ輸入が漸次減少で健實な歩みを示して居ることが知られる。

年	生産高	輸入高	計	輸出高	差引消費高
六年	一、六六六、〇六千噸	一四九、三二千噸	一、八〇五、四九千噸	一八、五四四千噸	一、六八六、九五千噸
七年	一、六八一、七七一	一三〇、九三	一、八〇二、七〇	一三、一六四	一、六七九、〇六
八年	一、八七七、七六	一〇八、二九	一、九八六、〇五	五四、〇五	一、七六一、一九

市價推移 年初聯盟脫退、米國金融恐慌等の軟材料續出から重要商品一齊反落の餘波を受け洋紙界亦一頓座を見るの己むなきに至つたが其後秋季需要期に入ると共にインフレの効目もあり買氣を煽つた結果市價高値に進み好轉した主要洋紙の相場を見ると左の通りである。(一封度建單位錢)

印刷用紙千歳	一三、五	模造紙B	一三、〇
--------	------	------	------

八年高値
安値

17.0
15.5

16.5
15.0

海外事情 主要製紙國たる瑞典、諾威及芬蘭の製紙及バルブ會社は所謂國際カルテルを組織し生産制限乃至關稅引上又は輸入制限に備へ極力舊市場を死守せんとする有様でありカナダも米國の自給策により生産過剰を來たし困憊の狀態に在り、英國を始め佛國、和蘭、白耳義の主要消費國は輸入制限乃至許可制度を設け僅かに最低限度の輸入をなすに過ぎず、こゝもと主要製紙國は四面楚歌の中に在る。

陶磁器

八年

七年

全 國

3,563,848圓

3,577,664圓

阪神 兩港

3,433,733

3,500,200

阪神兩港本年の輸出額は三百四十八萬三千圓強を示し前年に比し百四十三萬三千圓餘の増加であつたがこれ前年來の本邦圓爲替安、或は消費國の輸入制限實施を見越しての思惑買擡頭せるに歸因するもので其の結果は年の上半或は後半に著しき買進みを見せ、残りの半が閑散を見たのが多かつた。

主なる輸出先は米國を始めとする印度、蘭印、滿洲國、濠洲の諸地方であるが其他中南米の新市場阿弗利加への輸出も割合に好調を見た。

今主要市場への輸出概況を見ると米國への輸出は本邦圓爲替安以外に對米輸出統制による値上を見越しての買氣旺盛で著増。

印度亦下半年の需要期に入ると共に日印會商悲觀見越から思惑買熱を煽りて年末近く迄活況、但し十二月二十三日の禁止的課稅から爾後は形勢全く逆轉、蘭印亦下半年に入り輸入制限見越から十一月頃迄思惑輸入旺盛を見たもストツク過剰から爾後閑散に向ひ、濠洲も上半は活況、爾後ストツク難に會し阿弗利加、中南米諸國も比較的好調、滿

洲國亦八月後季節的需要期に入りてより爲替安も手傳ひ活況を續けたが歐洲は一般に不況から買氣薄かつた。

硝子製品

八年

七年

全 國

17,766,294圓

10,760,774圓

阪神 兩港

15,048,813

9,029,864

こゝに硝子製品とは窓硝子、魔法瓶、各種壺及コップ類、食器、ウオッチグラス、珠玉及球、眼鏡、鏡、硝子製人造眞珠、腕輪其等を總稱したものであるが阪神兩港本年これら製品の輸出は日印通商條約廢棄其他の支障の存せしに拘らず價額一千五百九萬四千圓強に達し實に前年より増加すること六百二萬四千圓といふ好成績を擧げ、海外各市場において優秀な而も安價な日本品として好評を博するに至つて居るが此全く本邦圓爲替安並各市場の阻止的手段の逆作用たる思惑的輸入の旺盛を極めたるに歸因せるが如くで、大輸出市場たる印度を始め東南洋は申すも更ら濠洲、歐米、アフリカ其他遠く中南米の地迄其の進出には蓋し著しきものがあつた。

硝子瓶 阪神本年の輸出は數量一千二百二十六萬九千餘打、價額三百九萬圓にして前年に増加すること數量百十三萬三千打強、價額六十四萬二千圓強で阪神硝子製品輸出の第一位であるが、これ其の安價と優秀が印度、南洋其他で買はれた結果である。

コップ 阪神の輸出數量四百四十八萬打、價額二百六十三萬五千圓強で前年に増すこと九十八萬三千打、百四萬圓強であつたがこれ亦瓶におけるが如く主要市場たる蘭印、濠洲、海峽殖民地、比律賓への激増による。

鏡 阪神の輸出は數量三千九百九十六萬八千箇、價額二百二十一萬五千圓と前年より一千七百十三萬四千箇、九十一萬六千圓の増加であつたがこれ主要市場たる印度、蘭印、支那、滿洲國への輸出がこれら地方の文化進展に伴ひ自然需要の増加を來せるものと見るべく其他魔法瓶は印度、海峽殖民地、支那への輸出著増から、硝子腕輪は埃及其他への増加から、模造眞珠はその巧緻が英米に買はれ硝子珠玉及球亦印度、和蘭、中南米、阿弗利加への輸出増から、

窓硝子亦印度、蘭印、シヤムへの輸出増から前年に比し何れも尠なからざる増加を見た。

阪神主要硝子製品輸出高

品名	八年		七年	
	数量	金額	数量	金額
硝子瓶	二、二六九、七五三打	三、〇八九、九一圓	二、〇八六、六六打	二、四八八、〇九〇圓
コップ	四、四八四、五九九	二、六五五、四五四	三、五〇〇、六三〇	一、五九四、九五七
人造眞珠	—	一、四七七、八元	—	三、五〇、六五八
鏡	三元、九六千箇	二、二五、六四四	三、三六四、千箇	一、二九九、二六七
魔法瓶	一九、四〇〇打	一、三三〇、三三	九、一〇〇打	五、五五、五五六
硝子腕輪	二、五五五、四七哥	一、〇九〇、四九八	二、三三四、二〇哥	一、〇六七、三六九
硝子珠玉及珠	一、四八四、六七斤	八九、三三一	一、三五六、四六斤	七、七五、四〇三

珐瑯鐵器

品名	八年		七年	
	数量	金額	数量	金額
全 國	三、九〇、〇九擔	七、二六、六千圓	一、六九、一五〇擔	四、一三、千圓
阪神兩港	一、九六、四六	五、九三三	一、四八、六四〇	三、五五〇

本品は大阪重要輸出品の一をなし本邦輸出の九割迄は阪神兩港で之を占め本年は前年より約六割といふ激増で本邦輸出珐瑯鐵器創業以來の最高輸出額を示した。之れ即ち爲替安の好條件、内地生産者の統制の確保に依り市價の向上安定を計り、海外市場の好感を得たる上、更に印度、南洋等大需要地に對しては關稅及運賃の引上げを見越し相當思惑買をされ、又滿洲、暹羅、阿弗利加等は市場の開拓により著しき輸出を見たるに依る。さてその品種を見ると洗面器、湯沸、コップ、辨當箱等日常家庭器具及看板として使用されたるものが大部分であるが、最近化學用器具も之を見るに至つた。

最近二ヶ年全國仕向地別輸出高

仕向地	八年		七年	
	数量	金額	数量	金額
滿洲國	一三、七〇擔	四、五八、千圓	二、一九擔	六、千圓
關東洲	六、七七九	二、四三	七、〇五四	一、六八
中華民國	一、四一六	四九	二、七七	七四
香港	一、九三四	五四	六二五	三三
英領印度	五、五三四	一、六三七	五七、六六〇	一、三二五
海峽殖民地	三、三六九	七四	八、三〇	二二五
蘭領印度	四八、四九〇	一、六〇五	四、四九三	一、〇四五
比律賓諸島	一六、四三四	五九六	一三、六三	三六二
暹羅	一九、八一九	三三八	一、五七	三五八
其他亞細亞諸國	三、七八	一一	一、五七	三四
英吉利	二、四六	八五	七八	一八
其他歐羅巴諸國	二〇一	六	二〇五	四
北米諸國	三〇	九	一〇八	二
中米諸國	三九	一〇	二一〇	四
南米諸國	一四	三	一八	—
埃及	五、六〇〇	一四七	四、七九	一〇一
南阿聯邦	九、二〇	二六九	二、二六五	五四
東阿弗利加	二、七〇	三八	四、八七三	一一
其他阿弗利加諸國	三、〇三	六	八三四	一九
濠太刺利	三、八五	二四	四、六〇	二八



新西蘭
布 哇

八一年
九

三六
五
二

七六

護謨製品

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
ゴ ム 靴	1,046,353打	8,233	1,011,833打	4,890千圓
{ 全 國	1,046,353	8,233	1,007,833	4,833
{ 阪神兩港	1,046,353	8,233	1,007,833	4,833
ゴ ム 靴	1,330,899擔	8,899	640,077擔	4,378
{ 全 國	1,330,899	8,899	640,077	4,378
{ 阪神兩港	1,330,899	8,899	640,077	4,378
ゴ ム 靴	104,130	6,379	54,250	3,567
{ 全 國	104,130	6,379	54,250	3,567
{ 阪神兩港	104,130	6,379	54,250	3,567
其 他	—	—	—	—
{ 全 國	—	—	—	—
{ 阪神兩港	—	—	—	—
(玩具ヲ除ク)	—	—	—	—
{ 全 國	—	—	—	—
{ 阪神兩港	—	—	—	—

ゴ ム 製品輸出の王座を占む阪神兩港に於ける本年の輸出額(ゴ ム 製玩具を除く)は、一千四百九十五萬三千圓に達し前年に比し五百二十五萬六千圓の増加であつた。

ゴ ム 靴 輸出ゴ ム 靴検査施行以來粗悪品の輸出は完全に阻止され、海外市場に於て到るところ壓到的聲價を博し歐米の先進國を始め印度、南洋、阿弗利加等世界の隅々迄行き互つた。かくして英國或は米國に於ける本品製造工場は相次いで悲鳴を擧げるに至り、各國競うて關稅の禁止的引上をなし前途憂慮されてゐたが本年の輸出も亦昨年に優る成績を見る事を得た。

阪神兩港本年の輸出は前掲の如く數量百三萬八千餘打、價額八百二十二萬八千圓で前年に比し數量三萬二百餘打、價額三百三十萬六千圓の増加であつた。

タイヤ 本品亦主として阪神兩港より輸出されてゐる。本品は昭和七年末より漸次好轉し昨年度の類勢を盛返し相當の活況を呈した。輸出先は主として南洋、印度、蘭印、支那(天津、上海)滿洲國等である。

價額は使用布及ゴ ム 原料藥品等の騰貴により昨年度に比し輸出物に於て一割、内地物に於て二割の値上げを爲し生産數量も亦著しく増加を示した。

阪神兩港品種別輸出高

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
自 轉 車 用	七、七三擔	四、二四四千圓	三六、九〇擔	二、一六六千圓
人 力 車 用	一一、一一一	八八	八、八三	六三
其 他 車 輛	110,827	1,127	9,039	七元
計	104,130	六、三九	五四、二五〇	三、五七

其他ゴ ム 製品 一般品としてパツキング其他工業品を主とし醫療用品、海水帽、浮袋等、玩具を除いた總てのゴ ム 製品が含まるもので、全般的に數量價額ともに昨年度に比し増加を示し特に工業用ゴ ム 製品は軍需工業の隆盛と關聯して躍進し、消ゴ ム 類も亦輸入品を完全に擊退し却て盛んに輸出せらるゝに至つた。

尙本年の阪神兩港に於ける輸出額は二百六十八萬二千圓にして前年に比し百三十七萬三千圓の増加であつた。

自轉車及同部分品 (ゴ ム タイヤを除く)

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
全 國	三、二五千圓	六、〇六千圓	—	—
阪 神 兩 港	10,311	五、三三	—	—

阪神兩港本年の輸出額は一千三十二萬圓に上り前年に比し四百九十二萬圓の激増であつた。

本品の輸出は前表の如く殆んど阪神兩港より輸出され其生産地も堺、大阪、神戸を第一位とし東京、名古屋之に次いでゐる。

本品の輸出は最近驚くべき長足の進歩を見、其輸出先は蘇聯を除くの外世界各國に輸出され、八九月よりは歐洲

竝阿弗利加方面へも進出しつゝあり、其多くは生活民度低く未だ自動車の使用時期に入つてゐない方面へ進出が盛んになつた。然し最近に於て獨逸は自轉車の製造盛んに復活して、東洋即ち支那方面にまで侵入し將來侮り難き大敵となりつゝある。又世界各國到る所で邦品を排撃し、關稅障壁或は輸入制限令を布きたるため、本品もこの例に洩れず南洋方面では禁止的關稅を課せられるに至り將來を憂慮されてゐる。

最近二ヶ年阪神兩港仕向地別輸出高

仕向地	八年	七年
中華民國	一、六六千圓	一、〇九千圓
英領印度	一、九四	一、〇〇八
蘭領印度	三、九〇	一、三三
海峽殖民地	一、五四	四三
和蘭	二八三	一
阿弗利加	一九	一七
其他諸國	一、七六	九六

更に昭和八年中の市價の推移を見れば、本邦に於ける自轉車使用の好顧客たる漁山村の疲弊により、自轉車並同部分品の需用は頓に減退したので昭和八年當初は何れかと云へば低廉なる方であつたが軍需工業の殷盛となつたに伴ひ都市方面は多少インフレ景氣を加味したと尙且つ鐵材の値上りのため、三、四月頃約一割方の値上りを示し之れに加へて輸出品の増加に依つて拍車を加へ、年末に於ては約二割五分方騰貴したが、これを昭和五、六年頃の價格に比すれば甚だしく低廉であると云ふ事が出来る。尤もタイヤ、中袋はゴム原料の値上りで相當騰貴してゐる。

鈕 釦

仕向地	八年	七年
全國	一八、〇六、二四五	一五、六四、三九四
阪神兩港	一七、八九、五〇	一五、四七、六〇
其他	一、九〇	一、一五
全國	一、八七	一、二六

阪神兩港本年の輸出額は七百五十五萬二千圓にして前年に比し百八十萬九千圓の増加であつた。本品には金屬、貝、骨角製とその種類多様に亘るも輸出多きは貝製にして其の産地は關西、殊に大阪附近である關係上其の大部分は阪神兩港より輸出されてゐること前表の通りである。而して之を主なる仕向國別に觀るに昨年日支事變に因り中華民國向輸出は激減せしも、其の後徐々に友誼的關係復活し本年は昨年のおよそ倍額近くの増加を見たのは誠に祝福すべきである。その他諸國に於て續々關稅の引上を見獨逸、加奈陀に於ては微減したるも英國、英領印度、蘭領印度、濠洲、北米合衆國を始め其他各地への進出は目覺しく、舊市場の維持確保に努め新販路開拓への努力は遂に奏功し、昨年の好成績を遙かに凌駕して昭和三年以後に於ける最大の輸出價額を示した。

最近二ヶ年阪神兩港品種別輸出高

品名	八年	七年
貝製	一七、八九、五〇	一五、四七、六〇
骨角製	一、三三、四〇	六九〇、六三
金屬製	四七、八九	四四九、九四九
其他	一、三六	九三

帽 子

品名	八 年	七 年
全 國	三、三三、七六打	二、〇三、一五打
阪 神 兩 港	三、二九、〇五三	二、一六、五三三
模 造 バ ナ マ	一、五七、一五打	九四〇、三七打
麥 稈	四、七三〇	六九、五〇
布 帛	八四、六九	七四、八〇
フ エ ル ト	五〇五、七二	二一〇、五五
其 他	三九、六七	二〇、五九
全 國	二、六、七五千圓	一、五、二九千圓
阪 神 兩 港	一〇、三三	五、二四六

最近二ヶ年阪神兩港品種別輸出高

阪神兩港本年の輸出は數量三百二十五萬九千打餘、價格一千三百四十八萬二千圓を見前年に比し數量一百九萬一千打、價額五百九十萬六千圓の激増であつた。模造バナマは本品中最も多くを占め其の仕向先は米國を第一位とし佛國、英國、濠洲等であるが機械製による變製品は中々好人氣で前途を囑望された。麥稈經木製帽子について見るに流行の盛衰等から就中之が主消費國たる米國への輸出は、關稅關係で望なく、其の他も同様輸出僅少、取引不振であつた。布帛及フェルト帽子の生産額は日を逐つて増加し、就中フェルト帽子は本年に於て目覺しい進展振りを示した。フェルト帽子は氣候の關係上滿洲、支那方面に多く、蘭領印度、暹羅へも亦大躍進を見たが、暹羅國に於ては六、七、八月の時期外れ多量の輸出あり、其の後同地に於ける米價安による購買力の減退により餘り振はず、又印度に於ても日印會商の結果雜貨に對しては危機の立場に逆轉し、人氣に影響を及ぼされ同輸出は後半期末に至り相當打撃を蒙つた様である。然し一般には次表の通り麥稈帽子を除いて其の他の各種帽子は相當な好況を見た。

玩 具

品名	八 年	七 年	六 年
全 國	二、六、七五千圓	一、五、二九千圓	五、二四
阪 神 兩 港	一〇、三三	五、二四六	三、二七
セロロイド製	一、二七千圓	六七〇	二、五三
布 帛 製	三、五五	二、三三	六、七
金 屬 製	一、九五七	一、一〇、一	二、六
陶 磁 器 製	一〇七	七三	八、一

最近三ヶ年阪神兩港品種別輸出額

阪神兩港本年の輸出額は一千二十二萬六千圓で前年に比し約倍額四百九十八萬圓の激増であつた。本品は主として大阪、名古屋、東京地方で生産され、種類は護謨製、セロロイド製、金屬製、布帛製、陶磁器製等で就中護謨製最も需要盛である。従前はセロロイド製が輸出玩具の王座を占めてゐたが、昨年來護謨製のもの急激なる發展を示し遂に地位轉倒するに至つた。然しその持続性については相當疑問視せられた所であるが本年は益々好況に向つた。輸出地帯としては米國を第一とし、英國、濠洲、印度、南洋方面、歐洲、南米等世界各市場に互つてゐる。本邦玩具は年初以來輸出旺盛を極め、前年に比し一千萬圓餘を超過するに至つたが、それは獨乙よりの輸出が従前の如く旺盛でないこと並に猶太系商人との取引が増加したことに加へて、他面本邦品が爲替安の爲需要を喚起したこと、及製造技術にも顯著なる進歩を示したことに基因してゐる。

イ
ム
製
製
木
其
他

刷
子

二、六六
一、〇五
二、九七

一、三六
一、四〇
一、五五

六三
一〇
一、三三

八二

齒
用
其
他

三、七四、八五哥
三、七、三三
四、九、七三打
三、〇、五九

二、九、二一
二、九三
一、五〇三
一、四九

二、九、八五哥
二、九、七三
三、九、九九
三、九、七五

三、〇、六千圓
一、九三
九三
九〇七

我が輸出品としては齒用のものが断然多く、阪神兩港本年の刷子類の輸出額は四百四十萬圓に上り前年に比し百五十萬圓の増加であつた。

而して仕向先に就て見るに、折柄の爲替安の潮に乗つて米國、南洋、印度へと漸次確固たる地盤を擴張した。對印貿易は條約廢棄勃發以來一轉輸出に支障を來したが其後の關稅引上げを見越し爲替安と相俟つて活況を呈し、南洋爪哇方面は三四年より關稅引上を實施せられる關係上同方面からの注文多く、昭和八年後半期に入り俄然歐洲方面へ異狀な躍進を示し、其他に於ても良好で尙近年阿弗利加及南米方面の新市場へ少量ながら輸出を見、徐々増加する傾向にあり、業者等に於ても同方面を有望視し各々發展を計りつゝある。

尙近來各國の高率關稅に基因して製品としてより寧ろ半製品としての輸出増加を示し、比較的廉價品及「ハンドル」等に注文、照會ある模様である。故に今後は製毛とか「ハンドル」等刷子の原料として輸出するものゝ様に思はれる。

最近二ヶ年阪神兩港品種別輸出高

齒
用
爪
用
衣
服
用
變
用
其
他

三、七四、八五哥
三、七、三三
一、七、〇三打
一、七〇、八六
一、〇、七八
一、〇、〇三
一、一、三三
一、〇、三〇
一、〇、六九
五、四、〇五

二、九、二一
二、九三
二、四九
二、四八
四、〇六
四、〇四
三、六
三、六
四、六五
四、三

二、九、八五哥
二、九、七三
一、六、五八打
一、六、三三
一、一、五七
一、一、〇三
七、五、八三
七、四、八〇
三、六、〇四
三、六、四三

二、〇、六千圓
一、九三
一、五八
一、五八
二、二五
二、二四
二、六七
二、二五
二、八一
二、六九

b 輸入品概況

食
料
品

米
及
粃

全
國
輸
入
額
内
阪
神
兩
港

二、三、五、七四擔
七、七、七〇〇

二、五、二、一五圓
三、七、八、〇四七

主要國別輸入額(全國)

暹
羅

二、二、七、九六擔

一、〇、八、三、二九圓

二、三、八、四六擔

一、〇、一、七、九五圓

八三

米	八八、一〇七	五〇、五三三	三六、二三三	一、七三三、七三三
佛	九、四九七	五七、〇一九	二、八三九	一九、九九一
英	七	四六	四七、五九九	三三、六二七

本年の輸入は前年に比し六十四萬圓減の千五百五十二萬圓に止まつた。近年飯米としての精米輸入は内地米、鮮の増産から連年減少を示しつつある、殊に本年は豊作を傳へられ、精米の神戸港輸入額は僅か十四萬二千五百圓を示し前年に比し四十三萬二千圓の激減振を示した。然るに碎米は前年に比し六十一萬圓増の三百六十四萬五千圓を見た。之は碎米が製飴、酒精、醬油、菓子等の工業原料として安價な點から逐年増加してゐるのである。神戸港揚り暹羅米が三百四十一萬六千圓。大阪港揚、米國品二十二萬九千圓を主とする。

本年度本邦米界は米穀統制法の成立と實施及未増有の大豊作により畫期的な一年であつた。即ち統制法の要旨は、政府が最高公定價格に於ける賣渡要求並に最低公定價格に於ける買上要求に無制限に應ずる事により米價を右兩價額内に維持する事。一、米穀輸出入許可制。一、米穀會計資金を四億八千萬圓から七億圓に増額する事等である。因に標準最低價額は二十二圓七十錢、最高價格三十圓五十錢に決定十一月一日から實施された。尙本年度豊作對策として農林省より減段案(高橋藏相及拓務省の反對に會ひ立消えとなる)及穀貯藏獎勵が發表された。

昭和八米穀年度(七・十一・一八・十・卅一)米穀需給實績 (單位千石) (八・七、十四大阪時事)

供	前年より持越	八、九〇七	輸	出	三、一〇〇
	產	六〇、三九〇		移	三六
給	朝鮮	七、五三〇	現	九、〇〇七	
	臺灣	四、二一〇	在	九、六三三	
合	計	一、〇〇〇	差	三、四三四	
需	要	三、〇三三	引		
	計	三、〇三三	消		
		八、〇三七	費		

尙農林省發表の昭和九年度(八・十一・一九・十・卅一)以降五ヶ年の推定需給次表の如し(單位千石)

年次	供給額			需要額	繰越額
	持越額	内地米	朝鮮米		
昭和九年	七、七七七	三、〇三三	三、〇三三	一、二二六	八、一〇一
一〇年	六、五五八	三、七三〇	三、二七三	〃	八、二八九
十一年	五、五八八	六、四八五	三、五二四	〃	八、八七四
十二年	五、八八三	六、八八三	三、七六四	〃	八、四三三
十三年	六、二八三	六、二八三	四、一三四	〃	八、六三三

外地米即ち臺灣米は品質に於ては内地品に劣る事なく、生産費は低廉な所から其移入は益々増加傾向を續け内地統制法に脅威を與へつゝあり、移入統制が問題となつた。今、鮮米の輸移出状況を見れば(八・十一・三三大朝紙)昭和七年度産(七・十一・一八・十・末)内地向移出は七百九十七萬二千石で前年に比し四十九萬三千六百石の増となつて居る。滿洲國向輸出は十四萬石。輸移出歩合全産米の五〇%を示し朝鮮有史以來の最高記録であつた。

小 麥

年次	供給額		需要額	繰越額
	内地米	多國米		
昭和八年	四、四七〇	一、三〇三	一、三〇三	三、一六七
九年度	四、四七〇	一、三〇三	一、三〇三	三、一六七

小麥輸入額は四千四百卅八萬圓を見前年に比し五百十八萬八千圓の減少となり、量に於ても亦三百九十二萬擔減の八百五十二萬擔を示した。斯く減少を示したのは前年度の思惑輸入在荷と内麥增收見込みに買入を手控へた結果である。

主要國別輸入額(全國)

米	八 年	四九、五七擔	三六、三三圓	七 年	一九五、四四擔	七五、四七圓
加 奈 陀		一、八四、六六	一〇、四三、五五		一、九三、二〇	八、六二、五〇
濠 洲		六、五九、三三	三、八六、三七		一〇、二四、六五	四〇、〇五、二六一

米國の冬春小麥は四十年來の大凶作で實收高五億二千七百萬ブツセルとなり前年に比し二億ブツセル方の激減を見た。

加奈陀も收穫豫想は二億七千二百萬ブツセルで一九二四年以來の不作である。

濠洲も亦一億五千萬ブツセルの收穫減を豫想された。

我國小麥實收高は七百十二萬五千八百六十九石で前年に比し百二十三萬六千石餘即ち二割一分の増加であつた。之は農林省の小麥増産計畫に基く作付反別の著増と氣候の順調によるものであり、之に依て内地消費の製粉原料は自給自足の域に達した。

シカゴ小麥は前年末來四十四仙を下廻る空前の低落振であり、本年三月上旬まで五十仙以下を低迷してゐたがルーズベルト大統領就任後インフレ強化で急速に上向き一弗豪を突破し九十仙豪を出入しつゝ、越年した。

大阪市場小麥平均相場(百斤建)

一 月	六八九	増産計畫による増收懸念で年初を高値として低迷を續く
四 月	六七五	
五 月	六九〇	農林省小麥市價維持資金八百萬圓融通で春の高値を抜く
八 月	六五五	
九 月	六四八	八月世界小麥協定成立で漸く高値を持續したが七月末シカゴ市場が重要商品一齊安の餘波を受け取引停止するに至り、其の影響により反落。尙米、露のダンピング説等で軟調裡に越年す
十二月	六五三	

尙八月廿五日ロンドンに於て小麥限産及び輸出統制の世界協定成立し小麥の世界的需給關係改善に寄與する所少し

としなし。

大豆

全國輸入高	八 年	七、四三、九四擔	三六、〇四、七三圓	七 年	七、八〇、六九擔	三二、四〇、三七圓
内 阪 神 兩 港		一、三六、七五	七、〇九、九五一		一、四五、〇五	五、〇三、九五〇
内 滿 洲 國 ヨリ		一、三三、八三	七、三四、〇三九		一、三三、二九	五、〇三、二二一

前年に比し數量に於ては五十五萬六千餘擔減の七百二十四萬三千擔であつたが價額に於ては却つて六百七十九萬四千圓増の三千八百三萬四千圓を示した。

本品は主として滿洲國から輸入され味噌、醬油、豆腐等の原料とせられ其他種々の食料品及び綠肥用に使用される。滿洲大豆生産は昨年凶作四百四十四萬越に比し本年は五百廿萬越と豫想され平年並に復した。然るに各地需要は激減し大豆相場は暴落を見た。

昭和八年(七・一〇一八・九)滿洲大豆主要仕向地別輸出數量(單位越)

輸 出 量	前年比較	日 本	四一、三六〇	三、六六一減	米 國	一	一九減
		歐 洲	一、六六、九五	七、五六増	南 洋	五五、〇六	一八、〇三減
支 那		一、五、四五	四、五、六三減	朝 鮮	七、四五	五六増	
合 計		三、三六、三三	四、六、三三減				

大連取引所大豆公定相場表(當限平均、單位圓)

七年十月	五、〇六	十一月	五、〇六	十二月	五、三〇	八年一月	五、六〇
二月	四、六〇	三月	四、八〇	四月	四、九〇	五月	四、八〇

牛肉

全國輸入高	一七六、九〇八擔	五、三六七、二六圓
内阪神兩港	一五七、八三三	四、七三二、二二
滿洲國	七、五五三	二〇九、六七七
阪神北支那	二七、四〇八	三、八八五、四五四
關東州	一九、七四九	五〇九、九〇九
濠洲	一、四六〇	三三、四三三

六月 五、〇〇〇
七月 四、九五〇
八月 四、四三〇
九月 四、一三〇
(ダイヤモンド八、十一、二十一)

昨年度輸入額は一昨六年に比し半減し四百四十八萬圓弱であつたが本年は再増して五百二十六萬圓前年對比七十八萬圓増を示した。
本品は主として支那、關東州、滿洲國及濠洲より輸入せられ、就中北支那即ち山東地方より輸入する所謂青島肉は毎年輸入肉の過半を占め重きをなしてゐるが本年度は銀高に因り高値となり内地物との値開き縮少し爲に輸入量は豫想程には増進を見なかつた。
濠洲肉は罐詰原料に供せられ其輸入量は滿洲肉に壓迫せられ毎年減少を見つゝある。

青島牛肉神戸市卸賣相場(並骨付十貫建)

一月	三・三五	二月	三・三五	三月	三・三五	四月	三・〇〇	五月	三・五〇	六月	三・三五
七月	三・三五	八月	三・三五	九月	三・三五	十月	二・四〇	十一月	三・五〇	十二月	三・三五

原料品及原料用製品

採油原料種子

全國輸入額	三、四四〇、七〇擔	三、三二五、五七圓
内阪神兩港	二、二八一、六九	二、三、五五七、九九圓
大阪神兩港品種別主要國別輸入額(八年)		
胡麻子	壹、八五擔	八七、八三圓
支那	二五、六三	二、四七、〇〇七
滿洲	四、〇七	五五七、一〇六
支那	三九、一五	三、〇〇〇、〇〇〇
滿洲	三、五、〇三	三、〇八、一三〇
關東州	四、四〇	三、六、〇〇〇
支那	三、六、一七	一、〇〇、三三七
滿洲	一、六〇	一〇、八一九
支那	二、四、三三	九、九、三三九
滿洲	二、〇、〇〇	一、三、三六四
支那	二、六、三九	八、六、九五四
滿洲	三、〇、四六	二、七、三三九
支那	一、〇、〇〇	三、五、五、四八三

滿洲國	一、五八、〇九八擔	五、二、四七圓
支那	八、九、二六三	三、九、五、〇三
支那	三、一、七〇七	二、九、三、八〇
支那	二、七、八三九	一、九、七、一八六
支那	二、七、一六三	二、七、六、六九
支那	七、七〇八	六、九、九一九
支那	四、一、三三	三、三、三三
支那	四、五、七九六	三、〇、九、六〇
支那	一、四、五五	一〇、四、七七
支那	一、八八一	一、一、七九四
支那	二、五、一二五	六、八、五二五
支那	一、九、九二四	五、四、一〇〇
支那	一、五、三七一	五、九、九七七

本品八年度輸入額は前年に比し八百五十萬圓の激増で二千三百三十萬圓弱を示した、之は主として滿洲國よりの輸入激増によるもので又支那よりの輸入も増加を示してゐる。支那排日の緩和、滿洲國の發展による潤澤なる供給と内地製油業の發展が斯くあらしめた。又脂油の輸出は歐洲方面であつたが對米輸出も盛大を極めた。

主要國別輸入高(全國)

品名	八年度	七年度
滿洲國	一、四一、三三擔	九、二四、一九圓
關東州	一〇、九四〇	九、八八九
支那	一、六七、五五	九、四七、八四
英印	二九、九三〇	二九、八三八
蘭印	三二、四九九	二、四九、四八
内地生産高	五〇千擔	三二、九三擔
亞麻仁	一、五〇三	四、五、八五
菜種	二六	二、七三、九七〇
コブラ(裏南洋)	一〇	二、七三、九七〇
内地消費高	三、六三、千擔	六、八三、〇八八
大豆	一〇三	七、一、三三三
菜實	一、八五五	二、三六、七〇
椰子		三、二、千擔
亞麻		三、七
棉花		一、一、四四
落花生		四、五
亞麻子		四、六
椰子		四、〇六
椰子		三、〇〇

亞麻仁世界産額の六割を産出し世界輸出高の九割を輸出する亞爾然丁が二割の大減收を示し、米國が天津産亞麻仁を大量買付を爲した等需給系統に變調を來した。蓖麻子油は飛行機潤滑用として不可欠のものであるが滿洲産蓖麻子が一千四十四萬圓に輸出されたのは注意すべきである。

牛皮及水牛皮

品名	八年度	七年度
全國輸入高	二、九七、四〇擔	二、七〇、九六〇圓
内阪神兩港	三、三三、三三	八、二六、六三七
阪神國別		
支那	二、六、三三	四、〇九、三九
米國	五、五、五六	二、三、五、一八七
全國輸入高	二、九七、四〇擔	二、八、一、七擔
内阪神兩港	三、三三、三三	一、五七、六九
阪神國別		
支那	二、六、三三	四、七、六、六〇
米國	五、五、五六	一、九三、二七

逐年輸入増加を見つゝある本品の輸入は昨年比し五百十四萬圓増の千七百七十萬圓に躍進した。蓋し本邦製革工業の發達、軍需關係品たる本品の需要増進に在る。尙本邦原料皮の生産は我需要の半を満すに過ぎないから必然的に本品の輸入は増加す可きである。主要供給國支那よりの輸入は昨年度は事變の影響で激減を見たが本年度は排日も次第に緩和され昨年の倍額の輸入を見た。

標準原皮相場

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月
滿洲國に産する牛皮二十六萬枚、馬皮六十萬枚、羊皮百萬枚等を製革原料として日滿皮革工業會社が滿洲景氣の波に乗り計畫された事も注目値する。	五、〇〇	四、五〇	五、五〇	八、五〇	二、一、五〇	二、三、五〇
七月	二、四、七五	一、三、五〇	一、三、五〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	一、〇、五〇

革類

品名	八年度	七年度
全國輸入高	一、三〇、七九斤	三、九三、〇七圓
内阪神兩港	一、一七、四、〇六	一、五、四、〇、四四斤
本品の輸入は革製品の需要逐年増加に拘らず本邦製革工業の發達に伴ひ年々減少を續けてゐた。即ち五年四百九十	三、七〇、八一〇	一、三、七、六、〇圓
		二、三、九、〇、五

八萬圓、六年四百三十四萬圓、七年三百六十一萬圓の如く數量に於ても亦然りであつた。然るに本年の輸入は三百九十三萬圓を示し昨年比し三十一萬圓方増加した。然れ共數量に於ては依然減少を見てゐる。之は爲替關係及高級品の輸入によるものと思はる。

主要國別輸入額(全國)

	八年	七年
英領印度	八六、八七斤	八三、九四斤
英國	一九、二九七	一四、一五三
獨逸	六五、九五三	六三、六一
米國	三二、四三三	二九、四五〇
其餘	七六、九七一	九二、二一八

其品種は牛、水牛、馬、綿羊及山羊革、靴底革、屑革等である。

生ゴム

全國輸入高
内阪神兩港

主要國別輸入高(全國)

	八年	七年
全國輸入高	一、一六、四七七擔	九三、三五擔
内阪神兩港	七四、二三八	六五、九八九
海峽殖民地	八六、三〇六擔	一〇、〇〇〇、一七七圓
蘭領印度	二六、八、五四四	三〇、三、五九〇
英領印度	一三、五九八	一七、八二一

本年中生ゴム輸入は前年に比し金額に於て二倍弱、數量に於て二割強の増勢を續けてゐる。蓋しゴム價回復の反映である。輸入に伴ふゴム製品の輸出も目覺しく前年の二倍二千二百餘萬圓に達した。

新嘉坡護謨相場の高値は大正十三年の一弗八十二仙、安値は昭和七年六月の四仙四實に於てに慘落したわけであつたが本年に入り漸く顯著な改善振を示した。其主要原因はゴム需給關係の主要素たる米國に於ける消費量がインフレ政策により俄然見直して來たのにあり、世界生産額の漸増、滞荷の遞減を現出した。

多年の懸案限産協定は何等解決を見ず越年した。(九年四月二十九日限産協定發表さる、其大綱は協定參加國今後五ヶ年の輸出割當數量合計額一九三四年九十九萬五千噸、三五年百八萬七千噸、三六年百十六萬八千噸、三七年百二十一萬六千噸三八年百二十五噸である。)

七年六月の安値四仙四で底をついたゴム相場は九月には十仙の高値になつたが反落し八年三月には五仙の安値まで見たが三月米國の金本位停止を一轉機として同國自動車工業の恢復、限産協定成立氣構により強調相場に轉じた。

スモークドシート相場(朝日經濟年史)

最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
倫敦(片) 一月	二 7/8	二 1/8	二 5/8	二	二 5/8	二 3/8	二 1/8
新嘉坡(仙)	9 5/8	8 1/8	8 9/8	8 1/8	8 7/8	8	8
日本(錢)	一四・三	一三・三	一三・九	一三・八	一三・五	一三・〇	一二・八
倫敦(片) 五月	三 1/2	二 3/8	二 23/8	二 1 1/8	二 1/2	二 7/8	二 1 1/8
新嘉坡(仙)	10 1 1/8	8 1/8	11 9/8	8 1/2	11 1 1/8	11 1/8	11 7/8
日本(錢)	一四・〇	一三・五	一三・〇	一三・五	一三・三	一三・〇	一二・八
倫敦(片) 九月	四 5/8	三 7/8	四 1/8	三 23/8	四 1 1/8	三 7/8	三 1 1/8
新嘉坡(仙)	11 1/8	11 9/8	11 1/2	11 1/8	11 7/8	11 1/8	11 1/8
日本(錢)	一四・三	一三・六	一三・三	一三・五	一三・〇	一二・三	一二・五

硫安

印棉は百三十萬俵一億七千萬圓の輸入を見、前年に比し量に於て四割、價額八割の増進振である、この激増は米棉の昂騰による印棉振替使用の結果である。尤も前年は印棉の減收による割高で需要半減してゐたのであるから本年は常態に復したとも云ひ得る。

印棉不買は六月十三日から實行され、供給系統に著しい變化を示し、原棉自給策が講ぜられる一方アフリカ、埃及、ラングーン、安南、西貢棉の輸入増加が企圖され南米、土耳其方面よりも輸入された。

尙自給案の一たる朝鮮棉花八年度(計畫初年度)の實收は約一億六千萬斤で前年より五百十三萬餘斤の増となつた又蘭領ニューギニアで邦人が棉花栽培權を得試作し好成績を得つゝあるとの報もあり、滿洲棉花も喧傳せられてゐるが原棉自給は遠い將來の事であらう。

棉花相場(本邦市場)(括弧内はアコカム相場)

フーパーの没落により一月ストリクト五十二圓五十錢(四十三圓)は二月には四十六圓(三十八圓)に續落し、三月にはルーズベルト就任による金本位停止、財界不安一掃で四月中旬には五十圓(四十圓七十五錢)に好轉し五月にはインフレの確定、株式の活況、産地天候の不良等で下旬には五十九圓(四十七圓)と躍進したが海外棉製品賣行擡頭で思惑買進となり割安の印棉を中心に商盛を示す。六月には印棉不買斷行され下旬の六〇圓を高値として漸落し八月中旬には五十二圓五十錢(四十四圓)の安値を見紡績筋は此邊値頃と見て猛烈な米棉買進となつた。九月の五十四圓五十錢(四十六圓七十錢)を高値とし收穫豫想増に漸落し十一月には四十九圓二十五錢(四十一圓)の安値を見せ年末五十一圓五十錢(四十二圓)を以て越年した。

麻類

全國輸入高	一、二八九、六三擔	一九、六一、一七圓	一、四八〇、九七擔	一四、九八、八四圓
内阪神兩港	九五九、八三	一三、四九、九五	八四八、四五	九、五六、〇〇
	八	年	七	年

本品八年度輸入はマニラ麻の生産増加による値下り、日本漁業、船舶業、製紙業の好轉軍需工業の發展等を反映し前年に比し四百七十二萬餘圓増の一千九百七十八萬圓餘を輸入した。

阪神兩港品種別主要國別輸入額

ラミ	支那	六九、九〇擔	二、〇六、一七圓	五八、一七擔	一、二八、二二圓
大	支那	一一、五三	二、五〇、四九	一一、六四	一、四六、〇三
麻	蘭印	三、四三	三九、一六	三、三三	三五、三三
支那	支那	六四、六〇	八九、三二	八四、二七	八〇、四三
黃	滿洲	一四、六三	一八〇、五五	九、六〇	九六、七二
麻	印度	二六、四九	三、五九、二〇	二〇、一五	二、四九、八八
マニラ	比島	五四、九三	六、〇三、二〇	五八、八三	五、〇二、五九
亞	支那	三、九一	四三、七三	四、五一	四五、九三
麻	英國	一、六五	一四、九二	一、三〇	四七、一七
芋	英國				

マニラ麻は米國を主要輸出先としメキシコ、サイザル麻と競争状態にあつたが近時比律賓の麻生産額増大し價格の低落を來たし世界纖維界中最も割安を以て寵兒となりメキシコ、サイザルの領域にも浸入し多量輸出されつゝある。又英國及歐洲諸國でもサイザル代用として用ひられ又從來のマニラ麻使用量も増加した。

日本に於ても漁業用ロープ、船舶用、製紙用原料として之等業界の好轉に従ひ需要増加し米英に比肩して輸入されつゝある。

マニラ麻生産量は年額百五十萬俵(一俵二百斤)見當で米國四十五萬俵、英國及歐洲大陸五十萬俵、日本四十萬俵其他十五萬俵等の割合に輸出してゐる。

八年中市價推移は前年の圓價下落により相當昂騰したが年初増産氣構及米國の不況により下落相場となり元の安値に復歸した。

マニラ麻中等品相場

一、二月 三圓
 三、四月 三圓
 五、六月 三圓
 七、八月 三圓
 九、十月 三圓
 十一、十二月 三圓

比島では邦人の麻栽培を爲す者あり年々合理的研究の下に發展過程にあるとの由。
 支那麻の需要地は大部分本邦で最近軍需品の好賣行と共に好況を呈し、産地中心市場揚子江上流漢口に向て各商人競つて仕入した爲支那商人に乘ぜらるゝ所となつた。
 支那麻生産は年額六十萬俵(二俵六十斤)で内日本への輸出約三十萬俵、歐米向六萬俵、他は國內消費と推算されてゐる。

支那麻八年中相場(百斤建)

一、二月 三圓
 三、四月 三圓
 五、六月 三圓
 七、八月 三圓
 九、十月 三圓
 十一、十二月 三圓

羊毛

全國輸入高
 一、八〇五、八〇三擔 一、八〇五、八〇三圓
 内阪神兩港 六〇、三三七 五七、七四四、四三三

前年度輸入額約九千萬圓より一躍八年度は一億六千五百萬圓に著増した。之は近年我國生活洋風化に伴ふ羊毛工業の發達及爲替安に乗ずる毛織物輸出の異狀なる躍進等に依るものである。とは云へ羊毛の輸入は棉花の場合と異り、輸入原料の殆んど全部は國內消費用品に充當され、製品の輸出による輸入原料相殺が棉花と綿織物程に都合よく行はれず、この點本邦の不利とする所である。然し洋服地の本格的輸出も遠い將來ではなく其時には黄色商品の脅威が本格的に世界中に擴がる時である。

主要國別輸入額(全國)

洲	八 年	七 年
濠洲	一、七〇五、六三三擔 一、七〇五、六三三圓	一、四八八、一九九擔 一、四八八、一九九圓
南亞聯邦	三、八、九〇六 三、八、九〇六圓	一、七三六 一、七三六圓
亞爾然丁	三〇、九八八 三〇、九八八圓	八、〇九五 八、〇九五圓
英 國	九、一〇〇 九、一〇〇圓	四、三三三 四、三三三圓

濠洲羊毛は世界總産額の二十五%内外で世界第一位を占めてゐる。一九三二—三三年度産額は三百二十萬六千六百十俵(一俵三百封度見當)で其大部分は輸出され其額脂付、洗上、トップを合し三千六百萬磅を算し前年より四百萬磅の増となつた。主要仕向先は英國千二百六十四萬七千磅、日本八百萬千磅、佛國五百三萬五千磅、獨逸四百五十一萬五千磅、白耳義三百五十六萬磅、伊太利、米國其他共計三千六百四十萬八千磅となつてゐる。
 我國羊毛の生産額は約二十一萬封度で一日の羊毛消費量六十六萬封度とすれば一日所要量の1/3を産するに過ぎず、殆んど問題にならぬ。

八年度世界羊毛生産高は二十七億九千三百四十萬封度で主要生産國は濠洲九億八千四百五十萬封度、亞爾然丁三億三千百萬封度、米國四億九百六十萬封度、英國一億四千二百三十萬封度、南阿三億封度等で濠洲、南米、南阿等主産國は何れも早魁の爲全産額二割方の減收を見相場は各地共騰貴し過去數年來の高値を示した。

濠洲シドニーに於ける洗上羊毛一封度の市價

年	一月六日	二月十三日	六月十五日	八月二十八日	十二月十二日
八 年	三・〇	二・八五	二・四〇	二・九〇	三・五
メリノ種	二・〇	一・八五	二・四〇	二・九〇	三・五
雜種	一・五	一・六五	二・〇	二・五〇	三・〇

メリノ種一月の二十一片は二月に入り十八片半に下落したが次季(一九三三—三四年季)出市量減少見越による思惑筋の策動により六月は俄然二十二片半に昂騰し八月二十八日の新季競賣開市のシドニー市場は一躍五片の暴騰を見漸次強調を呈し十二月には遂に三十三片半に上騰した、雜種も亦同じ。

近來毛織物工業はメリノ羊毛使用中心時代を過ぎて雜種羊毛時代となり次第に雜種羊毛の輸入増加しつゝあり、濠

燐 礦 石

全國輸入高	二、七六〇、九五擔	一五、七四〇、三九圓	九、三三〇、六六擔	二、〇九七、四九圓
内阪神兩港	五、三三〇、四九	六、五二〇、八九	四、四四七、〇六	四、九七九、三八
主要國別輸入額(全國)				
米	三、四四三、九三擔	二、七八三、三四圓	二、八四四、九四擔	二、九六六、一五圓
埃及	四、九四三、二四	五、六〇〇、七六	三、四九九、四三	三、六六四、一四圓

本年度輸入は前年に引続き増勢を續け七年に比し約四百三十萬圓を増加した、之は主として埃及よりの輸入の増大によるもので米國品は却つて減少を示してゐる。

八年品種別輸入數量(大日本人造肥料株式會社調)

高度燐礦石	三、三五噸	低度燐礦石	一七、八二九噸
アンガウル	三、三五噸	コシヤ	一七、八二九噸
マカテヤ	三、三五噸	サフアジヤ	二六、六四六
クリスマス	七、四三	フロリダ	二五、四六六
オーシヤン	六、七六	ガフサ	四七、〇一六
ナウル	三〇、三〇〇	コンスタンチン	六、六七〇
計	三五、〇五	總計	四八、六二七
モロッコ燐礦石	一七、六八	計	七〇、三六

外にラサ燐礦石二萬五千四百六十五噸、大東島四千四百三十七噸の輸入あり。

本年世界燐礦石積出高は總計八百十六萬五千噸内譯は下表の如し。

チユニス	一、五三三、千噸	アルジェリア	六、八千噸	モロッコ	一、一〇三、千噸	アジヤ	一、五三三、千噸
エジプト	四、五七、千噸	歐洲	七、二七、千噸	米國	二、六〇七、千噸	オセアニア	六、三七、千噸

我國燐礦石生産高は前表中のアンガウル、ラサ、大東島の計十萬三千五百五十五噸で消費額の半を占めるに過ぎない。因に内地消費燐礦石の價額は略千八百萬圓見當と推算される。

市價推移(單位一英噸、高||高度燐礦石、低||低度燐礦石)

一月	高 三〇・〇〇	低 一九・〇〇	五月	高 三〇・五〇	低 一八・〇〇	九月	高 三〇・五〇	低 一八・〇〇
二月	三〇・〇〇	一九・〇〇	六月	三〇・五〇	一七・五〇	十月	三〇・〇〇	一八・〇〇
三月	三〇・〇〇	一九・〇〇	七月	三〇・五〇	一七・五〇	十一月	三〇・五〇	三・五〇
四月	三〇・〇〇	一八・五〇	八月	三〇・五〇	一七・五〇	十二月	三〇・〇〇	三・〇〇

十一、二月に市價の漸騰したのは産地協定が成立した爲である。

木 材

全 國	八年	三、五〇九、〇七圓	七年	三、五〇九、〇七圓
阪神兩港		二、七三三、一〇三		一七、四三三、二九

阪神兩港本年の輸入は總額二千七百七十三萬圓餘を示し、前年に比し四百二十七萬八千圓の増額を來たした。而してかく本年の輸入額が増加せる原因としては本年の圓爲替安による輸入單價の値上り及び一部外材輸入の著増に在つたものゝ如くである。

即ち農林省調査に係る本年外材の輸入状況を見ると、米材は爲替關係の不利と内地消費量の不振から對前年輸入量四六%減、ソ聯よりの沿海材、北樺太材亦同國の輸出力減退から五一、四%減を見るに至つたが唯南洋材のみは四月か

ら關稅の増徴があつたにも拘らず 近年建築及家具製作方面における本品の需要増加傾向に在る關係で本年の輸入は著増、前年より七十二%を増すに至つたといはれて居る。
尙本年の一般木材界は一般に不況状態を續け、實需は頗る貧弱だつたものゝ如くであるが、唯相場は外材高、並に價格統制により僅かに相當高位の處に止つて居たに過ぎない。

油 糟

豆 糟

全 國	八、九三、一〇五擔	三、六五、三九圓	七 年	一〇、四九〇、二四擔	二八、四七〇、八六九圓
阪神兩港	二、〇二六、九二四	七、一四六、〇九		二、〇一三、九八一	五、五三三、二四
其他 油 糟	二、一五六、八七	八、一七〇、五四		一、八六六、三六	六、二八、四五四
全 國	一、〇〇四、七〇	三、六八、四三		九九七、六七五	三、二四、四一七
阪神兩港					

阪神兩港本年の豆糟輸入は數量二百一萬七千擔弱價額七百十四萬六千圓強で前年に比し數量約三千擔、價額百六十一萬三千圓弱の増加を示したがこれが全國本年の輸入は前年より數量百四十九萬七千擔の減少、價額五百十六萬圓強を前年より減少するの珍現象を示すに至つたがこれ本邦東の大輸入港たる横濱の背後地たる養蠶地の不振による買付不良から輸入著減を見たるに因るものと思はる。

元來本邦本品の輸入に就ては東の横濱及西の阪神が二大輸入元締として相併立し來たつたのであるが、最近の養蠶界不振は漸次横濱の本品輸入力を削減するに至つて居るもので、反之阪神の地は從來其の背後地が米作を主とし養蠶は第二義的たるため生糸安の打撃も間接的なる處へ、本年は米作大增産の折柄政府の統制買上による米價の維持から農村の本品需要が活況を見たること及び最近における阪神の大豆取引市場が著しく旺盛だつた關係からの思惑的輸入

も見られたものゝ如く、結局前記阪神兩港輸入増の原因を作つたものと思はる。

尙本品供給品たる滿洲國の本品本年の輸出を見るに隣邦支那の禁止の高率關稅、日本の購買力減退、銀票高、將又獨逸の大豆輸入の防止等から頗る不安人氣を興へ輸出著減を見るに至つた。

其他油糟阪神兩港の輸入は數量百萬擔餘、價額三百六十一萬八千圓強にして前年に比し數量約七千擔、價額四十萬圓餘の増加であつたがこれ支那よりの棉子糟輸入激増を見たるに因る。

市價推移 本年豆糟市價の動きを見るに左表の如く、七年末來の高値をうけ年初一圓八十四錢豪を見たるも爾後續落六月春滿高と小麥高から年初の夫迄に回復せるも不需求期の八月に入るに及び滿洲大豆豐作並にドイツの大豆輸入防止から落勢裡に越年した。

滿洲產豆糟一枚下旬相場

一月	一、八四	二月	一、六	三月	一、六	四月	一、七	五月	一、七	六月	一、八三
七月	一、七	八月	一、六	九月	一、六	十月	一、三	十一月	一、五	十二月	一、四九

(三井銀行重要商品需給一覽表に據る)

苛性曹達(粗製)曹達灰及天然曹達

全 國	九三、〇三擔	五、三三三、七六圓	七 年	一、二四三、六四九擔	六、三五〇、〇六圓
阪神兩港	五七、一〇	三、五七、四四		七九、八三	四、六八、〇三

阪神兩港本年の輸入は數量五十七萬五千擔餘、價額三百五十一萬七千圓強にして前年に比べ數量二十二萬三千擔強價格百十萬圓餘の減少を來たした。

本品の主要供給國は英國、アフリカ及米國等にして英國よりは苛性曹達及曹達灰、アフリカよりはマカチ曹達、米國よりは苛性曹達及天然曹達の輸入を見るものであるが、最近本邦化學工業の發達に伴ひ此等諸品の需要は著しく増

加され来たつた結果國産を刺戟するに至り増産計畫の續出となり、未だ自給の域に達せずといへ輸入は自然國産不足分を補給的に行はる關係上逐年減少しつゝある、即ち本年の本邦苛性曹達生産高を商工省月報に依れば一億六百六十四萬二千担餘と前年に比し三千五百三十一萬担餘の増産となり、爲めに人絹界の活況による消費増を以てしても前途不安を感ずるに至り、生産販賣の統制が叫ばれるに至つた位であり、市況に著しき混亂を來した程である。

曹達灰亦本年の生産高二十萬一千六百六十九噸、一千六百五十五萬三千圓強を見せ前年に比し六萬六千噸、八百四十七萬四千圓の激増を示すに至り、旭硝子と日本曹達の増産計畫により自給の域に達するものと見られ居る状態に在るもので本邦曹達工業界の發達は蓋し著しきものがあるものといへるもので、従つて外品の輸入防遏も遠からずと考へらる。

漆

全	八	二四、三九擔	二、六五、八七圓	七	二二、六九擔	二、〇四三、八三圓
阪神兩港		二二、三〇五	二、五七、七五七		一九、七三三	一、八九二、七四〇

阪神兩港本年の輸入は數量二萬三千六百五擔、價額二百五十七萬七千圓強で前年度に比べ數量三千八百八十七擔、價額六十八萬五千圓弱の増加を示した。

本年の漆輸入を見るに從來輸入の五、六割を占め来たつた支那産漆は内地漆界不振のため安價にして、最近製造技術の發展し来たつた佛印産に壓迫せられ前年より稍々減少、之に反し佛印産は可成りの輸入増加を見るに至つた。

内外漆事情 内地産は逐年減少傾向で現在の年産約一萬貫、價額十八萬圓内外で本邦消費の僅に二%に過ぎずといはる。

支那産は本邦金輪再禁止後内地採算至難のため産地市價が次第に壓迫せられたこと及湖北、四川各省共產黨匪賊のため産地荒廢のため産出次第に減少を見るに至る。

佛印産は本邦の買付増加から産額次第に増加現在生産の六割を本邦へ、三割を支那へ、殘餘を國內消費に充つてゐるもので全産額二百二十萬斤見當と報ぜらる。

市價推移 年初一―四月にかけ幾分下り氣味となり八、九月良品出廻りと共に多少高騰を見十二月に入り大體年初の夫に還元した。

各百斤當品別相場

日本産 一等品	一、二、三月	七、八、九月	十、十一月、十二月
支那産 一等品	三〇〇圓	三〇〇圓	三〇〇圓
佛印産	一一〇	一一〇	一一〇

硝子板 (無色平面のもの)

厚板 (厚サ四耗以上)

全	八	一、五、五二四方米	一、六三、五〇圓	七	二、四七、二七方米	一、八五、八四三圓
阪神兩港		一、三三、一五四	一、〇九三、七五		一、七三、一八四	一、八七、六三三
其他		一、四四五、一九一	一、三四五、四三三		一、七三、八三六	一、三〇七、八二八
全	神	六、七三三	一、七、四四五		三、四九、二九八	三、六、二九七

阪神兩港本年の厚板輸入は數量十二萬三千方米餘、價額百九萬三千圓強を示し前年に比し數量において約五萬方米價額九萬三千圓強の減少であつたがこれ本年の圓爲替による輸入採算不利の事情から買控へられたものと見らる。

本品は厚サ四耗以上のものであつて、所謂特殊品として汽車、電車、ビルディング等の窓又は硝子鏡に用ひられ、自然其の需要は逐年増加の傾に在るのであるが未だ國産を以て内地需要を充し得ざるため年々英、米、白の諸國から

相當數量の輸入を見居る現状である。

其他硝子板の本年阪神兩港の輸入は前年に比し數量約二十八萬方米、價額二十萬圓餘の激減を見たるがこれ本年圓爲替安による輸入採算不利の事情もさることながら全く本邦の斯業發展による、優良國産品の供給潤澤、値段調節適切なりしたため歐洲よりの輸入の途を塞ぎたるに在る様である。

本邦板硝子界は前述の如く最近異常の發展を來たし今や特殊品の外自給自足の域に達したるのみならず本年には爲替安の好機會を捉へ、數量十三萬七千噸(一噸百平方尺入)價額百萬圓の輸出を見るに至つた程である。

内地消費につき當業者報ずる處に依ると左の通りである。

八年度	生産	輸入	計(内地消費)
	二、八六、〇〇〇圓	一、四〇、〇〇〇圓	三、〇〇、〇〇〇圓
	二、四九、〇〇〇圓	一、四三、〇〇〇圓	三、八四、〇〇〇圓

註(一噸百平方尺入) 生産は商工省調

市價推移 本年中の市價推移は並板を標準とし市場相場左の通りであつた。(建値一噸單價)

一月	七、〇〇	二月	七、〇〇	三月	七、三〇	四月	七、三〇	五月	七、四〇	六月	七、三〇
七月	七、三〇	八月	七、三〇	九月	七、五〇	十月	七、五〇	十一月	七、五〇	十二月	七、五〇

合成染料

八 年

全 國	一、六〇、三五斤	八、〇〇、三二圓
阪神兩港	一、五三、三九斤	七、八三、三五

七 年

全 國	三、二九三、二七斤	九、〇六六、四三圓
阪神兩港	二、九三、九五斤	八、五三四、七五

阪神兩港本年の輸入は數量百五十五萬三千斤餘、價額七百八十三萬二千圓強にして前年に比べ數量百四十二萬斤餘價額七十萬二千圓強の減少であつたがこれ圓爲替安による輸入採算の不利、支那市場の閉鎖、日印通商關係等による

需給關係の變化が考へらるのであるが根本的原因としては最近における本邦染料工業界の發達による國産染料の進出に在るものといへよう。

即ち最近數年間における斯業界の發達は特に目覺しきものがあつて、ある特殊品を除くの外は今や自給自足の域に達し而も最近では直接染料、塩基性染料、酸性染料等の稍高級品迄輸出を見るに至れるもので殊に本年の如きは圓爲替安の好調から支那、印度、蘭印等諸市場への輸出近年になき好調を見たといはる。

輸入染料の主要供給國は獨逸、瑞西、米國の諸國であるが内地斯業の發展から此等諸國よりの輸入は自然逐年減少傾向を辿るを普通として居る。當業者報ずる處に依ると本年本邦の染料生産高は大體七年の一萬四千噸から推して一千噸上りの一萬五千噸とくらしく此にして大體誤りなしとせば我國の消費量は國産九四、輸入六〇なる比率を得るものでかゝる比率は染料製造國中最大先進國たる獨逸、瑞西を除きては見る事が出来ないもの、如くである。

市價推移 前年度關稅引上見越による思惑買と支那市場の閉鎖、日印通商關係より生じた染料需要の變調のため一時市況不振を見たるも生産販賣の協定と統制により市價大體によく維持し得たといはる。

インデゴピュアSL、百二十封度建相場(單位圓)

一月	三三〇	二月	三三〇	三月	二九三	四月	二八七	五月	二八七	六月	二八七
七月	二八七	八月	二八七	九月	二八七	十月	二八七	十一月	二八七	十二月	二八七

毛 絲

八 年

全 國	一、三八、五〇斤	三、〇〇、九八圓
阪神兩港	一、一〇、八五一	二、六四、九四九

七 年

全 國	二、四四、七五斤	五、一三、九八圓
阪神兩港	二、一九、四三	四、五三、九五三

阪神兩港本年の輸入は數量百十萬四千斤餘、價額二百六十四萬六千圓強にして前年に比べ數量約百十萬斤、價額百九十二萬圓強の減少であつた。最近本邦毛織工業の發達に伴ひ毛糸の自給獨立は年來の希望として著々進行中であり

ために國産能力は甚しく増大を見るに至りたる結果、現今輸入を見るは主として變り織原糸、セルジス、サージ、モスリン用原糸等比較的細番手、高級品に屬するものであるが、本年は因爲替安に伴ふ輸入採算の不引合もあり、殊に製品たる毛織物が未だ國內商品の域を脱し切らない現状において、農村の疲弊はこれが内地需要を甚だしく不振に導きたるがため、輸入は前記の如き減少を見るに至つたものと思はる。

而して農村疲弊に因る毛織物の内需不振は輸入毛糸に前記打撃となつたに止らず、折角自給獨立を目指して擡頭し來たつた國産毛糸部門にも可成りの打撃を與へたものゝ如くである。

即ち本年はインフレーションの浸潤による一般消費の増加、軍需喚起見越、低爲替による輸出進展を見越してわが毛糸部門は大活躍をなした結果、商工省調査主要十會社本年の生産高は五千萬斤と前年より一割五分の増産を見るに至つたが、倉庫在荷高相當量に上り需要は増産に添はなかつたものゝ如くである。

されば本品主要供給國たる英國、ポーランドよりの輸入著減をはじめ其他歐洲諸國よりの輸入何れも本年は激減を見るに至つた。

バルブ

全	八 年	二、七〇六、三五〇圓	七 年	一、七三二、六四〇圓
阪神兩港		一、九七三、三〇〇		一、三〇四、五五五

阪神兩港本年の輸入は數量百九十九萬七千擔餘、價額二千三百三十九萬三千圓にして、前年に比し數量六十五萬六千擔餘、價額八百六十萬圓強の激増を見るに至つたが此全く本邦人絹工業が最近數年間驚異的飛躍を續け居る結果に外ならない。

蓋し本年は洋紙界好勢に因る國産バルブ供給不足案じからの輸入も相當見られたであらうが、大部分は殆ど國産を缺く人絹バルブの輸入激増に歸因したと見るべきであらう。

現在本邦における人絹バルブの總需要は年約四萬噸といはれるが、この内國産で供給出来るのは僅々この一割前後であつて殘餘は盡く輸入に俟たねばならぬといはるゝ程で年額大體二千六、七百萬圓に上るバルブ輸入の三分の二以上は實に人絹用バルブなりとされて居る。

尤も七年度から舊樺太工業惠須工場が生産開始、新王子會社が八年度さらにこれを擴張して泊居及野田兩工場で年産約二萬五千噸の生産計畫を樹立するあり又滿洲國においても人絹バルブ生産の計畫あるよしで、これらの成否については今俄かに斷言出来ないが若しうまく人絹バルブの大量供給をなし得るやうにでもなれば本邦人絹工業として原料が自給自足し得る點で大なる強味を有することゝなるわけである。

石油

全	八 年	一、三三〇、六四〇圓	七 年	一、四八八、〇七六圓
阪神兩港		三三六、八〇〇		一、五〇八、九三三

阪神兩港本年の輸入は數量二千二百六十八萬六千ガロン、價額六百三十三萬五千圓にして前年に比し數量二百八十八萬ガロンの減少なりしも、價額は却つて約三十萬圓近くの増加を見た。

尙こゝに石油とは揮發油及燈油の總稱であるが、これが各個の輸入状況を見ると左の通りである。

揮發油

全	八 年	七三三(百ガロン)	七 年	一、四三三(百ガロン)
阪神兩港		二八五		四、二五九
全	八 年	一、三三二、五五六(百ガロン)	七 年	一、四八八、七四八(百ガロン)
比量〇、八〇一七を超えざるもの				一〇九

阪神兩港

阪神兩港本年の輸入は數量二千七十二萬四千七百ガロン、價額五百三十二萬八千圓強にして前年に比し數量二百四十三萬ガロン強の減少、價額約四十五萬圓弱の増加であつた。

而してかく數量の減少せるは協定値上による需要減退並主要消費筋たる吾國自動車臺數の増加率が本年は以外に不良であつたがためであるといはれて居る。

燈油

比重〇、八七六二を超えざるもの

全 國	八 年	七 年
阪神兩港	一五三、三〇〇(百ガロン)四、六一、六三圓 一九、六一	一八五、〇九(百ガロン)五、七三、九〇圓 二二、三七一
支 那	一、〇〇六、九三七	一、一五、八五五

阪神兩港本年の輸入は數量百九十六萬一千百ガロン、價額百萬七千圓弱で前年に比し數量三十七萬六千ガロン、價額約十五萬圓の減少を見たが、蓋し本品は電力の普及とガソリン其他新分野への進出のため漸次減少を見居るもの、本年はこれに爲替安の關係もあり旁々前記の輸入減を見るに至つた。

市價推移 揮發油九月以來松方露油の輸入急激を見た結果市價暴落を來たしたために大體從來四十四、五錢を維持し居りたる標準物は全體三十錢見當と大幅の値下を見、内外各社の自己地盤擁護からの競争は激甚を見た、尙これが燈油に迄及び十二月燈油市價函四圓三十錢と年初より一圓二十錢見當の値下を見るに至つた。

貝殼

全 國	八 年	七 年
阪神兩港	三三、六四擔 一八、五九	三三、一九擔 一七、四三圓
支 那	三、八六、〇三一	二、六三、五八圓

阪神兩港本年の輸入は數量十八萬二千擔弱、價額三百八十六萬六千圓強を示し、前年に比し數量二千三百擔、價額

百二十三萬四千圓の増加を來たしたが、これ本邦輸出貝卸の比較的活況を呈したるに歸因するものと思はる。

尙近來の傾向として濠洲產高潮貝を原料とする優良品の賣行は兎角不振を極め、ために同地からの輸入は稍減少の傾きを見つゝあつた處、本年は支那產の輸入がほぼ前年と同地位にあつた處へ、輸出における有利條件もあり、ために前年に比べ著増を見るに至つたと見らる。

尙濠洲、支那を除く他諸國から輸入も同様著増を見るに至つた。

阪神國別輸入額

支 那	八 年	七 年
支 那	二二、六三擔 二七、七六	二二、六〇擔 一六、六一
濠 洲	一、五五〇、四九九	九三、六三
其 他	四、三五〇 一、三〇、九四三	四、〇五五 九七、五〇

銑鐵

全 國	八 年	七 年
阪神兩港	一〇、六〇、八五五擔 五、四六、八四二	七、四七、〇六擔 三、四九、六四八
支 那	二五、二三千圓	一三、一七三千圓
濠 洲	一三、四四三	五、六九

阪神兩港に於ける本年の輸入額は數量五百四十八萬六千擔餘、價額千三百四十四萬二千圓に激増し、前年に比し數量二百六萬七千擔餘、價額七百六十七萬三千圓の大増加であつた。

銑鐵市場は政府豫算の膨脹と各種企業の振興とに刺戟され製鋼用、鑄物用とも益々活況を呈し、昨年の我國の生産額は未曾有の記録を示したが之は主として滿洲國の需要増加と内地の軍需工業の旺盛に基くものである。然し又一般財界の好轉も大に需要の増加を喚起した。

元來我國の製銑能力は鮮滿を合して約二百萬噸であり昨年は能力一杯の仕事をしたが需要高はそれ以上で、前年に比し輸入が甚だ増加した。八年春印度銑の輸入を統制し之を激減せしめる方針であつたが他方に需要が激増した爲、

結局に於ては輸入増加となつて了つた。

全國國別輸入額

國別	八 年		七 年	
	噸	千圓	噸	千圓
滿洲國	七、五六六、六五擔	一八、一〇一、千圓	三、三四四、〇四擔	四、一七六、千圓
國東洲	三、〇〇〇	六二	一、二四〇、五四三	三、二四二
英領印度	二、八七六、六六八	五、八〇三	一、九四四、三六〇	三、〇二七
英國	四、六六二	二二六	四、九一〇、九	三、〇七
獨逸	五、五九三	元	五、一六三	三〇
瑞典	九〇、八六〇	五四一	八、六五九	三六
北米合衆國	四、三三三	三	五、一六九	三一
其他共計	一〇、六八〇、八五五	二五、二五三	七、四〇七、〇六五	二二、一七四
市價推移 銑鐵共販發表建値 (トン當り) (單位圓、河岸着現金拂) (朝日經濟年史)	一月	三・三〇	七月	四・六〇
	二月	三・三〇	八月	四・六〇
	三月	三・三〇	九月	四・六〇
	四月	三・三〇	十月	四・六〇
	五月	三・三〇	十一月	四・六〇
	六月	三・三〇	十二月	四・六〇
生産 日本銀行調査に依る各國の銑鐵生産額は	八 年	一三、三〇千英噸	七 年	八、七六千英噸
米 國		一三、三〇千英噸		八、七六千英噸
獨逸		五、一八四		三、八七〇

鐵 (條竿、アングル型)

國別	八 年	七 年
佛蘭西	六、二五	五、四五〇
英國	四、二四	三、五五三
白耳義	二、六九七	二、一五〇
露西亞	七、〇五三	六、二七五
日本	一、九〇〇	一、五〇〇
其他諸國共計	三六、五五三	四八、〇六八

全 國

年	噸	千圓
八 年	一、三四〇、八五擔	七、八三九千圓
七 年	七、四七〇	三、九六

阪神兩港に於ける本年度の輸入額は前年度に比して數量三十八萬五千擔餘、價額百六十九萬二千圓の増加であつた。關稅の増率、爲替の低落、外注コストの高騰等抜き差しならぬ重壓により七年下半年期に内容外觀共外注驅逐の成績を思はれた輸入は、八年一月に至り俄然七年十二月の二倍になつた。輸入に火をつけたものは七年八月下旬來の内地市況の狂奔であつた。

八年に至つては市況が芳しくないもので本來なれば四、五月頃には輸入も減少するのが通常であるが、尙六、七月の頃まで激増を續けたそれは一時的インフレ景氣や軍需景氣の餘波ばかりでなく、殊に機械工業、建築事業の恢復に伴ふ鐵需用の大激増、及び滿洲國の開發に伴つて同國からの買附の増加、一方に一九三五、六年の所謂國際的危機を控へて巨額の軍需豫算が計上せられる等、消費の背景に極めて力強いものがありその爲め先行を無下に悲觀せず輸入に走らしめたと見られる。八月以降減退に轉じたのは行過ぎの當然の結果である。

鐵 力 板

全 國 一、三、八、六、六擔 三、九、六、六千圓
 七 年 一、〇、七、八、三擔 三、三、四、四千圓
 阪神兩港 五、六、二、九四 九、二、八五
 四、五、三、四八 五、一、四、九
 阪神兩港に於ける本年の輸入額は數量五十七萬六千九百九十四擔、價額九百二十八萬五千圓に上り、前年に比し數量十四萬八百餘擔、價額四百十三萬六千圓の増加であつた。鉄力板は主として英吉利、獨逸、北米合衆國より輸入を仰ぎ輸入鐵類中主要な地位を占めてゐる。
 本品は貨物包装用の内匣、油脂類及罐詰の容器、玩具、器具其他あらゆる容器、包装に用ひられ鉄力消費量は文明の尺度と云はれるくらひ文化的商品である。而して我國に於ける之が製造技術も年と共に進歩發達の跡著しく、更に八幡製鐵所に於ける増産設備の着手と相俟つて著しき輸入増加を見る事無かるべきものと思惟され居りたるも、供給未だ充分ならざるに加へて、本年も石油、製鐵方面の需要増加及び軍需工業の旺盛と相俟つて一般鋼材と共に頗る活況を呈し遂に右表の如き激増を示すに至つた。

國別輸入額	八 年				七 年			
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
英 國	四、六、〇、七擔	八、一、四、九千圓	五、二、八、三擔	六、四、七、七千圓	三、九、〇、一	一、七	三、九、〇、一	一、五、〇、〇
獨 逸	三、七、七、〇〇	六、三、六、八	三、四、九、三	三、九、〇、一	三、九、〇、一	一、七	三、九、〇、一	一、五、〇、〇
伊 太 利	六、一、六、三	一、〇、八、九	九、六、四	九、六、四	九、六、四	一、七	九、六、四	一、五、〇、〇
和 國	六、六、三	一、七	四、九、七	七、九	四、九、七	七、九	四、九、七	一、五、〇、〇
北米合衆國	四、六、四、三	六、九、三	二、三、八、四	二、八、三	二、三、八、四	二、八、三	二、三、八、四	一、五、〇、〇
其他共計	一、三、一、六、八	三、九、九、六	一、〇、五、七、八	一、三、三、二	一、〇、五、七、八	一、三、三、二	一、〇、五、七、八	一、五、〇、〇
市價推移	商工省調査に依る當大阪市の卸賣相場は(一箱建)							
一月	一七・〇	二七・三	二六・六	二五・五	二五・〇	二五・五	二四・八	二四・五
七月	一五・五	一五・〇	一五・〇	一五・〇	一四・八	一四・八	一四・八	一四・五

鐵 鈹 (電鍍せざるもの)

全 國 一、四、六、八、七擔 八、六、五、三、三千圓
 七 年 三、七、三、四、四擔 三、〇、九、九、九千圓
 阪神兩港 六、三、三、三 四、六、八、五
 三、八、七、三 一、五、九、七
 阪神兩港本年の輸入額は數量八十六萬三千三百餘擔、價額四百六十八萬五千圓にして前年に比し數量六十三萬四千六百七十擔、價額三百八十八萬八千圓の増加であつた。
 本品の厚物は造船、橋梁、薄物は珐瑯鐵器等の材料として使用せられ従つて厚板の需要は海運界の盛衰等に左右せらるゝこと大である。

世界經濟恐慌は長時日を経過するも未だ解消の機運を迎へず、而してその間新しき事件は踵を接して相次ぎ、米國の金本位停止、低爲替戰の激化、ロンドン會議の決裂以來猛然として世界を風靡するに至つたブロック經濟の強化運動、關稅障壁の高度化、従つて生ずる自由通商市場の狹隘化等世界經濟は細分化傾向を招來するに至つた。然るに我國經濟界は滿洲事變後國際聯盟退等國際間の狀勢悪化に伴ひ軍備擴張工作の盛行は軍需工業を隆盛ならしめ、對外貿易は圓爲替の低落と技術の進歩と相俟つて活氣を呈し此處に特殊景氣を現出したが、邦品の世界市場への大進軍は遂に各國をして關稅障壁、輸入割當、制限等の手段で邦品輸入防遏に必死ならしめ、その間日印會商等あり眞に通商非常時を思はしめてゐる。
 而して之が輸入狀況を見るに本品をもつて主要材料とする造船業は海運界の活況、船質改善助成法實施による新造船計畫、更に日本の對外國際關係の悪化を反映して尨大なる第二海軍補充計畫等により久方振りて芽を出し、又本品を製造材料とする其他の諸産業も活潑となり、本品の需要も大に増し従つて輸入も昨年の大激減に反し著しき増加を見た。

ワイヤロッド

全 國 八 年 五、三三〇圓
 阪神兩港 三、四三三
 二、五三四

阪神兩港に於ける本年の輸入は數量三十三萬四千三百擔餘、價額二百五十二萬四千圓にして、前年に比し數量八萬三千七百四十九擔、價額百十三萬九千圓の増加であつた。

本品は主として鐵線、釘、其他木ネチ鋸等を製作する原料となつてゐるが、滿洲事變以來軍需工業頗に繁忙を加へその他臺灣、朝鮮、北海道等植民地に於ける架線工事激増のため需要を増した。尙本品の輸入は漸次遞減の一途を辿るべきものと觀られてゐたが、上述の如き狀勢の外前記鐵製品の出は圓安爲替の波に乗り激増し此處に亦ワイヤロツドの輸入を促進するの一因を作り前表の如く輸入増加を見るに至つた。

全國國別輸入額

佛 蘭 西	三、七六六擔	三、五二四圓
獨 逸	二、〇五、五三〇	一、四三三
白 耳 義	一、〇〇、八七六	六、四八
瑞 典	四、六六三	六、五四
北米合衆國	二、〇〇、九九九	一、八六六
其他共計	六、六、五三四	五、三三一
生 産 商工省調査に依る本邦生産額は		
一 月	二〇、三三三	一四、八七九
二 月	一九、七一一	一八、〇〇元
三 月	三三、一〇〇	二〇、三九九
七 年		三、九三四
八 年		三、八八三
九 月		三、五八〇
十 月		二、六、九七四
十 一 月		二、九、〇三二
十 二 月		二、七、六九〇
計		二、八、二二七
七 年		三、三、九八一
八 年		三、一、五六一
計		二〇、六七三
		二、五、七九九

錫 (塊 及 錠)

四 月	二、一、一一一	一、五、八七六
五 月	三、三、二七〇	一、八、九三三
六 月	三、三、五五〇	一、五、四四五
七 年		二、六、九七四
八 年		二、九、〇三二
計		二、七、六九〇
		二、八、二二七
		三、三、九八一
		三、一、五六一
		二〇、六七三
		二、五、七九九

全 國 八 年 五、三三〇圓
 阪神兩港 三、四三三
 二、五三四

阪神兩港に於ける本年の輸入は數量二萬四千六百六十七擔、價額四百四十七萬九千圓を見、前年に比し數量四百七擔の減少に拘らず價額百七十五萬八千圓の増加であつた。

本品は錫力板の原料であり、鉛と合金して半田を作り、青銅其他の合金は各種兵器の部分品、附屬品として軍需上缺くべからざるものである。かくの如く礦物として錫の地位は重要なものであるが我國では總需要高の中二割餘を自給してゐるに過ぎず、他は主として海峽植民地からの輸入に仰いでゐる。

錫價は國際錫制限率増大に伴ひ漸次強調を示し、市價は急騰し遂に輸入數量の減少に反し價額は増大するに至つた

全國國別輸入額

中 華 民 國	九、九六三擔	一、七、七三〇圓
香 港	九、九六三	一、七、七三〇
英 領 印 度	—	—
海 峽 植 民 地	二、九、二七〇	五、三三〇
蘭 領 印 度	八、二二八	一、七、〇六
七 年		九、一、四三三
八 年		九、〇、八八〇
計		二、八、三三
		三、一、八四
		二、三、七九
		二、八、七
		一、一、一七

北米合衆國 六六六
其他共計 五、三三七
生 産 日本銀行調査に依る各國の錫生産額は 一〇、六七一

八年

一七八
五、九五六

七年

馬來半島諸洲 三三、七六八噸
ボリビア 一四、七四六
パシフィック 一四、八一
中華民國 七、六〇〇
暹羅 一〇、三三四
ナイヂエリヤ 三、六五一
南洋群島 二、一〇〇
南阿 一、五九〇
其他諸國共計 七五三
(備考) × 見横額。暹羅へ、ブルマ、南阿、タンガイカ等ヨリノ輸入高ヲ含ム)

鉛 (塊及錠)

全 國 一、〇九、九七三擔 二、九〇、三〇〇
阪神兩港 六八、四六六 七、二五〇

七年

阪神兩港本年の輸入は數量六十八萬一千四百擔餘、價額七百二十七萬四千圓に上り、前年に比し數量十一萬一千七百六十六擔、價額百三十萬五千圓の増加を見た。本品の用途は頗る廣く鉛管或は電氣ケーブルの保護用としてまたは合金として彈丸を作り活字を製し半田鐵を作り

其他工業用材料として用ひられてゐる。鉛化合物の最大の用途及鉛の主要消費は顔料としてである。而して本品は逐年需要増加の傾向にあるも我國に於ては殆んど生産なく爲に之が補給を海外に仰いでゐる状態である。本年の輸入状況を見るに非常時の強化は軍需工業に波及して活況を呈し、同方面の消費昨年に引續き本年も相當多く、昨年に比し本年の全國に於ける輸入額は百九十二萬九千圓の増加を來した。

全 國 々 別 輸 入 額

英領印度	北米合衆國	加 奈 陀	濠 太 刺 利	其他共計
一七九、六七三擔	三、八、六四四	五三〇、二九〇	三三、八三八	一、一〇、九七三
二、一〇、三〇〇	四、〇一一	五、五三三	二、五〇〇	二、一九三
一八三、二八三擔	三、〇、六五五	三、八四、四〇九	三、一、四九九	九、九七三
一八、六七五	三、二、二五	四、二九八	三、三三	

市價推移 商工省調査に依る當大阪市の卸賣相場は(百疋建)

一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月
一八、一〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇	一八、四〇〇

生 産 日本銀行調査に依る各國の鉛生産額は

米 國	加 奈 陀	西 哥
三〇九、五七五噸	二八、七三三	一三、九三三
二七、四三三噸	二九、七三三	一三、九三三
二七、四三三噸	二九、七三三	一三、九三三

一八九

獨逸 119,185
 西班牙 114,104
 西州 243,825
 濠州 208,577
 其他共計 1,337,340
 1,265,766

アルミニウム (塊、錠及粒)

全 國 八 年 七 年
 阪神兩港 60,105擔 5,807千圓 79,833擔 5,044千圓
 5,133 5,004 59,433 3,809

阪神兩港本年の輸入は數量五萬一千四百三十六擔、價額五百萬四千圓に上り前年に比し數量八千二擔の減少に反し價額百十九萬五千圓の増加であつた。

アルミニウムはその輕さ並に酸化し易き性質の故に、現代文明に於て利用範圍を擴大し、先づ日常家庭用品より醫療器、航空機材料、自動車の材料、製鐵鋼鑄物の脫酸材、軍需工業其他各般の用途に利用範圍を擴大し、最も新進の工業用金屬として需要は激増しつゝあるにも拘らず、内地生産は殆ど皆無にして歐洲及北米より例年輸入を仰いでゐる。

前述の如く近來アルミ加工業は時代の潮流に乗つて數年間に於て異狀な發達を遂げ、而も輕合金アルミ板等は軍事上今や必須とされてゐるなど、今後原鑛需要が激増を辿るであらうと想像され、従つて本品の輸入亦増加するものと思惟さる。

尙數量の減少に反し價額の増加してゐるは、金輸出再禁止を斷行されて以來爲替相場の大暴落を來たし、インゴツト相場は暴騰は著しく本品もまた昂騰したからである。

全 國 國 別 輸 入 額

國 別	八 年	七 年
英 吉 利	5,712擔	5,622擔
佛 蘭 西	3,237	4,357
獨 逸	10,488	5,376
瑞 典	9,822	8,399
北 米 合 衆 國	71	11,454
加 奈 陀	26,522	2,547
其 他 共 計	26,105	79,833
全 國 總 計	60,105	79,833

月 別	八 年	七 年
一 月	1,831	1,861
二 月	1,861	1,781
三 月	1,861	1,781
四 月	1,861	1,781
五 月	1,861	1,781
六 月	1,861	1,781
七 月	1,861	1,781
八 月	1,861	1,781
九 月	1,861	1,781
十 月	1,861	1,781
十 一 月	1,861	1,781
十 二 月	1,861	1,781

鉛 (塊、錠及粒)

全 國 八 年 七 年
 阪神兩港 45,135擔 7,462千圓 34,809擔 4,644千圓
 3,553 5,335 26,913 3,434

阪神兩港に於ける本年の輸入は數量三十二萬五千五百一十一擔、價額五百三十七萬五千圓にして前年に比し數量五萬六千三百三十六擔、價額百九十五萬一千圓の増加を示した。

本品は平浪鐵板、針金、釘、瓦斯管等の製造原料として使用せらるゝ外、或は眞鍮、ペイント又はゴム、人絹製造等に消費され殊に最近軍需工業品としての實需其他航空機具にも相當の量を見てゐる。供給國は濠太刺利、加奈陀に

して總量の大半以上を占め米國之に次いでゐる。

本年の輸入状況を觀るに本品を以て製造原料とする商品活況を呈し、亞鉛鐵板は六月頃より逐月生産數量遞増し日支休戦による支那向輸出激増、南洋市場の在庫補充等にて好調の歩を辿り、亞鉛引鐵線亦失業救濟事業と併立し最近護岸工事への需要増加する等、本品需要増加し此處に輸入増加を見るに至つた。

全國國別輸入額

國別	八年	七年
佛領印度支那	三三、一九擔	一擔
獨逸	七、六〇	一
北米合衆國	五、〇三	三、五三
加奈陀	二四、〇〇	一八七、二六
濠太刺利	一〇、一七	二、六二八
其他共計	四三、三五	一、五九四
大阪兩港國別輸入額	七、四六一	四、六二四
北米合衆國	四九、二四擔	二五、八九擔
加奈陀	一七、六九	一〇、三〇
濠太刺利	八六、三七	一〇一、五八二
其他共計	三三、五五	二六、三五
生産 日本銀行調査に依る各國の亞鉛生産額は	八 年	七 年
米 國	三、四、六七米噸	二、三、五三米噸
加奈陀	九、六七	八六、一五

全製品

毛織物

國別	八年	七年
白耳義	一五、四四九	一〇九、一〇四
佛蘭西	六、四七	五四、三七
英國及濠洲	一〇五、八四四	八九、二四五
波蘭	九、〇六九	九三、六四〇
其他諸國共計	一、〇九七、九三	八七、一三五

全 國 八年 七、三三、〇三圓

大阪兩港 八年 四、四一、〇三圓

七年 一〇、四七、八四八圓

七年 五、五三、四〇二

阪神兩港本年の輸入は總額四百三十四萬一千圓強にして、前年に比し百二十五萬二千圓餘の減少であつた。而してかく輸入減を見るに至つた主因は本邦毛織界最近における著しき發展からの國産の猛進出竝に本年の圓爲替安による舶來品の市價昂騰から需要が國産品に向つたことに在る様である。

最近本邦毛織界の發達は目覺しきものがあり、今や羅紗、洋服用セルヂ、其他毛織物も充分内需に應じ得るのみならず進んで之を海外に進出せる有様で、設備の完備、製造技術の發達から其の製品は敢へて歐米品に遜色なき迄に至り、而も勞銀安と合理化の結果價格至廉に之を提供し得る状態として本品の輸入は殆ど之を要せざる域に在るもので、自然輸入は逐年減少を辿りつゝあり、輸入を見るは主として高級品で縞もの、變織等が多い様である。主要供給國は英國、獨逸である。

本年阪神の品種別輸入を前年の夫と比較すると左表の如くである。

阪神品種別輸入額

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
毛天鵞絨及ブラッシュ類	一九七方碼	一、二三圓	三五五方碼	一、六三圓
毛織物	三三三、八三二	一、五三、七六六	一一、二〇、七四四	三、九七、五八二
毛織物	二、八七、四四〇	二、七二、九五七	三、七三、七三三	二、四八、四五六
毛、絹及毛綿織物	五、三三七斤	三、八七一	一四、三六斤	一〇五、七四一

紡績用機械

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
全 國	三、九七擔	三、五三〇、一四圓	一四〇、三六擔	七、九八、二四圓
阪神兩港	二九、六七	三、〇四、七九三	一一、六三	五、五二、七五

阪神兩港本年の輸入は數量二萬九千二百六十七擔、價額三百一萬四千圓強にして前年に比し數量八萬一千擔、價額二百五十萬圓弱の著減を見たがこれ本年の圓爲替安による輸入採算不引合に因る買控へも考へられぬではないが主因としては最近本邦における紡績機械製造工業の發達著しきに因る優秀國産への需要が殺到せることからであらうと見らる。

即ち工業調査彙報第十二卷第十二號に依れば本年（自昭和七年七月至昭和八年六月）の本品生産高は大阪、愛知、東京、兵庫、京都の三府二縣で總額一千二百四十九萬圓強を示し前年同期に比し約三倍に相當するの多額を見たものであり、工場の操業においても各府縣とも主要工場は殆ど全能力を發揮而も尙能力不足を來たし、工場の擴張乃至設備の増設を行つた工場相當あつた模様である。

如上の諸原因から本年本品の輸入著減を見たこと前記の通りであるが、従つて主要供給國たる英、佛、獨等諸國よりの輸入は何れも前年に比し不振を見た。

金屬工及木工機械

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
全 國	八七、三三擔	一六、四七、〇九圓	二六、八五擔	五、八〇、八二圓
阪神兩港	二八、〇〇一	五、六五、一八圓	一一、四五七	二、〇三、六六七

阪神兩港本年の輸入は數量二萬八千擔、價額五百六十七萬二千圓強にして、前年に比し數量一萬六千五百擔強、價額三百五十七萬九千圓餘の激増であつた。

而してかゝる輸入の著増を見るに至つた原因は實に軍需工業並輸出工業の活況に伴ふ一般機械工場の設備充實擴張による需要の増加に在るもので、これがため本邦の工作機械工業は稀らしく繁榮を見たのであるが何分需要旺盛のため生産が之に追ひ付かず止むなく外國品を使用せる場合が相當あつたものゝ如くで、かうした事情から本年の輸入を激増せしむるに至つたものといはれて居る。

本品の供給國は英、獨、米の諸國で、本年の輸入は重量千疋以上二萬疋以内のものが主であつた。

自動車及同部分品

品名	八 年		七 年	
	数量	金額	数量	金額
全 國	一三、八七、五〇圓	一四、八二、四三圓	一四、八二、四三圓	一四、八二、四三圓
阪神兩港	四、六九、四六	五、四七、一〇一	五、四七、一〇一	五、四七、一〇一

阪神兩港本年の輸入額は四百八十六萬九千圓強にして前年に比べ六十一萬七千圓餘の減少であつたがこれ國産自動車の據頭し來たつた事、並圓爲替安による輸入品の價格騰貴のため内需の著しく阻止されたこと並最近の本邦自動車界が主要使用筋たる電機業者の兼營熱冷却、經濟路線の一順開發といふ點から大體飽和點に達したからだと思はるもので即ち内閣資源局調査による昭和八年度現在自動車數も十萬六千餘輛で前年より三分弱の増加しか來たし居らず最盛時における大正時代から昭和初期の二割臺の増加に比べると全く増加趨勢停頓の状態が窺はれ殊に乗用車において

この停頓振りが著しいことが知られる。
 本品の輸入は關稅關係から部分品としての輸入多くこれを内地工場で組立て販賣するのであるが本年の輸入は前記の如く諸事情から著減を見るに至つたがこれがため輸入組立工場は三割乃至五割の操短を見たといはる。
 阪神兩港本年輸入の内譯を見ると左の如く、各品とも前年に比し著減のあとが見られる。

阪神兩港輸入額	
自動車	三六輛 三、五七三圓
タイヤツシ	二五 二〇八、七〇〇
タイヤ	三、七四斤 一、六四八
其他	— 四、〇〇、七七一
阪神兩港計	— 四、八六九、四五六
自動車	三四輛 六、四八二圓
タイヤツシ	二九八 三二、一四五
タイヤ	一六、五三斤 一、四九、七六六
其他	— 四、六、七九〇
阪神兩港計	— 五、四八七、二〇三

大阪港輸出入品國別明細表

	輸出之部	輸入之部
第一類 植物及動物 一 七
第二類 穀物、澱粉、澱粉及種子 一 七
第三類 飲食物及煙草 二 七
第四類 皮毛角牙類同製品 九 七
第五類 油脂蠟及同製品 〇 九
第六類 藥材化學藥及爆發藥 三 八
第七類 染料顔料及塗料類 七 八
第八類 絲纒繩索及同材料 九 八
第九類 布帛及同製品 三 九
第十類 衣類及同附屬品 三 九
第十一類 紙及紙製品 三 九
第十二類 礦物及同製品 三 九
第十三類 陶磁器及硝子類 三 九
第十四類 鐵及金屬 三 九
第十五類 金屬製品 三 九
第十六類 時計、學術器、船車及機械類 三 九
第十七類 雜品 三 九

獨佛英	細	暹	比	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	其	布	漆	東	伯	玖	伊	獨	細	
12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	3	5	3	3	7	6	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

計	漆	獨	蘭	ボ	海	香	關	支	滿	其	比	蘭	關	支	滿	計	其	漆	東	中	墨	合	伊
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

支	滿	同	計	獨	暹	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	其	蘭	ボ	印	關	支	滿	ノ	コ
支	滿	同	計	獨	暹	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	其	蘭	ボ	印	關	支	滿	ノ	コ
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

ボ	海	印	香	關	支	滿	同	計	布	漆	東	獨	佛	英	暹	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	南	中
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

細	暹	比	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	其	東	阿	伯	中	佛	細	暹	比	フ	蘭
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

合	獨	ソ	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	同	計	其	布	埃	伯	玖	合	和	白	獨	佛	英
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

關	支	滿	同	計	伯	中	合	獨	細	暹	比	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	其	獨	佛
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	同	計	其	布	漆	東	獨	佛	英	暹	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	南	中
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

運比	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計
三、四七〇	五七〇	二〇五	八〇〇	一〇二	三、三六九	八、一三三	二、七四二	一、七八三	一〇、八八三	(容器共斤)
六、五〇〇	二、九一	六二	二、七七八	九〇	三、四四九	三、四八六	九、六五七	三、三	一、四三三	

伯	中	墨	合	和	白	獨	佛	英	細	暹	比	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	
二、三六	四	六	三	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	(容器共斤)
三、三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	

印	香	關	支	滿	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計
三、三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三、三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

布	伯	墨	合	細	暹	比	ソ	フ	蘭	ボ	海	印	香	關	支	滿	計	同	計	同	計
二、〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二、〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

同計 (其ノ他) (容器共斤)

滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計	清	滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計
一、五七五	三、〇〇〇	二、六三三	一、九八	七、四〇七	一、〇四〇	一、三三〇	一、二三四	八〇	二、二	五、四〇〇	九、五五五	六、六六六	六、六六六	七、四〇八	五、九八一	四、〇〇三	一、七九〇	一、六八七	二〇〇	二	二	二	二	二	二	二
三、九七	一、〇四〇	七、〇	二〇、九八一	三、三	五、七六	六、六	七、二	三、三	三、三	七、〇	一、八、八八	七、四〇八	七、四〇八	五、九八一	四、〇〇三	一、七九〇	一、六八七	二〇〇	二	二	二	二	二	二	二	二

同計 (其ノ他) (容器共斤)

蘭	ソ	獨	伊	計	麥	滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計	其ノ他ノ酒類	滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計	
一、二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二、四六三	一、二〇	二、七五	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三

同計 (其ノ他) (容器共斤)

蘭	ソ	獨	伊	計	食	滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計	其ノ他ノ食料品	滿	支	關	香	印	海	蘭	比	獨	和	濠	布	計			
一、二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一、二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

同計 (其ノ他) (容器共斤)

獨	佛	英	支	滿	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計	同	計		
一、二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一、二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大阪—輸出—③ 飲食物及煙草④ 毛皮、角、牙、甲殼類及同製品

支滿	六、三三〇	支北	八、五七二	計	一、〇九一	漆	二、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	齒	三、〇〇〇	磨	三、〇〇〇	類	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

支滿	七、五九〇	支北	二、二二〇	計	八、八一〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	其ノ他ノ調製香類	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	----------	-------

支滿	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	ガゼ脱脂綿及繻帶類	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	-----------	-------

支滿	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	其ノ他藥材、化學製藥及	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	-------------	-------

支滿	六、四〇〇	支北	九、八二〇	計	一、八〇〇	漆	二、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	爆發藥	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	-----	-------

支滿	二、四六〇	支北	一、九一〇	計	四、三七〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	染料	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	----	-------

支滿	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	顔料、塗料及填充料類	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	------------	-------

支滿	四、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	計	七、〇〇〇	漆	三、〇〇〇	弗	三、〇〇〇	東	三、〇〇〇	阿	三、〇〇〇	伯	三、〇〇〇	中	三、〇〇〇	細	三、〇〇〇	比	三、〇〇〇	フ	三、〇〇〇	蘭	三、〇〇〇	海	三、〇〇〇	印	三、〇〇〇	香	三、〇〇〇	關	三、〇〇〇	支北	三、〇〇〇	滿	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇	鉛筆(金銀ヲ用ヒタルモノヲ)	三、〇〇〇
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	---	-------	----------------	-------

大阪—輸出—⑦染料、顔料、塗料及填充料類

Table of dye, pigment, and filler exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 40,520 (哥).

Table of dye, pigment, and filler exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 4,990 (哥).

Table of dye, pigment, and filler exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 4,990 (哥).

Table of dye, pigment, and filler exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 4,990 (哥).

大阪—輸出—⑧絲織細糸及同材料

Table of silk thread and materials exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 1,990 (哥).

Table of silk thread and materials exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 1,990 (哥).

Table of silk thread and materials exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 1,990 (哥).

Table of silk thread and materials exports. Columns include destination (e.g., 支北, 支中, 支南) and values. Total for 支北 is 1,990 (哥).

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

Table with columns for regions (支北, 支中, 支南, 支東, 支西, 支南, 支北) and values for silk rope and materials. Includes sub-sections for '同(其他)' and '同(其ノ他)'.

支北	四七、六五	六、七〇〇
細	二六、六七	二、六〇〇
希	三九、八三	七、八〇〇
中米	一八、三三	四、〇〇〇
埃	四九、七一	二、七〇〇
非	一五、〇〇	二、三〇〇
計	三、三三三	四、六〇〇
同(フランネル)	一、八五八、〇三	一、八四〇、四三
滿	五九、三〇七(方碼)	一四、〇七三
支北	一五、三三三	四、一七一
中	三〇、〇〇六	九、〇〇五
關	六九、六四九	一七、七三三
香	一五、七五〇	三、八〇八
印	三二、〇二二	七、四〇六
海	一七、〇三	四、九七
蘭	一一、四八	三、六七一
細	一、八〇四	三、九七
希	一、七五五	三、九七
亞	二九、三九	六、九九一
南米	七、六六	一、六〇五
埃	四、九三	一、三三二
非	六、七七〇	一、三〇七
計	一、九三三	三、八〇〇
同(金巾)「巾二十四吋以上」	九、七四七、七三	一、二四
滿	四、九三二(方碼)	一、三三、七三

支北	一五、六〇九、三三	二、七九、〇〇
中	三、五〇〇、七〇七	二、三〇〇、六八
關	七、五六一、七三	一、三〇〇、二八
香	三、〇九〇、九二	五、四〇〇、〇〇
印	六、四四五、六六	二、四三三、五五
海	七、五〇〇、七三	一、四七五、〇九
計	三、七五	八〇三
同(其ノ他)	六、七五、七五	一、六七九、〇三
滿	一八、八五〇、五	三、五九、五
支北	一、八八、五〇	一、〇四九、四七
中	六、五三三、三三	一、〇四九、四七
關	一、〇六六、〇三	二、一〇六、〇三
香	五、六一〇、五七	九、六〇、〇九
印	八、八七、五五	一、五七四、八
海	三、〇六	五、二六九
蘭	二、八〇〇	三、三三
伊	一、五〇八、九	一、七、三六
和	九、九、五五	一〇、四四
典	五、七、三四	五、六一〇
諾	四、〇三	三、五
丁	二、〇〇〇	一、四四、一一
希	五、五、一〇〇	二、四七、二五
土	一、三、四、一七	一、三、三、四
歐	八、〇、八五	一、三、三、四
合	七、七、四	一、三、三、四
計	四、〇、〇〇	五、七、五
同(米)	二、七、六、六	四、四、三

南米	三、五、五〇	五、七、〇三
埃	一、六、九、一	二、八、四、九
東	四、〇、三、四〇	四、〇、七、六
非	一、七、三、三	六、七、八、九
計	一、一、七、五〇	三、四、三、九
同(其ノ他)	一、四、二、五	二、〇、〇、四
滿	二、七、〇、三	一、八、五、〇
支北	四、八、四、八	七、六、八、三
中	三、一、八、八	四、五、五
關	三、三、三、一	一、一、九
香	九、四、二	六、六、五
印	七、〇、一、三	一、〇、六、〇
海	三、一、五、七	四、四、〇
蘭	五、五、七、一	九、五、八、七
求	一、九、八、八	二、六、六、八
比	五、七、一、八	一、〇、六、八
暹	一、九、五、九	二、五、三、五
ア	七、三、三、四	一、三、三、三
細	四、九、三、九	一、八、五、九
佛	一、七、三、四	六、〇、七
獨	一、七、三、四	一、八、五、九
白	一、七、三、四	一、八、五、九
計	三、三、三、三	七、二、九

諾	三、五、七一	九、九、五〇
希	二、八、〇〇	三、八、〇〇
土	一、五、六一	三、〇、〇〇
歐	三、〇、一、五	三、八、八
中米	六、三、七	一、三、〇
智	二、九、四、八	五、六、八
亞	八、三、三、三	一、七、七、四
南米	一、七、六、四	二、四、八〇
埃	一、七、六、四	二、四、八〇
東	一、七、六、四	二、四、八〇
非	一、七、六、四	二、四、八〇
計	一、七、六、四	二、四、八〇
同(天竺布)	八、八、五、七(方碼)	一、五、〇、七
滿	八、八、五、七(方碼)	一、五、〇、七
支北	六、二、三	八、〇〇
中	七、六、二	一、八、一三
南	五、二、五	七、九七
香	三、一、二、五	五、三、五
印	三、一、二、五	五、三、五
海	三、一、二、五	五、三、五
計	三、一、二、五	五、三、五
同(粗布)	八、八、五、七(方碼)	一、五、〇、七
滿	八、八、五、七(方碼)	一、五、〇、七
支北	六、二、三	八、〇〇
中	七、六、二	一、八、一三
南	五、二、五	七、九七
香	三、一、二、五	五、三、五
印	三、一、二、五	五、三、五
海	三、一、二、五	五、三、五
計	三、一、二、五	五、三、五

細	一八、〇、八三	三、〇、三二
英	一七、〇、三六	三、〇、九一
佛	二、八、〇〇	六、〇四
南米	一四、〇、〇〇	二、五、九
埃	五、三、六六	九、〇、五
阿	二、四、一一	四、七、五
非	一〇、六、四二	二、三、三三
計	六、五、五六	九、三、三
同(其ノ他)	三、三、〇、七	四、五、九三
滿	二、一、一、四	四、四、三
支北	二、一、一、四	四、四、三
中	一、六、九、七	三、七、〇
關	二、七、三、九	四、三、三
香	三、四、九、一	六、六、七
印	五、三、七、一	一、九、八
海	三、三、六、二	七、四、八
蘭	二、三、六、二	七、四、八
比	一、三、三	二、一
蘭	四、四、六、五	六、六、一
比	一、五、九、九	三、五、〇
暹	三、九、一、五〇	八、八、四、八
ア	二、四、四、四	五、〇、一
細	九、五、六、三	二、七、七、四
獨	三、八、五、〇	一、五、八
英	一、六、〇〇	四、一〇
典	六、三、七	一、八、〇〇
諾	六、七、七	三、二、八
歐	一、四、七、七	五、〇、三、四

珠	九、四、五	一、八、〇三
中米	二、三、三	七、九〇
亞	一、九、四、六	三、五、八
南米	一、四、一、〇〇	三、〇、七
埃	四、八、七	五、八、九
阿	九、七、五	五、〇、一
東	二、五、一、九七	七、四、四
非	三、三、九、一	五、一、〇
計	一、九、一、二	三、〇、五、八
同(其ノ他)	一、〇、〇〇	四、五、五
滿	七、一、〇、〇〇	一、一、四、八、五
支北	二、四、九、三、七〇	四、五、五、三
關	六、三、三、五〇(方碼)	四、五、五、三
香	三、五、五、五〇	四、五、五、三
印	五、八、二、五〇	六、〇、〇、六
海	八、四、六、六	九、五、七、六
蘭	一、九、三、七、七	三、五、五、三〇
比	九、〇、九、三	一、五、七、五
暹	三、九、〇、九	七、四、七、一
ア	九、四、六、二七	七、四、七、一
細	四、四、三、八、九	七、六、八、三
獨	二、〇、九、七	四、〇、八、二
佛	一、〇、八、一、三	一、八、二、四
白	三、〇、一、六〇	三、七、八
土	一、六、七、六〇〇	三、七、八
歐	三、三、四、〇〇	一、八、五、四

北米	一、六、三、一	三、〇、三、七
中米	一、七、四、三	三、九、七、七
亞	一、九、九、八	三、七、一、三
南米	一、二、九、八	二、五、六、三
埃	九、九、〇、〇	一、八、三、五、〇
阿	三、五、五、八	六、一、〇、五
東	四、五、一、〇、三	七、〇、〇、九
非	一、〇、六、〇、一	一、八、五、六、四
計	二、六、八、一	四、二、六、七
同(其ノ他)	一、〇、〇〇	一、八、七
滿	七、一、〇、〇〇	一、三、二、四、三
支北	三、五、三、八	五、〇、六
中	六、七、七	一、一〇
關	四、一、三、九	四、六、三、四
香	三、八、五、〇	一、一、七、四
印	三、五、五、〇〇	一、〇、〇、三
海	二、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
蘭	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
埃	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
阿	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
東	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
非	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
計	一、〇、四、四、六	一、〇、〇、三
同(色木綿)	二、六、九、八、一、七	四、三、三、一

滿	三、三、八、九(方碼)	五、九、三、一
支北	四、五、〇	一、六
中	三、七、三、三	三、五、〇
關	九、五、七、七	三、五、〇、三
香	三、九、〇、〇	六、三、八
印	五、〇、九、九	五、四、六、二
海	二、〇、一、六	一、三、一、七
蘭	二、四、五、三	五、六、三、五
比	五、五、一、三	一、四、一、五
英	四、五、五、五	一、〇、五、一〇
佛	五、〇、〇〇	七、五
獨	一、三、八	三、〇〇
諾	一、六、〇〇	二、二、八
北米	一、六、〇〇	二、二、八
中米	五、四、〇〇	一、〇、九、二
亞	三、八、一〇〇	七、〇、八〇
埃	三、六、九、三〇	五、七、六、六
阿	三、六、八、三	二、五、三、六

東	七七、一五五	一六〇、五九九
弗	七三、〇八九	二二、八五五
計	一、九二九五	五、七三三
滿	二、八四〇、〇三三	六九三、三三六
同(其ノ他ノ綾木綿)	七〇、六六六(方碼)	一六、九九九
關	二、〇六三	五〇四
印	七、〇〇〇	一、八八二
中	二、四、七五五	二、三六六
智	六、三三三	一、三三三
埃	六、〇〇〇	一、三三〇
東	九、〇〇〇	二、二六六
弗	五、〇〇〇	一、二五五
計	一、五五五	五〇六
同(染細綾)	二、三三三(方碼)	四九四
滿	一、六六六(方碼)	三、六八七
支	一、二八二	三、九七八
中	六、九二五	一、四〇〇
關	二、八八〇(方碼)	四、八八三
印	二、五三三	四、八八三
香	一、四八八	二、八八〇
海	八、六九九	一、八三三
蘭	一、七六五	三、二一六
比	四、四三九	五、九〇四
暹	八、五三三	一、六二五

細	二九、五九三	五、四三六
英	一七、五三三	四、八二〇
希	一八、六四三	二、八七七
土	三三、〇〇三	四、三九九
北	六、三三三	二、三三三
中	二、七五五	五、七〇三
埃	一、五九九	三、四九一
阿	八、四七〇(方碼)	一、三三三
東	三、〇〇〇	五、五〇四
弗	六、三三三	一、四八七
計	六、三三三	四、〇八六
同(捺染細綾)	七、八七〇(方碼)	二、六七八
滿	二、〇〇〇	四、二九八
支	四、二六六	九、八三三
中	三、三三三	六、九二五
關	三、三三三	一、三三三
印	三、三三三	二、六八三
香	三、三三三	九、七三三
海	三、三三三	一、三三三
蘭	三、三三三	二、三三三
比	三、三三三	一、三三三
暹	三、三三三	一、三三三
佛	三、三三三	一、三三三

白	三三、四八八	四、六九一
希	二〇、六九四	三、九四四
土	二八、〇二七	五、三〇九
歐	一、六六六	二、五〇六
中	八、〇〇〇	一、八四〇
秘	四、六九四	二、四〇九
南	四、三三三	八、〇〇〇
阿	四、三三三	七、八八二
東	四、三三三	七、七七七
弗	一、三三三	七、一〇五
計	一、三三三	六、三三三
同(其ノ他ノ細綾)	三、三三三(方碼)	四、八五〇
滿	三、三三三	四、四一六
支	三、三三三	一、八五〇
中	三、三三三	五、五九九
關	三、三三三	一、四九五
印	三、三三三	二、〇〇〇
海	三、三三三	二、一三〇
蘭	三、三三三	二、一三〇
比	三、三三三	二、一三〇
暹	三、三三三	二、一三〇
佛	三、三三三	二、一三〇

關	二、六八三	九〇、三九九
印	二、八〇〇	九、九九九
海	三、七五五	九、九九九
蘭	一、〇〇〇	三、三三三
比	八、三三三	二、三三三
暹	二、三三三	二、三三三
同(縮)	二、三三三(方碼)	三、三三三
滿	二、三三三	七、三三三
支	二、三三三	七、三三三
中	二、三三三	七、三三三
關	二、三三三	七、三三三
印	二、三三三	七、三三三
海	二、三三三	七、三三三
蘭	二、三三三	七、三三三
比	二、三三三	七、三三三
暹	二、三三三	七、三三三
佛	二、三三三	七、三三三

希	一〇六、五三三	三〇、五五五
土	一八、七五〇	二、五九九
北	四、一六六	九、五五〇
中	三、〇〇〇	三、〇〇〇
秘	一、七〇〇	二、七二〇
南	四、九四〇	六、三九九
埃	六、六六六	一、二六六
弗	一、三九九	二、七二〇
計	六、三九九	一、〇六六
同(染フランネル)	六、三九九(方碼)	二、七二〇
滿	九、五五五	三、〇〇〇
支	一、九〇〇	一、八八二
中	八、三三三	一、九七五
關	二、六六六	二、七二〇
香	二、六六六	二、七二〇
印	二、六六六	二、七二〇
海	二、六六六	二、七二〇
蘭	二、六六六	二、七二〇
比	二、六六六	二、七二〇
暹	二、六六六	二、七二〇
佛	二、六六六	二、七二〇

東	一、四〇〇	四、五三三
弗	三、〇〇〇	五、九二五
計	一〇、一六六	一、八八二
同(捺染フランネル)	六、三九九(方碼)	一、〇六六
滿	一、三三三	四、八八二
支	一、三三三	四、八八二
中	一、三三三	四、八八二
關	一、三三三	四、八八二
印	一、三三三	四、八八二
香	一、三三三	四、八八二
海	一、三三三	四、八八二
蘭	一、三三三	四、八八二
比	一、三三三	四、八八二
暹	一、三三三	四、八八二
佛	一、三三三	四、八八二

計	一、四七四、一八四	三、五二七、三三三
同(其他ノフランネル)	三、一五五(方碼)	八、六七七
滿	一、一五五	三、〇〇〇
支	一、一五五	三、〇〇〇
中	一、一五五	三、〇〇〇
關	一、一五五	三、〇〇〇
印	一、一五五	三、〇〇〇
香	一、一五五	三、〇〇〇
海	一、一五五	三、〇〇〇
蘭	一、一五五	三、〇〇〇
比	一、一五五	三、〇〇〇
暹	一、一五五	三、〇〇〇
佛	一、一五五	三、〇〇〇

細	三、七五五	七、三三三
英	一、六六六	三、一八八
典	二、七二〇	六、〇〇〇
諾	一、八八二	四、〇〇〇
土	一、八八二	三、七二〇
歐	一、八八二	三、七二〇
北	一、八八二	三、七二〇
中	一、八八二	三、七二〇
秘	一、八八二	三、七二〇
南	一、八八二	三、七二〇
埃	一、八八二	三、七二〇
弗	一、八八二	三、七二〇
計	一、八八二	三、七二〇
同(更紗)	一、八八二(方碼)	三、七二〇
滿	一、八八二	三、七二〇
支	一、八八二	三、七二〇
中	一、八八二	三、七二〇
關	一、八八二	三、七二〇
印	一、八八二	三、七二〇
香	一、八八二	三、七二〇
海	一、八八二	三、七二〇
蘭	一、八八二	三、七二〇
比	一、八八二	三、七二〇
暹	一、八八二	三、七二〇
佛	一、八八二	三、七二〇

計	八二,〇七	一三,八六,三〇
英	三,三三	六,七五
佛	二六,一三	五,四八
白	五九,四〇	八,八〇
和	七,〇〇	一,五八
典	六,〇〇	一,〇五
希	四九,二六	九〇,四五
土	九六,六七	一四,七五
歐	二〇,八四	四,七五
北米	九七,八一	一五,六七
中米	二四九,二〇	四三,八六
秘	六四,六五	一三,〇七
智	九,六一	一,五六
南米	一七,二五	二八,二八
阿	七三,一五	一三,〇三
埃	四,五六	九三,八六
東	五,六八	一,四二
非	五,六八	一〇五,九三
計	六,九七	一三,〇七
關	四三,八七	七,九二
滿	七三,〇三	三,三九,八七
支北	八,五七	一四,九二
中	六八,三〇	一四,〇九
支北	三,七七	八,三三
關	一,〇五	二〇三,二二
香	五,六六	九,九九
印	一,五八	三,五七,九三

計	七二,七三	二〇,四四
海	二,五五,六八	四四,五八
蘭	六七,二八	一三,四六
比	六九,三三	二八,〇九
暹	一六,五〇	三〇,〇四
ア	五〇,五四	八九,二八
細	二六,六六	二二,〇七
土	三〇,〇〇	八,三〇
中米	五〇,九四	八四,六六
東	三六,一四	六七,七三
非	三三,三三	六,〇〇
計	三,五六	三,七三
滿	二〇,六三,〇五	一,八二,〇四
支北	五,九八,四六	六,三三
中	八,六三	一,三三
支北	四九,六六	九四,一〇
關	三二,〇〇	五五,〇四
印	三二,四九	一〇,〇一
海	一,九八,〇三	二八,四九
比	三,五五,七三	五,八〇,四二
暹	七〇,九一	一四,六七
白	一,二五	一,六二
希	一八,二〇	二,九八
伯	二七,四七	五,二六
計	三,八〇〇	二,九〇七
非	一七,一一〇	三,九七
計	五,三三,九二	八七,三三

計	六〇,九六,方碼	九,九九
支北	一六,五五	二,七四
中	一八,〇九	三,五四
支北	一五,六九	三,五四
關	三三,二〇	六,一七
海	五三,四四	七,七五
印	三〇,七五	四,〇四
暹	一七,九七	二,八八
東	三,五八	六,〇三
非	一四,八三	三,三九
計	八八,七三	一四,八五
滿	四六,五三,方碼	三,七,四三
支北	七,八八	二四,二八
中	四九,五一	一一,五七
支北	三三	一六四
關	一四,〇〇	三,八六
印	高,九三	一四,八五
海	一〇,五〇	四,〇三
比	七,三六	三,七五
暹	七	四
白	三,九三	一五,九八
希	五,四九	一六,〇三
和	四七,七六	二六,〇三
計	三〇,七〇	一四,九四
阿	一五,一四	五,九六
計	二,七四	一,四三

計	二,六四七	六,一八六
東	三,〇四九	一,〇五八
計	一,四四,四四	四九,七九
滿	五,七五,七五	二,八五,七九
支北	八,八六,六五	二,六三,四四
中	四,五〇,五八	一,三六,六〇
關	三,四三,三九	一,〇七,四八
印	二,三九,三三	三三,九五
海	四,四〇,六九	一,二八,五六
暹	二,六七,七一	五九,三三
東	一三,四三,九四	三,七五,二七
非	二,五二,九一	六四,九〇
計	一,七四,〇八	三,四四
支北	一,六四,九八	四九,一八
關	二,一〇〇	六九〇
印	四,九〇〇	一,一六
海	六,五八〇	一八,七四
暹	一六,八六	五,〇七
東	二,五五,〇〇	六九,五二
非	三,一八	九,五八
計	一,五七,六二	二九,五三
阿	一七,六五	四,七三
埃	八,四四,〇七	一〇七,四九
南米	七三,一六一	二〇,九五
計	五,〇三三	一三,四八
其他	四,〇八	一,四四

計	四七,〇六,一〇	一三,八六,三〇
滿	三,四三,七九	一〇,四六,〇〇
支北	一,一三,一八	三,七五,〇〇
中	一,三三,一八	四四,二〇
關	一,九九,九九	五九,〇五
印	八〇,三六	二二,九九
海	二九,八三	八二,二八
暹	二五,五五	五,四四
比	二四,〇三	三,七五
佛	九七,九五	二七,四三
計	四,七六	一,七〇
阿	一,五八,一五	四七,六六
埃	二,三三	六,六一
計	八,九四,六四	二,六三,四三
滿	八,三三,四八	三,三六,六七
支北	六,八七,〇〇	一,九六,〇九
中	三,九九,〇三	一,〇四,九三
關	一,四六,三六	三,二九,三三
印	一,六七,三八	四四,四〇
海	一,六二,五七	四,〇三
暹	三,五五,五五	九,九二
比	九七,〇六	二六,一七
英	三三,三九	二,九三
細	三,三九	九,〇六
計	二〇,二〇	六,八五

計	三,七三	一,三四八
佛	三,〇〇	七五〇
伊	五,〇〇	一,一〇
希	二〇,三三	五,四〇
土	三三,八三	四四,九三
歐	一九,三三	五,四四
阿	三,五二,〇三	七,四八
東	三三,四九	五,四五
非	二四,五九	四,二二
計	四,六六	一,一七
其他	三,三九	四,七二
計	三,七,四八,〇八	一〇,〇三,二〇
滿	五,九六,六四	二,五七,七六
支北	五,四八,四一	一,六三,三四
中	三,六二,九八	九三,〇六
關	二,五〇,二〇	七三,四三
印	一,四九,八四	四三,四〇
海	八,九三,六三	三〇,六六
暹	八,五〇,八四	二七,五七
比	二,六四,七七	二,七,五七
英	三,五五,〇六	八七,二七
佛	七〇〇	二,四一
計	四,五,五九	九,四九
希	八,七〇八	二,八四九
土	七〇,八〇〇	二,八四九

計	九,六〇〇	二,七九
歐	一八,六六	四,九三
中米	一,八七	二四〇
秘	五三,九二	一〇七,九八
阿	六,七七	一七,九八
東	一五,一四	三〇,六七
非	七,六四	二〇,六七
計	一三,〇〇	二,五八
其他	一三,〇六,五九	三,八二,一九
滿	一,三〇,三三	六,六八
支北	二,五〇,三〇	三,二二
中	一,〇四,五九	三〇,二五
關	二,四二,四一	四七,三九
印	一,四四,八四	四〇,三〇
海	四,四九,二四	一,三九,九〇
暹	一,六九,六三	四,六六,四一
比	五,〇〇,九九	一〇四,四五
英	三,三九,三三	一六,一〇,四七
佛	一,三〇,九〇	四,一四,八
計	六,〇六	三,三一
希	九,六六	二,九六
和	四,三三	一,九九
土	二〇,七四	五,三六
計	三三,五〇	六九,〇一
秘	三九,五〇	一〇,四三

計	八,五五	二,六九五
南米	四,二五	一,六三
阿	三,三三	一一,八三
東	三〇,三三	七,九五
非	五,〇三	一四,〇六
計	九,九三	三三,七一
其他	一,〇〇	三,六
滿	三,九七,三九	八,五五,二〇
支北	五,七七,四五	三,五三,九三
中	二,〇四,三三	八三,七一
關	一,三三,五八	四七,四九
印	三,五三,〇九	一,三九,四〇
海	二,三三,八四	四九,〇三
暹	八,三三,四六	二,三三,八〇
比	三,六八	一,六七,〇七
英	二,三二,六四	六,三二,五〇
佛	一,五九,二一	四三,三三
計	二,九三,九六	三〇,四九五
獨	一,六二,〇八	三〇,四九五
佛	三,七,九八	六,三二,六一
英	四,五,七三	二,六,八四
計	五,三,三三	一,一,八七
獨	五,三,三三	二,六,八四
和	九,二,三三	二,六,八四
計	四,一八	二,三,五
諸	三,七	一一〇

希	九、五八	三、二八
土	四九、七九	一〇七、五八一
葡	三、七三	九、五
歐	五、三三	一四、八三
北米	八三、七三	一五、九四
中米	一八、六六	二、八六
秘	四、四七	一五、二五
亞	二、五八	六、三九
伯	一、四九	五、九四
南米	九、五四	一、七六
埃	三、七四	一〇、〇五
阿	一九、〇九	四、一〇
東	一五、九七	五、九五
非	九四、四四	二九、五七
洋	五、八八	一、〇三
計	四〇九、〇七	二、五八
其他	一、〇三	三、六八
計	六、六二	三、九二
麻カシマス(綿入共)	五、五四(方碼)	二、四三
支北	一、〇三	六、四四
中	三、三三	四、〇三
計	九、二九	四、八五
其ノ他ノ麻織物(綿入共)	一、六三	八、四二
支北	一、〇三	二、〇五
中	一、〇三	七、八七

關	六、九七	一、九二
印	二、七	一、九二
海	一、五	一、九二
南米	四、七五	一、九二
計	一八、〇三	一、九二
モスリン(綿入共)	四、三九(方碼)	二、四三
支北	六、七四	二、九六
中	一、三三	八、〇三
計	八、〇七	一、〇三
羅紗及セルヂス(綿入共)	七、八二(方碼)	二、八六
支北	三、八二	二、七五
中	七、五二	二、八六
計	一一、三四	二、八六
海	三、八二	二、八六
印	一、〇三	二、八六
香	二、八六	二、八六
關	二、八六	二、八六
計	三、八二	二、八六

蘭	一、四七	一、六八
比	三、二六	一、六八
暹	三、〇八	一、六八
英	九、四三	一、六八
埃	一、八四	一、六八
東	四、〇七	一、六八
非	二、〇四	一、六八
計	五、二〇	一、六八
其ノ他ノ毛織物(綿入共)	五、五五(方碼)	一、六八
支北	三、〇三	一、六八
中	二、一七	一、六八
計	五、二〇	一、六八
甲	二、〇三	一、六八
計	二、〇三	一、六八
斐	二、〇三	一、六八
絹	二、〇三	一、六八

滿	二、三〇	二、三〇
支北	一、五九	二、三〇
關	五、九	二、三〇
海	三、六	二、三〇
計	二、八六	二、三〇
緞	二、八六	二、三〇
支北	一、八四	二、三〇
中	一、〇二	二、三〇
計	二、八六	二、三〇
琥珀織及ボプリン	一、六九(方碼)	二、三〇
支北	一、〇三	二、三〇
中	一、〇三	二、三〇
計	二、〇六	二、三〇
富士絹類	四、三〇(方碼)	二、三〇
支北	一、〇三	二、三〇
中	一、〇三	二、三〇

關	四、七〇	二、七六
印	五、五七	三、七三
海	四、八三	四、八三
南米	二、〇三	一、九二
計	一六、〇三	一、九二
縮	六、〇〇	七、三九
計	一〇、〇三	九、二七
支北	一、〇三	七、〇一
中	一、〇三	二、四四
計	二、〇六	九、四一
其ノ他ノ絹織物(綿入)	四、〇七(方碼)	四、九七
支北	一、〇三	一、九二
中	一、〇三	一、九二
計	二、〇六	三、八四
東	一、三三	四、一七
南米	一、三三	四、一七
計	二、六六	八、三一
其ノ他ノ絹織物(綿入)	四、〇七	四、一七
支北	一、〇三	一、九二
中	一、〇三	一、九二
計	二、〇六	三、八四

滿	三、二四	一、九二
支北	一、九二	一、九二
中	一、九二	一、九二
計	三、八四	一、九二
人絹羽二重(交織共)	三、三〇(斤)	九、二五
支北	一、〇三	二、二二
中	一、〇三	二、二二
計	二、〇六	四、四四
人絹琥珀織及ボプリン(交織共)	七、九三	一、九二
支北	一、〇三	一、九二
中	一、〇三	一、九二
計	二、〇六	三、八四

滿	六、九四(方碼)	三、二五
支北	一、〇三	三、二五
中	一、〇三	三、二五
計	二、〇六	六、五〇
人絹縞子(交織共)	六、〇七(方碼)	六、五〇
支北	一、〇三	五、四七
中	一、〇三	五、四七
計	二、〇六	一〇、九四
關	四、九四	一、九二
支北	一、〇三	一、九二
中	一、〇三	一、九二
計	二、〇六	三、八四

香	一、三三	二、三〇
印	一、三三	二、三〇
海	一、三三	二、三〇
南米	一、三三	二、三〇
計	四、三三	九、二〇
人絹縮緬及壁織(交織共)	九、三三(方碼)	七、〇九
支北	一、〇三	六、〇六
中	一、〇三	六、〇六
計	二、〇六	八、一二
東	一、三三	九、四五
南米	一、三三	九、四五
計	二、六六	一二、一〇
其他	二、九二	一、九二
計	五、五八	一、九二
支北	一、〇三	一、九二
中	一、〇三	一、九二
計	二、〇六	三、八四

蘭	496
比	580
英	100
佛	300
阿	1,243
東	18
其他	1
計	2,600
模造パナマ帽子	2,600
支北	1,053
中	7
關	4,588
印	33
海	18
蘭	1,851
比	237
阿	279
東	279
其他	3
計	1,870
其ノ他ノ帽子	1,870
支北	4,771
中	300
關	1,496
印	33
海	1,554
蘭	28,588
比	4,488
英	1,870
佛	300
阿	18
東	18
其他	1
計	44,880

蘭	2,839
比	2
英	800
佛	300
阿	1,243
東	18
其他	1
計	5,403
メリヤス手袋	5,403
支北	4,904
中	15,566
關	4,359
印	26,191
海	50
蘭	777
比	101
阿	118
東	118
其他	1
計	49,300
同	1,110
支北	3,204
中	5,500
關	7,900
印	2,900
海	777
蘭	1,101
比	8
阿	777
東	777
其他	1
計	29,300
阿	1,800
伯	4
合	500
和	4,375
英	1,200
細	2,800
暹	2,800
比	2,800
蘭	2,800
ボ	1,101
海	1,101
印	1,101
香	1,101
關	1,101
支北	1,101
中	1,101
計	1,800

東	58
弗	1,643
布	199
計	1,900
メリヤス靴下(絹製)	1,900
支中	77
支北	2,268
關	8
印	1,496
海	100
蘭	2,268
比	2,268
阿	2,268
東	2,268
其他	1
計	11,000
同	1,100
支北	6,800
中	1,100
關	1,100
印	1,100
海	1,100
蘭	1,100
比	1,100
阿	1,100
東	1,100
其他	1
計	11,000
南	1,100
米	1,100
和	1,100
細	1,100
蘭	1,100
海	1,100
印	1,100
香	1,100
關	1,100
支北	1,100
中	1,100
計	11,000
同	1,100
支北	1,100
中	1,100
關	1,100
印	1,100
海	1,100
蘭	1,100
比	1,100
阿	1,100
東	1,100
其他	1
計	11,000
蘭	1,100
ボ	1,100
海	1,100
印	1,100
香	1,100
關	1,100
支北	1,100
中	1,100
計	11,000

蘭	600
比	3,000
英	2,500
佛	7,500
阿	1,000
東	7,500
其他	7,500
計	24,800
靴(皮製)	24,800
支北	14,800
中	4,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	24,800
同	24,800
支北	14,800
中	4,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	24,800

蘭	5,500
比	8,400
英	1,900
佛	6,700
阿	2,200
東	2,200
其他	2,200
計	24,800
支北	14,800
中	4,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	24,800
同	24,800
支北	14,800
中	4,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	24,800

新	400
計	3,800
支北	6,800
中	1,100
關	1,100
印	1,100
海	1,100
蘭	1,100
比	1,100
阿	1,100
東	1,100
其他	1
計	11,000
同	1,100
支北	1,100
中	1,100
關	1,100
印	1,100
海	1,100
蘭	1,100
比	1,100
阿	1,100
東	1,100
其他	1
計	11,000
同	1,100
支北	1,100
中	1,100
關	1,100
印	1,100
海	1,100
蘭	1,100
比	1,100
阿	1,100
東	1,100
其他	1
計	11,000

蘭	1,700
比	1,800
英	1,000
佛	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,500
支北	3,500
中	1,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,500
同	6,500
支北	3,500
中	1,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,500

蘭	1,000
比	1,000
英	1,000
佛	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,000
支北	3,000
中	1,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,000
同	6,000
支北	3,000
中	1,000
關	1,000
印	1,000
海	1,000
蘭	1,000
比	1,000
阿	1,000
東	1,000
其他	1
計	6,000

靴紐(絹製)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

靴紐(金屬製)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

同(其他)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

同(貝製)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

同(其他)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

人造眞珠(硝子製)												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

七ルロイ下櫛												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

其ノ他ノ身邊粧飾用品												
支北	滿中	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中	支北	計	滿中
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000
1,300,000	88,570,000	89,870,000	2,500,000	1,500,000	4,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000

Table with 16 columns: 海米, 蘭米, 比米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米. Values range from 15,264 to 155,354.

Table with 16 columns: 布, 其他, 計, 印刷, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南. Values range from 1 to 1,569,441.

Table with 16 columns: 海米, 蘭米, 比米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米, 暹羅米. Values range from 1 to 2,444.

Table with 16 columns: 南, 關, 香, 印, 海, 求, 蘭, 比, 計, 半紙及美濃紙, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南. Values range from 1 to 2,352.

Table with 16 columns: 伊和, 白米, 英米, 獨米, 佛米, 英米, 佛米, 英米, 佛米, 英米, 佛米, 英米, 佛米, 英米, 佛米, 英米. Values range from 1 to 3,000.

Table with 16 columns: 細英, 佛米, 白米, 伊和, 埃及, 東非, 弗米, 新米, 計, 其他, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南. Values range from 1 to 2,777.

Table with 16 columns: 暹羅米, 細英, 佛米, 白米, 伊和, 埃及, 東非, 弗米, 新米, 計, 其他, 支北, 支中, 支南, 支北, 支中, 支南. Values range from 1 to 2,056.

Table with 16 columns: 細英, 獨米, 白米, 佛米, 英米, 獨米, 佛米, 英米, 獨米, 佛米, 英米, 獨米, 佛米, 英米, 獨米, 佛米. Values range from 1 to 3,566.

伯	埃	阿	東	弗	漆	布	其他	計	屑紙(古新聞ヲ含ム)	滿	支	關	印	海	北	中	南	香
三	100	3元	1,035	11	200	200	395,609	10,037	3,194(百斤)	10,957	1,957	1,957	1,957	1,957	1,957	1,957	1,957	1,957

印	海	北	關	比	邁	ア	佛	典	西	希	合	伯	阿	東	漆	布	計	石綿及同製品	滿	支	關	印	香
3,017	1,177	500	500	9,333	7,841	4,673	2,951	100	100	2,951	1,121	850	1,121	1,121	1,121	1,121	5,375	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781

海	北	關	比	邁	ア	佛	典	西	希	合	伯	阿	東	弗	漆	布	計	石	中	邁	比	關	海	印	香
2,753	21	310	310	6,408	5,302	2,877	3,360(百斤)	9,600	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	10,400	9,947(百斤)	6,956	1,011	1,011	1,011	1,011	1,011	

ア	邁	比	關	海	印	香	關	支	滿	計	其他	布	弗	東	阿	埃	秘	合	細	邁	比	關	海	印	香
1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413	1,413

英	佛	獨	白	和	典	丁	歐	合	秘	智	亞	伯	埃	阿	東	弗	漆	新	其他	計	陶	磁	器	關	支	滿	南	香
27,420	8,821	15,491	7,521	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491	15,491

海	北	關	比	邁	ア	佛	典	西	希	合	伯	阿	東	弗	漆	布	計	硝子類	關	支	滿	南	香					
1,607	7,277	533	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607

布	硝	子	類	關	支	滿	計	新	弗	東	阿	埃	伯	亞	印	海	北	關	比	邁	ア	佛	典	西	希	合	伯	阿	東	弗	漆	新	其他	計	硝	子	類
9,600	5,375	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	1,781	

ア	邁	比	關	海	印	香	關	支	滿	計	其他	布	弗	東	阿	埃	秘	合	細	邁	比	關	海	印	香
2,753	21	310	310	6,408	5,302	2,877	3,360(百斤)	9,600	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	1,344	